

山 梨 県 北 杜 市

KAMIJŌMIYAKUBO—SITE

上条宮久保遺跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2005

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

山 梨 県 北 杜 市

KAMIJŌMIYAKUBO—SITE

上条宮久保遺跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2005

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

例　　言

凡　　例

1. 本書は、2003(平成15)年度に実施した山梨県北杜市長坂町上条字宮久保地内に所在する上条宮久保遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う事前調査であり、山梨県狭北地域振興局農務部より委託を受けて旧長坂町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆・編集は、村松佳幸(北杜市教育委員会・長坂郷土資料館担当兼文化財担当)が行った。
4. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託した。
基準点測量・空中写真測量 (㈱シン技術コンサル
石器実測・分析 (㈱)アルカ
一部の土器実測・トレース
樹松風 実測部門ツールアート
5. 遺構の写真撮影は長谷川誠(旧長坂町教育委員会学芸員)が、遺物の写真撮影は村松がそれぞれ行った。
6. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、北杜市教育委員会に保管している。
7. 発掘調査および報告書作成にあたっては、多くの方々に多大なご指導、ご教示を賜った。ここに深く感謝の意を表します。

1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。
遺構 調査区全体図 : 1/400
竪穴住居跡 : 1/60
　　炉跡・埋甕・土坑・集石土坑 : 1/30
遺物 織文土器 : 1/4
　　石器 : 2/3・1/2・1/3
2. 遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。
　　焼土 ■■■■■
3. 遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。
4. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
5. 第1図は、国土地理院発行1/200,000地勢図「甲府」(昭和55年編集 平成10年修正)を基に作成した。
6. 第2図は、国土地理院発行1/50,000地形図「蘆崎」・「八ヶ岳」(昭和51年編集 平成2年修正)を基に作成した。
7. 第3図は、株式会社写測2000年調製、1/25,000長坂町全図(国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの)を基に作成した。
8. 第4・5図は、国際航業株式会社1994年調製1999年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。
9. 第7図調査区全体図にあるグリッドの主な基準点の座標は下記のとおりである。
A 1 X座標 -19,750.0 / Y座標 -11,440.0
A 10 X座標 -19,750.0 / Y座標 -11,350.0
F 1 X座標 -19,700.0 / Y座標 -11,440.0
F 10 X座標 -19,700.0 / Y座標 -11,350.0
(X座標は南北方向、Y座標は東西方向の値)

目 次

例言・凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経緯と概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の概要	1
3. 発掘調査組織	1
第2章 遺跡周辺の環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	2
第3章 発見された遺構と遺物	2
1. 基本層序	2
2. 住居跡	2
3. 集石土坑	5
4. 星外埋甕	5
5. 土坑	5
6. 売	6
7. 遺構外出土遺物	6
第4章 石器分析	
1. 上条宮久保遺跡の出土石器について	53
2. 黒曜石製石器産地分析	57
第5章 調査の成果と課題	77
参考文献	84

表 目 次

第1表 長坂町遺跡地名表	8
第2表 住居内ピット一覧表	46
第3表 土坑一覧表	46
第4表 遺物観察表	47
第5表 1号集石出土砾一覧表	50
第6表 1号集石出土石器一覧表	51
第7表 遺構別出土土器内訳表	52
表1 黒曜石製以外の器種構成	67
表2 黒曜石製の器種構成	67
表3 黒曜石製以外の石器石材組成	67
表4 黒曜石製以外の素材剥片	68
表5 黒曜石製の素材剥片	68
表6 黒曜石製石器観察表	68
表7 黒曜石製以外の石器観察表	71
表8 黒曜石製石器産地推定結果	73
表9 上条宮久保遺跡出土黒曜石産地組成	76

挿 図 目 次

第1図 八ヶ岳南麓主要遺跡分布図(1/200,000)	7
第2図 上条宮久保遺跡周辺主要遺跡分布図(1/50,000)	7
第3図 周辺遺跡分布図(1/25,000)	8
第4図 上条宮久保遺跡周辺遺跡分布図(1/12,500)	9
第5図 調査区位置図①(1/5,000)	10
第6図 調査区位置図②(1/1,000)	10
第7図 調査区全体図(1/400)	11
第8図 1号住居跡	12
第9図 1号住居跡・埋甕	13
第10図 2・6号住居跡	14
第11図 2・6号住居跡	15
第12図 3号住居跡	16
第13図 3号住居跡、1・2号埋甕、ピット13	17
第14図 4号住居跡・同炉跡	18
第15図 5号住居跡・同炉跡、4号土坑	19
第16図 8・9号土坑、1号集石、1号屋外埋甕	20
第17図 1号住出土土器①	21
第18図 1号住出土土器②	22
第19図 1号住出土土器③	23
第20図 2号住出土土器①	24
第21図 2号住出土土器②	25
第22図 3号住出土土器①	26
第23図 3号住出土土器②	27
第24図 3号住出土土器③	28
第25図 3号住出土土器④	29
第26図 4号住出土土器①	30
第27図 4号住山土器②	31
第28図 4号住③・6号住出土土器	32
第29図 5号住出土土器①	33
第30図 5号住山土器②	34
第31図 5号住出土土器③	35
第32図 4号土坑出土土器	36
第33図 8・9・15・18号土坑出土土器	37
第34図 11・17号土坑、1号屋外埋甕、1号集石、 遺構外①出土土器	38
第35図 遺構外出土土器②	39
第36図 土偶・土製品他	40
第37図 調査区遺物分布図(1/600)	40
第38図 1号住遺物分布図	41
第39図 2・6号住遺物分布図	42
第40図 3号住遺物分布図	43
第41図 4号住遺物分布図	44
第42図 5号住他遺物分布図	45

第43図	遺構変遷図①	80
第44図	遺構変遷図②	81
第45図	縄文中期後半の土器変遷図①	82
第46図	縄文中期後半の土器変遷図②	83
図1	井戸尻式期住居跡出土石器	58
図2	曾利式期住居跡出土石器	59
図3	石器の使用痕①	60
図4	石器の使用痕②	61
図5	石器の使用痕③	62
図6	石器の使用痕④	63
図7	石器の使用痕⑤	64
図8	石器の使用痕⑥	65
図9	石器の使用痕⑦	66
図10	黒曜石産地推定判別図	76

写 真 図 版

- 図版1 調査区全景(東から)、調査区全景(真上から)
- 図版2 1号住居跡、1号住炉跡、1号住埋甕、1号住
遺物出土状況、2・6号住居跡、2号住ビット
10、6号住遺物出土状況、3号住居跡
- 図版3 3号住炉跡、3号住遺物出土状況①・②、
3号住埋甕、3号住1号埋甕①・②、
3号住2号埋甕①・②
- 図版4 4号住居跡、4号住炉跡、5号住居跡、
5号住炉跡、5号住遺物出土状況①～④
- 図版5 屋外埋甕、4号土坑遺物出土状況①・②、
4号土坑発土状況、8号土坑遺物出土状況、
11号土坑遺物出土状況、1号集石、
1号集石底部
- 図版6 出出土器①
- 図版7 出出土器②
- 図版8 出出土器③
- 図版9 出出土器④
- 図版10 出出土器⑤
- 図版11 出出土器⑥
- 図版12 出出土器⑦
- 図版13 1号住居跡出土石器①・②
- 図版14 2号住居跡出土石器、3号住居跡出土石器
- 図版15 4号住居跡出土石器、5号住居跡出土石器
- 図版16 2・3号住居跡出土石器、
4・5号住居跡出土石器
- 図版17 6号住居跡出土石器、
6号住居跡と土坑出土石器
- 図版18 遺構外出土石器①・②
- 図版19 遺構外出土石器③・④

第1章 調査の経緯と概要

1. 調査に至る経緯

山梨県は、八ヶ岳南麓において南北に走る国道や地方主要道路を東西に結び、地域間の連絡・連携を強化するために中山間活性化ふれあい支援農道の整備を計画した。それは農産物及び畜産飼料などの流通・輸送を合理化し、地域の農業や酪農の振興を促進するためでもあり、事業の推進が急がれた。

2000(平成12)年、長坂町産業課(当時)を通じ長坂町教育委員会(当時)に、工事施工区間内の埋蔵文化財包蔵地有無の照会があり、その該当箇所を回答した。しかし、包蔵地以外にも遺跡が存在する可能性が高いので、優先箇所から順次試掘調査を実施することとなった。

2002(平成14)年10月に長坂上条地内において試掘調査を行い、その結果土宮久保地内に新たに遺跡が発見され、その遺跡を「上条宮久保遺跡」として登録した。そして、山梨県北地域振興局農務部、町産業課、町教育委員会が同遺跡内の施工箇所について協議し、掘削により遺跡が破壊されるため、発掘調査を実施することになった。

2003(平成15)年9月に北地域振興局農務部より埋蔵文化財発掘の通知が提出された。発掘調査は町直営で行い、同年11月17日から翌2004(平成16)年2月13日までの約3ヶ月を要した。整理作業は2004(平成16)年4月1日より開始し、2005(平成17)年3月31日に終了した。その間、2004(平成16)年11月1日に長坂町は周辺6町村と合併して「北杜市」となり、本遺跡の整理作業は北杜市教育委員会に引き継がれた。

2. 調査の概要

本遺跡内における今回の調査面積は約1,209m²である。農道整備に伴う調査のため調査区は東西約95m、南北に約10~15mと東西に細長い形をしている。

調査区は、基準点測量を行い、この点に基づき、調査区の南西側に原点を設け、そこから10m四方のグリッドを設定した。西から東に1~10、南から北へA~Fとグリッド名をつけた。

表土層は堆積が薄く、樹木の切り株が多かったため重機による表土の剥ぎ取りは行わず、人力で遺構確認面まで掘削した。その後丁寧に精査し、遺構の確認を行った。遺物は出土原位置で光波測距儀による記録・取り上げ作業をし、必要なものは簡易造り方による手実測で図化していく。遺構内の遺物については、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面図・遺構平面図を平板測量や簡易造り方による手実測、または光波測距儀により図化した。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査後は続けて整理事業に入り、2005(平成17)年3月に終了した。

発見された遺構は、縄文時代中期中葉～後葉の竪穴住居跡6軒、集石土坑1基、屋外埋甕1基、土坑10基、時期不明の溝1条などである。

3. 発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

《～平成16年10月31日》

事業主体 長坂町教育委員会

事務局 教育長 小尾草臣(兼教育課長事務取扱)

社会教育係長 奥石君夫

発掘担当 長谷川誠(教育委員会 学芸員)

《平成16年11月1日～》

事業主体 北杜市教育委員会

事務局 教育長 藤巻宜夫・小清水淳三

教育次長 小池光和

生涯学習課長 伏見武仁

整理担当 村松佳幸

(長坂郷土資料館担当兼文化財担当)

発掘作業員 秋山かつゑ 大柴富子 小尾トヨ子

小林敏恵 小林 裕 小林立枝 清水純代

清井義雄 名取初子 畑 梅子 渡辺早月

矢ヶ崎健三

整理作業員 有野明子 石川昭江 井出仁美 井出由美

小林 裕 小林立枝 小林敏恵 清井義雄

清井ゆき枝 日向豊茂子

第2章 遺跡周辺の環境

1. 地理的環境

本遺跡は山梨県北杜市長坂町長坂上条土宮久保に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町である。八ヶ岳の噴火活動により山体が崩壊する際に流れた苗崎岩屑流によって形成された台地上に位置する。長坂町は地理的には山岳地帯の急峻な北部と大深沢川などの浸食作用による谷形成の盛んな南西部、広い平坦面が広がる東部の3つに分けられる。本遺跡は長坂上条地区にあり、同地区は長坂町の南半中央部に位置し、谷形成の盛んな南西部にあたる。中小河川により小規模な谷と台地が入り組んだように形成され、本遺跡はこうした台地上に位置するが、最上部の平坦地ではなく、南側の傾斜面にできたテラス状の緩傾斜地に立地している。

調査区西側の台地上部には試掘調査の結果、遺物・遺構は発見されなかった。西側の長坂中学校南側の傾斜面からは数点石器が出土しただけで遺構は確認できなかつた。よって調査区の南北方向に延びる緩傾斜地に遺跡が展開していると思われるが、調査区の南側はJ A 梨北長坂育苗センターがあり既に掘削されてしまっている。

2. 歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の濃い地域である。その中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに211ヶ所の遺跡が確認されている。上条宮久保遺跡の立地する長坂上条地区も遺跡が数多く存在し、長坂町内でも遺跡の分布が濃い地域である。

本遺跡の南西約500m離れた所に長坂上条遺跡と酒呑場遺跡がある。長坂上条遺跡は、1941(昭和16)年史前学研究所の大山柏氏を中心に山梨県の考古学史上初期の学術調査が行われた遺跡として有名である(大山柏他1941)。縄文時代後晩期の配石墓群が発見され、弥生時代の遺物も出土している。また、近年の個人住宅建設に伴う発掘調査では、古墳時代・平安時代の集落跡も確認されている(小宮川1997)。

酒呑場遺跡は現在山梨県酪農試験場地内にあり、縄文時代前期から後期にかけての大集落跡である。1994(平成6)～1996(平成8)・2001(平成13)年に山梨県教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代前期～後期の住居跡200軒以上が発見されている(野代1997、保坂1997・1998、保坂他2003、小宮山1996)。遺物も、縄文時代中期を主体として早期から後期までの土器・石器が整理箱約1,400箱分にものぼり、極めて多量の遺物が出土している。中でも漆塗りの土器片、ヒスイ原石および埴輪、土偶、H状耳飾、鉢の痕状垂飾、男根の形をした棒状土器品、土製蓋等が出土し、遺物の内容も豊富である。それと合わせて古墳時代前期の集落も発見されている。

長坂上条遺跡と酒呑場遺跡は台地の上と下の関係で位置しており、縄文時代の中期までは台地上の平坦部に集落を構え、後期以降になると台地の下の低地へ集落を移していくと考えられる。

本遺跡から東へ約300m離れた所に蟻塚遺跡がある。蟻塚遺跡は台地から陥りた低地にあり、古墳時代の竪穴住居跡3軒、平安時代の竪穴住居跡6軒が発見された(長谷川2004)。縄文時代の土器片も前期から後期にかけて出土しているが、後期の土器が多いようである。また、東へ約800m離れた別の台地上には、段道遺跡がある。段道遺跡は縄文時代中期後半曾利式期の住居跡6軒、配石遺構1基、屋外埋甕1基などが発見されている(長谷川2004)。

本遺跡周辺には、縄文時代・古墳時代・平安時代の集落跡が数多く、特に縄文時代中期後半の調査例が増えている。本遺跡との関連を考える上で貴重な資料である。

第3章 発見された遺構と遺物

住居跡以外の各遺構は一覧表にまとめてあるので、そちらを参照されたい。ここでは概略を述べるに留める。

1. 基本層序

表土が約10cm堆積しており、その下に褐色土が約10～20cm堆積し、その下に淡い黄褐色土の地山がある。遺構覆土は褐色土が多く、地山の色調と似ていたため遺構の輪郭を把握するのに時間を要した。

2. 住居跡

1号住居跡(第8・9図)

(位置) 調査区東側、B-8・9、C-8・9グリッドに位置する。

(復元) 山土遺物から、曾利IV式期の住居跡と重複している可能性がある。

(形状) 円形である。

(規模) 長軸8.30m、短軸7.90m、深さ1.09mである。

(床面) 炉跡とは別に中央やや西寄りに焼土跡がある。硬化面は確認できなかった。西側の床面がやや下がっていた。

(施設) 中央やや北寄りに炉跡と思われる焼土跡がある。3辺に壁みが確認できたので石圓炉であった可能性が高い。中央やや西寄りに焼土跡がある。埋甕が住居跡南側より出土している。主柱穴はピット1～6の6本である。(遺物) 第17～19図。Iは埋甕である。曾利II式で縄文地紋に2単位の垂下沈線と縦位波状沈線を施している。底部のみで上半部は欠損している。2も曾利II式で、口縁部に渦巻つなぎ弧文があり、弧内の区画には沈線が充填されている。地紋は結節縄文であるが、結節は縄文を施した後に単独で施されている。3も曾利II式で、縄文地紋で脇部のくびれ部に2単位の弧文が施され、波頂部から波状沈線を引いている。

10は口縁部に弧線文が連続し、弧線文内の区画には刺突文が充填されている。脇部は無紋で、胴下半部にはコの字状の区画と逆U字文が沈線で施されている。曾利II式である。16は、壺型の土器で、上半部に沈線で円文等が施されている。曾利III式であろう。17は口縁部に斜行文をもつ土器である。脇部に隆線で区画され、脇部には隆線でW字状および縦位波状沈線をつけている。口縁部の斜行文はやや深くつけられているが、脇部の条線は木端でつけられたところと2本単位の条線がつけられているところに分けられる。曾利III式であろう。

21は曾利IV式で、口縁部に弧線が隆線で施され、その脇を指ナデされている。条線地紋で指ナデによる縦位波状沈線がつけられる。22はささら状の工具で斜位に条線をつけている。

25は曾利IV式で口縁部直下に1本の沈線があり、その

下をコの字状に区画され綾杉文が施された後、縦位波状沈線をついている。胴下半部がきれいに欠けている。27は浅鉢形の土器であり、口縁部と副部下半が無文、胴部上半部に隆線による方形区画があり、その中を条線で充填している。隆線の協は指ナデされている。曾利IV式であろう。

28は条線地紋で、沈線による区画とその間に燕子状文が、地紋上に縦位波状沈線がそれぞれ施されている。口縁部と底部は欠損している。曾利IV式であろう。29は沈線による区画の間に楕円文が施され、その上に間隔の広い縦位波状沈線がつけられている。口縁部と底部は欠損している。加曾利E III式であろう。31はコの字状区画の中に櫛齒状の工具による崩れた綾杉文が施される。器形は口縁部に向かってほぼ直線的に広がっている。曾利V式であろう。

32は口縁部に2本の弧線文があり、その間に2本沈線を垂下し区画している。地紋は同・方向のハの字状文である。曾利V式である。41は波状口縁で波頂部に円文を、口唇部に沈線を施している。井戸尻式であろう。

第36図3・4の土偶の腕や9の土製品が出土している。(遺物出土状況)第38図。覆土中から曾利II・IV式期の土器が大量に出土している。住居跡西半分からの出土が多い。(時期)埋甕より曾利II式新段階と思われる。

(備考)最初に推定していた範囲よりもかなり大きくなり長径7mほどの住居となつた。埋甕は調査当初屋外埋甕としていたが、その後住居内のものと判断したので、1号作の埋甕とした。

床面に炉跡と焼十跡が検出されていることから、もしかすると曾利II式期と曾利IV式期の2軒の住居跡が重複しているとも考えられる。西側の床面がやや下がっていたこともあり、その可能性もある。しかし、土層断面の観察からはそれを確認できなかった。

2号住居跡(第10・11図)

(位置)調査区東側、B-7、C-7グリッドに位置する。(重複)6号住に切られている。

(形状)円形である。

(規模)長軸6.93m、残存短軸6.00m、深さ1.42mである。

(床面)炉のやや北側に焼土跡がある。硬化面は確認できなかつた。

(施設)住居跡中央に炉跡と思われる焼土跡がある。掘り方が深く石圓炉の可能性が高い。それとは別に炉のやや北側に焼土跡がもう1基検出された。埋甕は住居の南側が6号住に切られているため確認できなかつた。

主柱穴はピット2・3・5・7・8・11の6本と思われる。

北壁際からは周溝が検出されており、一部周溝は2条となつていて。

(遺物)第20・21図。1はX字状把手の付く土器である。胴部文様はU字状のモチーフで、X字状把手の上側から

伸びている。その間にカギ状のモチーフのついた垂下文や縦位波状隆線がつけられている。地紋は異条縞文である。曾利II式である。8は曾利II式の小型土器で、口縁部は無文、胴部は横位に条線が引かれ、その上に粘土紐が部分的につけられている。横位条線の上下端と真ん中に半截竹管の内皮による刻みが施されている。13はX字状把手が付く土器で、U字状のモチーフが2本の條線により描かれている。縞文地紋である。曾利II式であろう。14は両耳蓋で、胴部上半部に半截竹管の内皮による条線が施されている。曾利III式であろう。15は曾利IV式で、隆線による区画の中にささら状の工具による綾杉文が施されている。

第36図11の焼成粘土塊が出土している。

(遺物出土状況)第39図。住居跡の中央を中心に遺物が出土している。炉跡北側にある焼土跡の上の覆土中からも遺物がまとまって出土した。

(時期)出土遺物より曾利II式古段階と思われる。

3号住居跡(第12・13図)

(位置)調査区中央、C-5・6グリッドに位置する。

(重複)8号土坑に切られている。

(形状)円形である。

(規模)長軸7.25m、短軸6.65m、深さ1.30mである。(床面)硬化面は確認できなかつた。

(施設)住居跡中央や北寄りに炉跡と思われる焼土跡がある。石圓炉であったと思われる。埋甕は住居跡南側に2基確認できた。位置関係から1号埋甕が古く、2号埋甕が新しいと考えられる。どちらも曾利II式古段階の大型深鉢である。1号埋甕は胴下半部が底部を欠損した状態で正位に埋設されており、上部には埋甕に蓋をするように扁平な礫が置かれていた。住居南側の床面については、若干掘りすぎてしまつてるので、この礫の面が床面の高さであったと考えている。

2号埋甕も胴下半部が底部を欠損した状態で正位に埋設されていた。掘り方についてははっきりと確認できなかつた。

ピットも17基確認でき、その位置関係からこの住居は拡張されたと考えられる。主柱穴は、古い住居でピット2・4・5・9・13・15の6本、新しい住居でピット1・3・6・8・10・14・17の7本であると考えられる。ピット13には覆土中に5~10cm大の礫が密集していた。

(遺物)第22~25図。1は1号埋甕である。大型の土器で、上半部と底部が欠損している。胴部モチーフは対向U字文が変化したものであろう。条線地紋で、曾利II式であろう。2は2号埋甕である。こちらも上半部と底部が欠損している。縞文地紋に隆線による垂下文がつけられている。隆線は太い隆線の上に半截竹管の内皮で沈線を引き、3本隆線のよう見せている。3は条線地紋の曾利II式で、口縁部に隆線による弧線文がつけられている。

24は曾利II式のX字状把手付深鉢で、把手はおそらく6

6単位になるであろう。縄文地紋である。胴部モチーフは片端に満巻文がつくM字状である。25も曾利II式のX字状把手付深鉢で、把手は4単位である。地紋は刺突文である。29はキャリバー形をした器形をしているが無紋である。曾利II式であろう。

32は壺形の土器で、胴部上半に隆線により区画し、その中を1本引きの綾彫文で充填されている。33は縄文地紋で、口縁部と胴部に弧線文をもつ連弧文土器であろう。第36図2の土器が出土している。

(遺物出土状況)第40図。住居跡の北側を中心に大量の遺物が出土している。その中に土偶も含まれている。

(時期)2つの埋甕より曾利II式古段階と思われる。

(備考)出土した2基の埋甕は曾利II式古段階のもので型式学的にはあまり時間差がない。比較的短い時間で拡張が行われたのである。

4号住居跡(第14図)

(位置)調査区中央、C-5、D-5グリッドに位置する。

(重複)11・17号土坑に切られている。

(形状)不整円形である。

(規模)長軸6.08m、短軸5.28m、深さ0.95mである。

(床面)硬化面は確認できなかった。

(施設)住居跡中央に石圍炉がある。扁平な礫をやらに配置している。埋甕はなし。主柱穴は、ピット1・2・3・6の4つは確認できたが、南側には確認できなかった。ピット1・2間とピット3・6間に間仕切り溝が走っている。

(遺物)第26~28図。1は井戸尻式の浅鉢である。胴部上半に隆線により円や弧線を描き、間をS線で区画している。隆線上は刻みを施されている。11は曾利I式の小型甕である。口縁部は無紋で直線的に広がり、胴部は半截竹管の内皮による刻みをもった隆線で垂下文があり、地紋は条線である。12はX字状把手付深鉢で、おそらく8単位の把手が付くと思われる。地紋は条線、胴部モチーフはU字と垂下文が連続したような形をしている。

波状粘土紐が所々に添付される。

13は曾利II式の長胴甕である。口縁部は無紋で直線的に開き、頭部に格子文をもち、地紋は条線である。16は小型甕で、縄文地紋、口縁部は無紋で直線的に広がり、胴部は比較的長く垂下文が下がる。垂下文の上にも縄文が見られる。頭部は波状粘土紐により区画される。曾利II式であろう。17・18はX字状把手付深鉢で同一個体である。把手同士が連結するタイプで、把手や胴部に波状粘土紐が添付される。地紋は縄文である。

23は頭部に無紋帶をもち、口縁部に満巻のついた波状隆線が施され、胴部は2単位の垂下S線や幅広の縦位波状S線があり、地紋は縄文である。加曾利E2式と思われる。26は波状口縁をもち、弧状の楕円区画文と垂下文がS線で施され、口縁部の一部に刺突文がつけられている。地紋は櫛齒状工具による雜なHの字状文である。底

部は欠損している。曾利V式である。27は口縁部に2本のS線による弧線文があり、その下端部から垂下文が伸びている。地紋は櫛齒状工具による崩れたHの字状文であり、曾利V式である。28はHの字状の区画をもちその中をHの字状文で充填されている。

(遺物出土状況)第41図。住居跡中央から北西側にかけて多く出土している。中央の覆土中からは曾利II・V式の土器が大量に出土しており、隣接する3号住居などで使用された土器が廃棄された可能性が高い。

(時期)出土遺物及び炉跡の形態から井戸尻式期と思われる。(備考)住居跡の北側については壁がはっきり確認でき、ピットの位置からもしっかり住居の範囲が確定できたが、南側については地形が南に傾斜していることもあり住居の掘り込み自体が浅く、ピットも確認できなかつたため住居の範囲は推定である。一応やや色が明るくなり、覆土よりもしまっているところで南壁とした。

5号住居跡(第15図)

(位置)調査区中央西寄りのD-3・4グリッドに位置する。

(重複)13・14・15・16・18号土坑に切られている。

(形状)一部調査区外であるが、不整円形である。

(規模)長軸6.93m、残存短軸4.82m、深さ0.74mである。

(床面)硬面は確認できなかった。

(施設)住居跡中央火や北寄りに石围炉がある。20~40cm大的の礫を巡らしている。埋甕は確認できず、主柱穴もピット1・2の2つしか確認できなかった。

(遺物)第29~31図。1は大型の楕円区画文土器である。口縁部にW字状の隆線を貼り付け、胴部には3段の横円を用いた区画が施されている。2はやや小窓の土器である。口縁部の一部に隆線やミミズク状の把手が付き、刻みをもつ隆線で区画された頭部は刺突文で埋められている。3は楕円区画文であり、胴部は2段に分けられ、棒状工具で刻まれた4~5本の隆線により区画されている。口縁部には隆線やS線で区画された装飾が施されている。

4も楕円区画文であり、口縁部にW字状隆線を貼り付けている。頭部の隆線には半截竹管の内皮による刻みがついている。6も4とほぼ同様であり、大きさがやや違うと思われる。7は口縁部に変形の「の」の字状隆線やW字状隆線をつけて、口唇部直下に2本のS線で弧線上に描いている。横位隆線1本で頭部を区画し、地紋は1本引きによる条線である。

(遺物出土状況)住居跡中央を中心に遺物が出土している。第30図3が石围炉の上に覆いかぶるよう出土した。

(時期)出土遺物より井戸尻式期と思われる。

(備考)床面を追っていたら炉石の面よりも下がってしまったので、実際には床面はもう少し高かったと考えられる。

6号住居跡(第10・11図)

(位置)調査区東側、B-7グリッドに位置する。

(重複)2号住を切っている。

(形状)全体の1/3しか調査できなかったが、おそらく円形と思われる。

(規模)残存長軸4.07m、残存短軸2.73m、深さ0.25mである。

(床面)硬化面は確認できなかった。

(施設)住居跡中央北寄りに炉と思われる焼土跡がある。

埋甕は調査区外のため不明である。主柱穴も、ピットが3つ確認されているが、不明である。

(遺物)第28図1は曾利V式である。口縁部に2本の沈線で弧線文を描き、その結合部から垂下文が下がっている。地紋は繩文であり、縱方向に転がして施している。弧線文内も繩文で埋めている。2は口縁部に梢円文をもつものである。地紋は櫛歯状工具によるハの字状文が雜に施されている。3はしっかりととしたハの字状文で、4は櫛歯状工具による波状文が地紋になるものである。

(遺物出土状況)第39図、遺物はそれほど多くは出土しなかつたが、北側から曾利V式の土器がまとまって出土した。

(時期)出土遺物より曾利V式期と思われる。

3. 集石土坑

1号集石(第16図)

(位置)C-4・5グリッドに位置し、4号住の北西にある。

(重複)なし。

(形状)梢円形である。

(遺物)第34図1~3は五領ヶ台式である。

(遺物出土状況)確認面から約25cmまではぎっしりと礫が詰まっていたが、その下には礫が少ない層があり、この層は炭化物の多い黒色の層であった。この層の下の土坑底面中央から7個の礫が四角く組まれていた。

奥石遺構は、掘り込みを持つものと持たないものに分けられ、焼石の集積状態でも細分されている(小栗1999、小坂2001)。1号集石は、掘り込みを持ち土坑内に焼石が充填されているタイプであり、また、底部に礫が組まれているので石敷きを有する集石土坑もある。石敷きを有する集石土坑は、集石遺構分布の中心である多摩川流域でもさらにその上流域に偏在することが明らかになっている地域性の強い形態であり、山梨圏内では10遺跡20例が確認されている。(小坂2001)。

土器はほとんど出土していないが、礫に混じり上層から五領ヶ台式土器片が3点出土している。これらは同一個体と思われ、4号住や遺構外からも同一個体の土器片が出土している。

(時期)出土遺物より五領ヶ台式期と思われる。

(備考)1号集石から出土した礫の総数は、石器も含めて244個である。その基本的データを第5・6表に示す。「長軸長」は礫の一番長い所を計測した数値である。「残存率」は完全に残っているものは「10(10割の意)」で、欠けるにしたがい数値は低くなっていくが、あくまで主観的なものであることを断っておく。赤化しているものや黒く煤

しているものはそれぞれ「○」を付けている。

以下、石器を含めた1号集石出土の礫を概観すると、総重量は142,192.0gで約142kg出土している。平均重量は582.7g、最小重量は15.0g、最大重量は26,440.0gである。平均長軸長は10.4cm、最少長軸長は4.3cm、最大長軸長は31.3cmである。

集石遺構の総重量・平均重量の研究は保坂氏が行っている(保坂2004)。縄文中期の集石については、総重量は10kg区分の各区分に比較的分散しており、100kg以上は約2割を占める。平均重量は200g以下が全体の約8割で、500g台は1台遺跡しかないようである。1号集石は総重量でも平均重量でも大きい集石と言える。

礫の表面の状態については以下のとおりである。

赤化し煤けているもの 59点(24.2%)

赤化しているだけのもの 32点(13.1%)

煤けているだけのもの 103点(42.2%)

赤化も煤けてもいないもの 50点(20.5%)

8割の礫が赤化しているか煤けており、火を受けたことを示している。また、煤けていることの方が多い、有機物と一緒に焼かれたと思われる。

残存率は以下のとおりである。

「10」:111点(45.5%) 「9」:28点(11.5%)

「7」:51点(20.9%) 「5」:38点(15.6%)

「3」:12点(4.9%) 「1」:4点(1.6%)

半分近くの礫が欠けておらず、7割以上残存する礫が圧倒的に多い。

4. 屋外埋甕

1号屋外埋甕(第16図)

(位置)調査区中央北壁際のD-6グリッドに位置する。

(重複)なし。

(形状)梢円形である。

(遺物)第34図1。曾利I式の長財甕である。口縁部はキャリバー型で巻曲文をもつ。頸部には交互刺突による波状粘土紐があり、そこから4単位の懸垂文が垂れている。その隣線には半截竹管内皮による連続押し引きが施されている。地紋は半截竹管内皮による条線で、その中に押し引きされた部分がある。

(遺物出土状況)第34図1が逆位に埋設してある。口縁部がキャリバー状の土器を埋設するために、掘り方も一部底部のほうがオーバーハングしていた。

(時期)出土遺物より曾利I式期である。

(備考)住居の埋甕の可能性も考えられたが、周辺に住居跡の壁やピットが確認できず、曾利I式期では住居内の埋甕の事例がほとんどなく屋外埋甕の事例が多いので、この遺構については屋外埋甕と判断した。

5. 土坑

土坑は全部で10基検出された。全ての土坑のデータは

第3表に記載してある。ここでは遺物出土状況が特徴的であったものだけ取り上げ、遺物を中心に記載することとする。

4号土坑(第15図)

(遺物)第32図1~4。1は器高70.5cmの大型の井戸尻式土器である。底部から口縁部にかけて開いていく器形をし、波状口縁で波頂部の口唇部に円形隆線が、その下にW状の隆線が付けられている。胴部は2本隆線により3段に区画され、上2段は梢円形を基にした隆線が互い違いに配置され、最下段は綱位隆線で区画された内部に沈線を充填している。区画する隆線上には棒状工具による刻みが施されている。

(遺物出土状況)土坑の上に20cm前後の礫を巡らし、その上層に1の土器が細かな破片で密集していた。

(時期)出土土器より井戸尻式期である。

(備考)礫を巡らしている状況は石窯炉にも見えるが、その下や周辺に焼土が確認できなかったこと、この造構の周辺に柱穴と思われるようなピットも確認できなかつたことから、炉ではないと判断した。

8号土坑(第16図)

(遺物)第33図1。口縁部直下に1条の沈線があり、胴部は沈線でコの字状に区画され、その中をささら状工具による綱杉文と真ん中に綱位波状沈線を施している。曾利IV式である。

(遺物出土状況)覆土中層から第33図1が横倒しになって出土している。

(時期)第33図1より曾利IV式期である。

9号土坑(第16図)

(遺物)第33図1~6。1は井戸尻式である。2~4は曾利IV式で綱杉文地紋である。5は曾利V式のX字状把手付深鉢で、地紋はハの字状文である。6は口縁部直下に1条の沈線があり、弧状沈線に入り組むように逆U字状文が施される。地紋は筋節繩文で、加曾利E3式であろう。

(遺物出土状況)他の土坑のように深さはない。確認面からの深さが20cmほどである。頭大の礫が7個ほど検出されている。遺物は曾利IV~V式期の土器が出土している。

(時期)出土土器より曾利V式と思われる。

(備考)底面から焼土が検出されたので、住居の炉とも思われたが、周辺から柱穴になるようなピットが発見できなかつた。

11号土坑(第14図)

(遺物)第34図1が出土している。隆線による弧線文があり、その間に溝文文とそれから垂下する隆線が施される。弧線内には沈線が引かれ、地紋は綱杉文である。胴下半が欠損している。

(遺物出土状況)底部の近くから第34図1が礫とともに出土した。

(時期)出土遺物より曾利IV式である。

16号土坑(第15図)

(遺物)第33図1。隆線により区画され、その中をささら状工具による綱杉文が施され、部分的に綱位波状沈線がつけられる。曾利IV式である。

(遺物出土状況)第42回。第33図1が16号土坑の底部付近からまとまって出土した。

(時期)出土土器より曾利IV式である。

18号土坑(第15図)

(遺物)第33図1。曾利IV式のX字状把手付深鉢で、胴部以下は欠損している。低い隆線で渦巻文等を施し、隆線の脇を指ナデしている。地紋は条線であるあまり明瞭ではない。口唇部の内側にやや膨らみをもつ。

(遺物出土状況)第42回。第33図1が土坑の上層から小片の状態でまとまって出土している。

(時期)出土土器より曾利IV式である。

6. 溝

1号溝

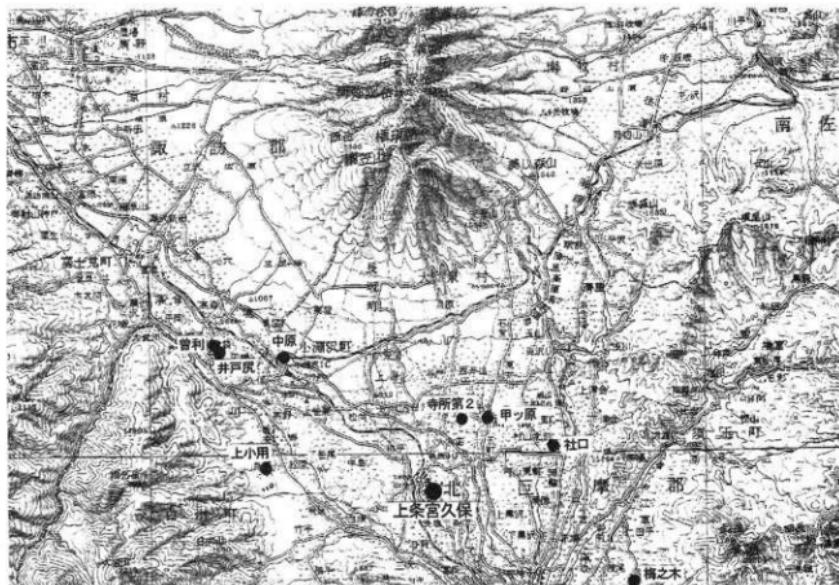
(位置)調査区中央や東寄りのC-7、D-7・8グリッドに位置する。(重複)9号土坑と接する。(形状)ほぼ直線である。(規模)残存長14.9m、幅0.45~0.9m、深さ0.06~0.28mである。

(時期)出土土器が流れ込みの可能性が高いので、時期は不明である。

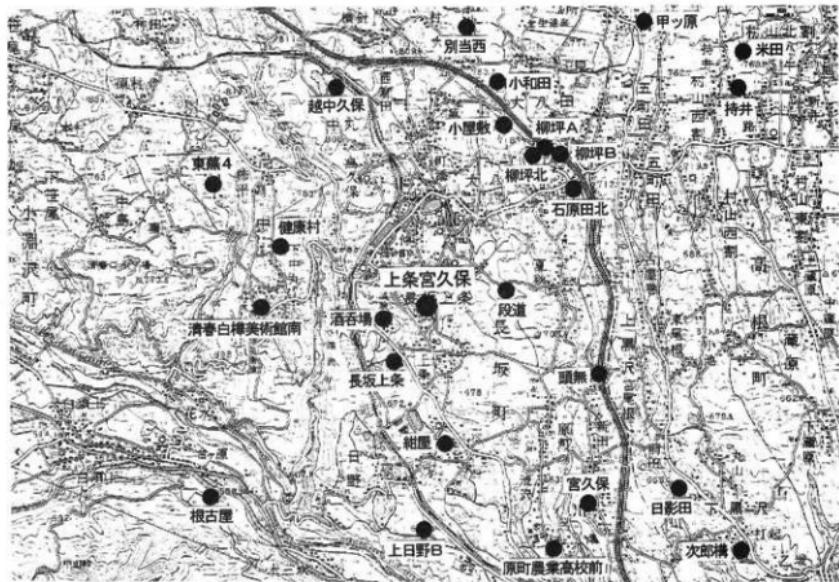
7. 造構外出土遺物

第34・35図。1~3は前期前半の織維土器である。5は口縁部に渦巻文や刻みの入った隆線で加飾し、三角押文を施している。梨久保B式であろうか。6は網文地紋の浅鉢である。

7は口縁部にX字状の把手が付く壺形近い土器で、地紋は綱文である。9は口縁部に連続した弧線文をもつ土器である。部分的に弧線文の連結部から垂下隆線が下がる。隆線上は指で押された跡が残る。地紋は綱文で、弧線文内にも施される。曾利II式であろう。12は肥厚口縁をもつ曾利III式の小型土器である。欠損しているが3単位の把手をもち、肥厚帯には円文や溝文を施している。胴部は沈線により区画され、嵌手状文や綱位波状沈線が付けられる。地紋は半截竹管内皮による綱杉文である。底部には網代痕が残る。15は微隆線をもつ加曾利E4式である。16は称名寺式で今回の調査で唯一出土した後期の遺物である。



第1図 八ヶ岳南麓主要遺跡分布図(1/200,000)



第2図 上条宮久保遺跡周辺主要遺跡分布図(1/50,000)

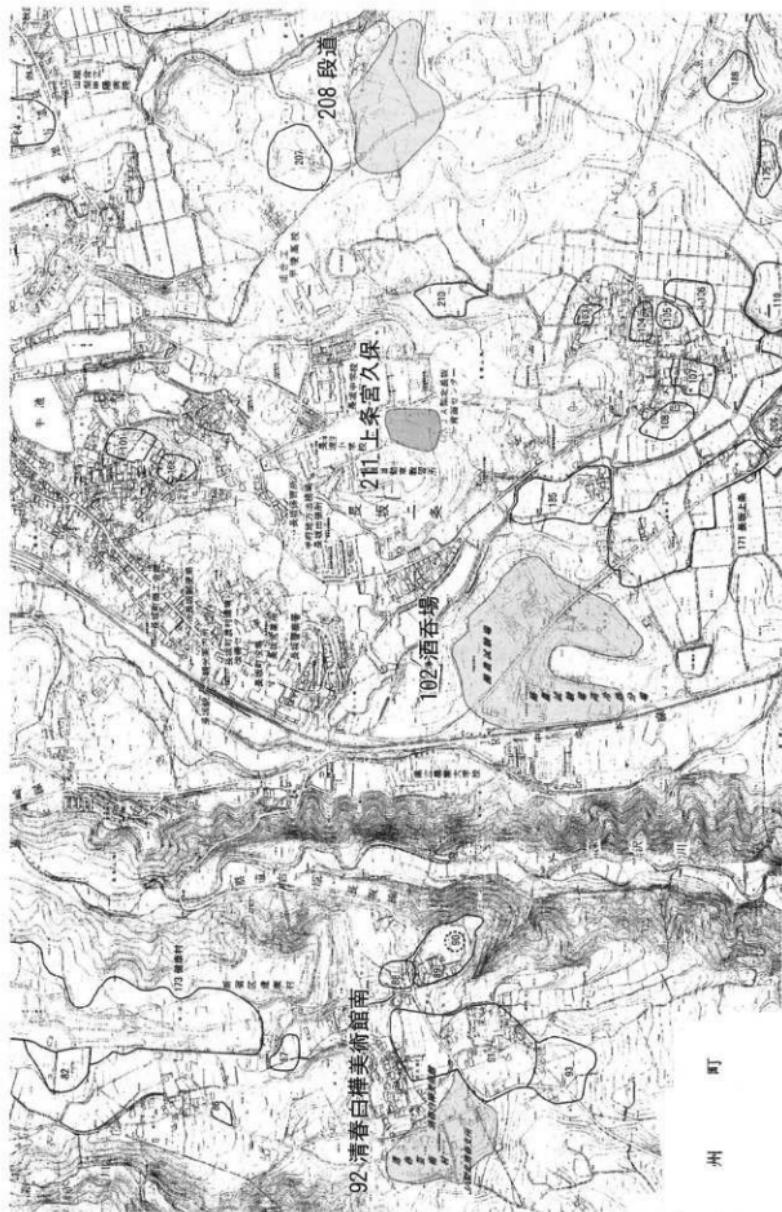


第3図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

第1表 長坂町遺跡地名表

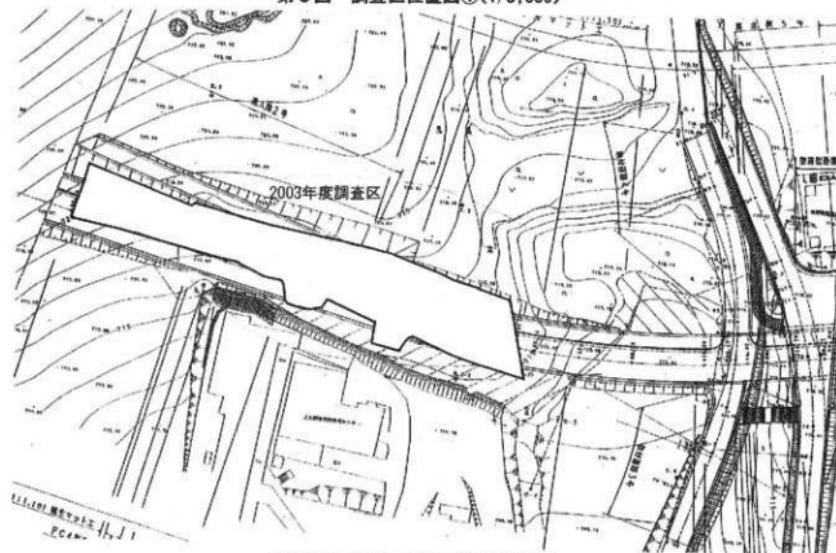
053	福田遺跡	古	平	058	馬久保遺跡	鰐	江	127	和田遺跡	鰐	平	中	
056	奥田遺跡	平	中	120	高松遺跡	鰐	江	128	柳原十三三郎墓	鰐	山		
057	伊田遺跡	古	中	121	上可波遺跡	鰐	江	129	宮内保遺跡	鰐	平	平	
059	伊田遺跡	古	中	122	大谷遺跡	鰐	古	平	130	伊田保遺跡	鰐	山	
060	難波川遺跡	古	中	123	夏村A遺跡	鰐	古	中	131	伊田保遺跡	鰐	山	
062	難波川遺跡	古	中	124	夏村B遺跡	鰐	古	中	132	伊田保遺跡	鰐	山	
063	難波川遺跡	古	中	125	中村遺跡	古	平	中	133	反瀬遺跡	鰐	平	中
064	小野寺遺跡	鰐	古	126	御王塚古墳	鰐	古	中	134	中村A遺跡	鰐	平	中
065	小野寺遺跡	鰐	古	127	御王塚古墳	鰐	古	中	135	反瀬遺跡	鰐	平	中
066	成田遺跡	鰐	古	128	中村遺跡	鰐	古	中	136	三井山遺跡	鰐	古	中
067	成田遺跡	鰐	古	129	中村遺跡	鰐	古	中	137	三井山遺跡	鰐	古	中
068	成田遺跡	鰐	古	130	中村遺跡	鰐	古	中	138	中村B遺跡	鰐	古	中
069	金山遺跡	鰐	古	131	飯前丸遺跡	鰐	古	中	139	中村C遺跡	鰐	古	中
070	石原山遺跡	鰐	古	132	白山遺跡	鰐	古	中	140	中村D遺跡	鰐	古	中
071	足見遺跡	鰐	古	133	大久保遺跡	鰐	古	中	141	中村E遺跡	鰐	古	中
073	足見遺跡	鰐	古	134	大久保遺跡	鰐	古	中	142	中村F遺跡	鰐	古	中
074	房尾山遺跡	鰐	古	135	大久保遺跡	鰐	古	中	143	中村G遺跡	鰐	古	中
080	和牛山遺跡	鰐	古	136	和牛山遺跡	鰐	古	中	144	中村H遺跡	鰐	古	中
081	和牛山遺跡	鰐	古	137	和牛山遺跡	鰐	古	中	145	中村I遺跡	鰐	古	中
082	和牛山遺跡	鰐	古	138	和牛山遺跡	鰐	古	中	146	中村J遺跡	鰐	古	中
086	和牛山遺跡	鰐	古	139	和牛山遺跡	鰐	古	中	147	中村K遺跡	鰐	古	中
087	和牛山遺跡	鰐	古	140	和牛山遺跡	鰐	古	中	148	天白台遺跡	鰐	古	中
099	鶴谷山遺跡	鰐	古	141	和牛山遺跡	鰐	古	中	149	池之平北遺跡	鰐	古	中
090	中久保遺跡	鰐	古	142	和牛山遺跡	鰐	古	中	150	池之平北遺跡	鰐	古	中
091	中久保遺跡	鰐	古	143	鶴谷山遺跡	鰐	古	中	151	中久保遺跡	鰐	古	中
092	鶴谷山遺跡	鰐	古	144	鶴谷山遺跡	鰐	古	中	152	中久保遺跡	鰐	古	中
093	鶴谷山遺跡	鰐	古	145	中久保遺跡	鰐	古	中	153	成田・等々	鰐	古	中
094	鶴谷山遺跡	鰐	古	146	中久保遺跡	鰐	古	中	154	黑崎遺跡	鰐	古	中
125	鶴谷山遺跡	鰐	古	147	中久保遺跡	鰐	古	中	155	唐屋遺跡	鰐	古	中
126	鶴谷山遺跡	鰐	古	148	中久保遺跡	鰐	古	中	156	鈴原田七七零墓	鰐	古	中
127	鶴谷山遺跡	鰐	古	149	中久保遺跡	鰐	古	中	157	中久保遺跡	鰐	古	中
128	鶴谷山遺跡	鰐	古	150	中久保遺跡	鰐	古	中	158	天白台遺跡	鰐	古	中
129	鶴谷山遺跡	鰐	古	151	中久保遺跡	鰐	古	中	159	下原道奈	鰐	古	中
130	鶴谷山遺跡	鰐	古	152	中久保遺跡	鰐	古	中	200	下日町遺跡	鰐	古	中
131	鶴谷山遺跡	鰐	古	153	中久保遺跡	鰐	古	中	201	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
132	鶴谷山遺跡	鰐	古	154	中久保遺跡	鰐	古	中	202	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
133	鶴谷山遺跡	鰐	古	155	中久保遺跡	鰐	古	中	203	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
134	鶴谷山遺跡	鰐	古	156	中久保遺跡	鰐	古	中	204	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
135	鶴谷山遺跡	鰐	古	157	中久保遺跡	鰐	古	中	205	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
136	鶴谷山遺跡	鰐	古	158	中久保遺跡	鰐	古	中	206	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
137	鶴谷山遺跡	鰐	古	159	中久保遺跡	鰐	古	中	207	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
138	鶴谷山遺跡	鰐	古	160	中久保遺跡	鰐	古	中	208	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
139	鶴谷山遺跡	鰐	古	161	中久保遺跡	鰐	古	中	209	長板上二・源經遺跡	鰐	古	中
140	鶴谷山遺跡	鰐	古	162	中久保遺跡	鰐	古	中	210	帳前遺跡	鰐	古	中
141	鶴谷山遺跡	鰐	古	163	中久保遺跡	鰐	古	中	211	上条東久保遺跡	鰐	古	中

第4図 上条宮久保道路周辺道路分布図(1/12,500)



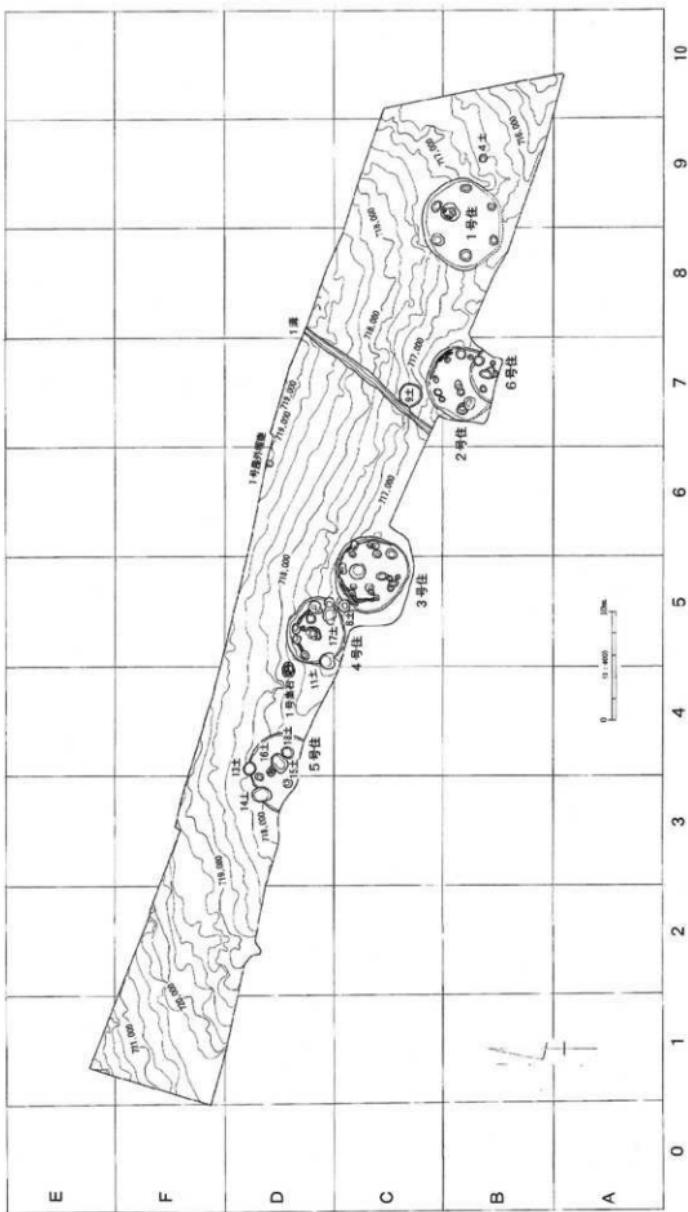


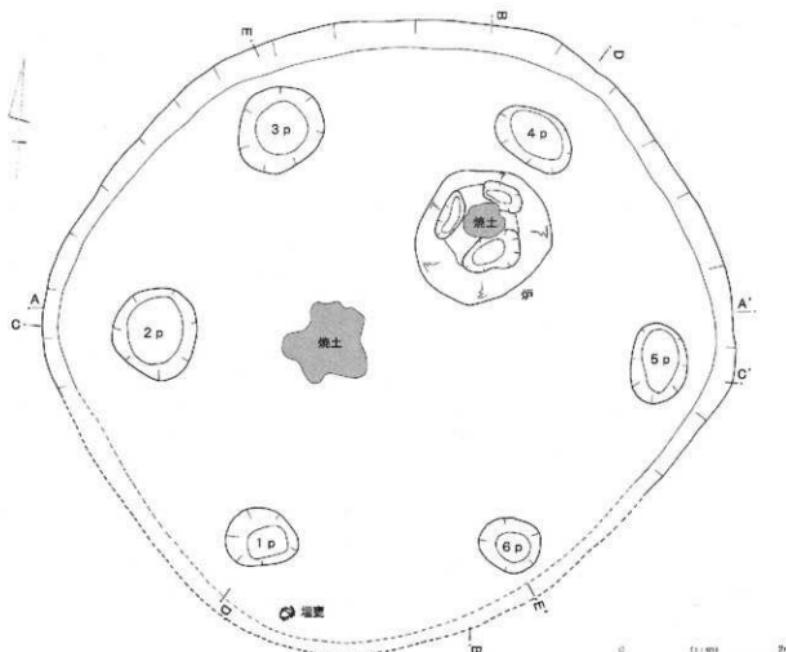
第5図 調査区位置図①(1/5,000)



第6図 調査区位置図②(1/1,000)

第7図 調査全体図(1/400)





A717.2

A'



B717.2

B'

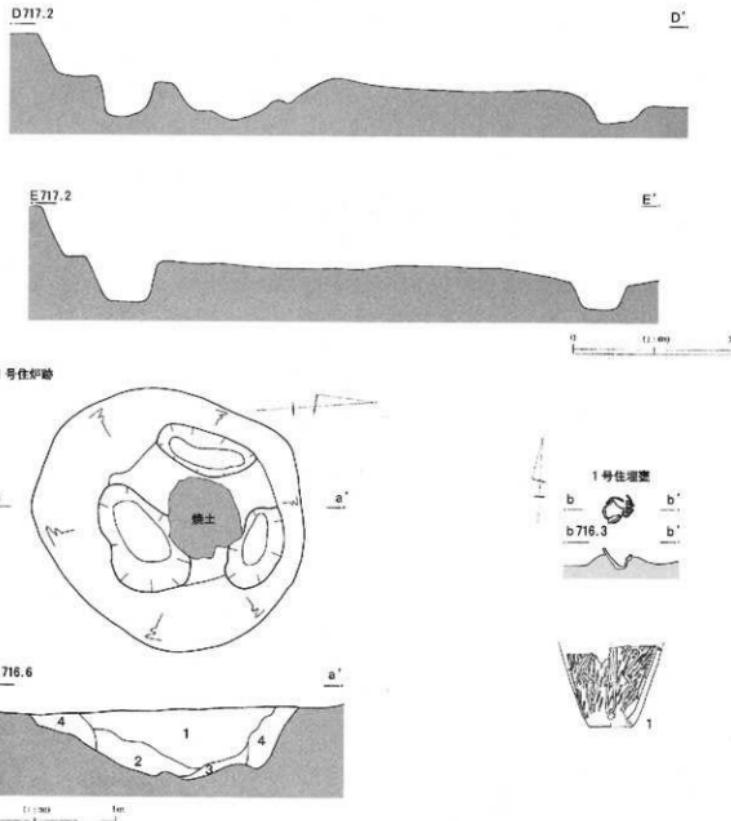


C717.2

C'



第8図 1号住居跡



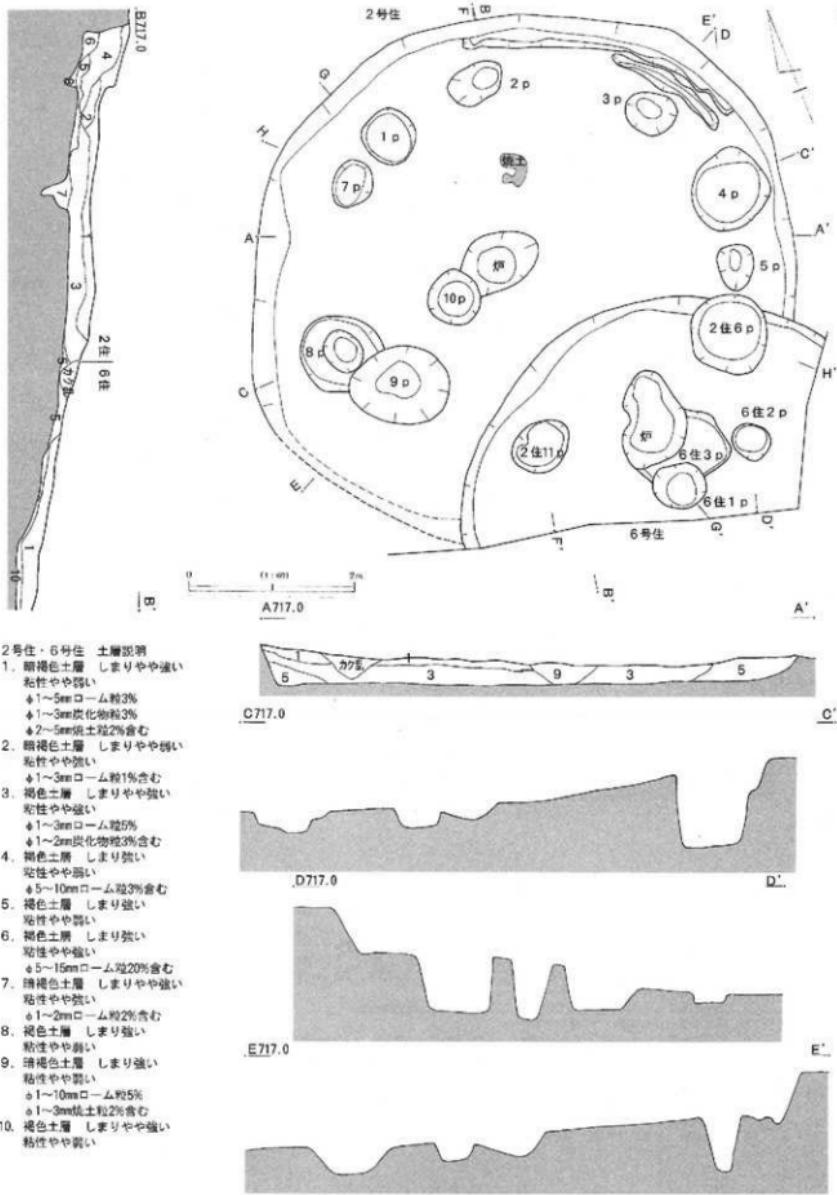
1号住 土層説明

- 褐色土層 しまりやや強い 粘性やや弱い \downarrow 1~3mmローム粒5% \downarrow 1~2mm炭化物粒3%含む
- 褐色土層 しまり強い 粘性やや弱い \downarrow 5~10mmローム粒3%含む
- 赤褐色土層 しまりやや強い 粘性やや弱い \downarrow 1~2mmローム粒2%含む
- 赤褐色土層 しまりやや強い 粘性やや弱い \downarrow 1~5mmローム粒3% \downarrow 1~3mm炭化物粒3% \downarrow 2~5mm焼土粒2%含む
- 褐色土層 しまりやや強い 粘性やや弱い \downarrow 1~3mmローム粒5% \downarrow 1~2mm炭化物粒2%含む
- 褐色土層 しまり強い 粘性やや弱い
- 褐色土層 しまり強い 粘性やや弱い \downarrow 5~15mmローム粒20%含む
- 褐色土層 しまり強い 粘性やや弱い
- 褐色土層 しまり強い 粘性やや弱い \downarrow 5~10mmローム粒8% \downarrow 1~3mm焼土粒2%含む

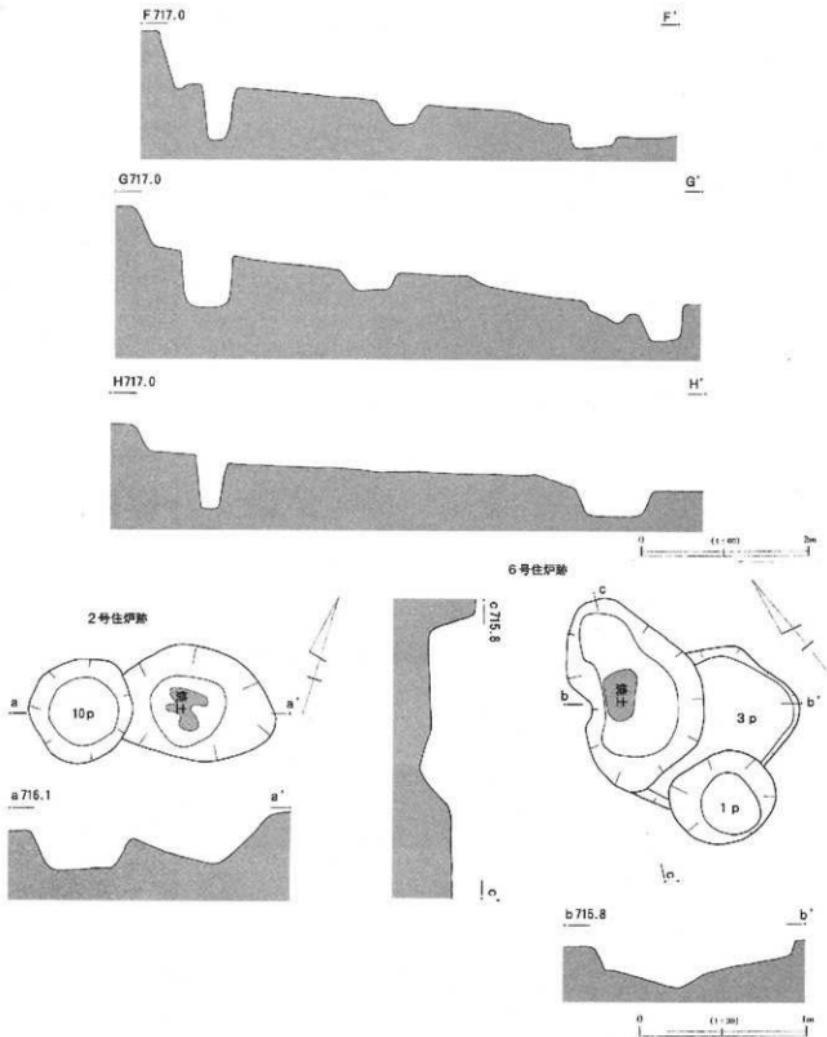
1号住炉跡 土層説明

- 褐褐色土層 しまり強い 粘性やや強い \downarrow 5~10mmローム粒8% \downarrow 1~3mm焼土粒2%含む
- 褐褐色土層 しまり強い 粘性やや強い \downarrow 5~15mmローム粒5% \downarrow 3~15mm焼土粒10%含む
- にぶい褐褐色土層 しまり強い 粘性やや強い \downarrow 5~10mm焼土粒10%含む
- 褐色土層 しまりやや弱い 粘性やや弱い

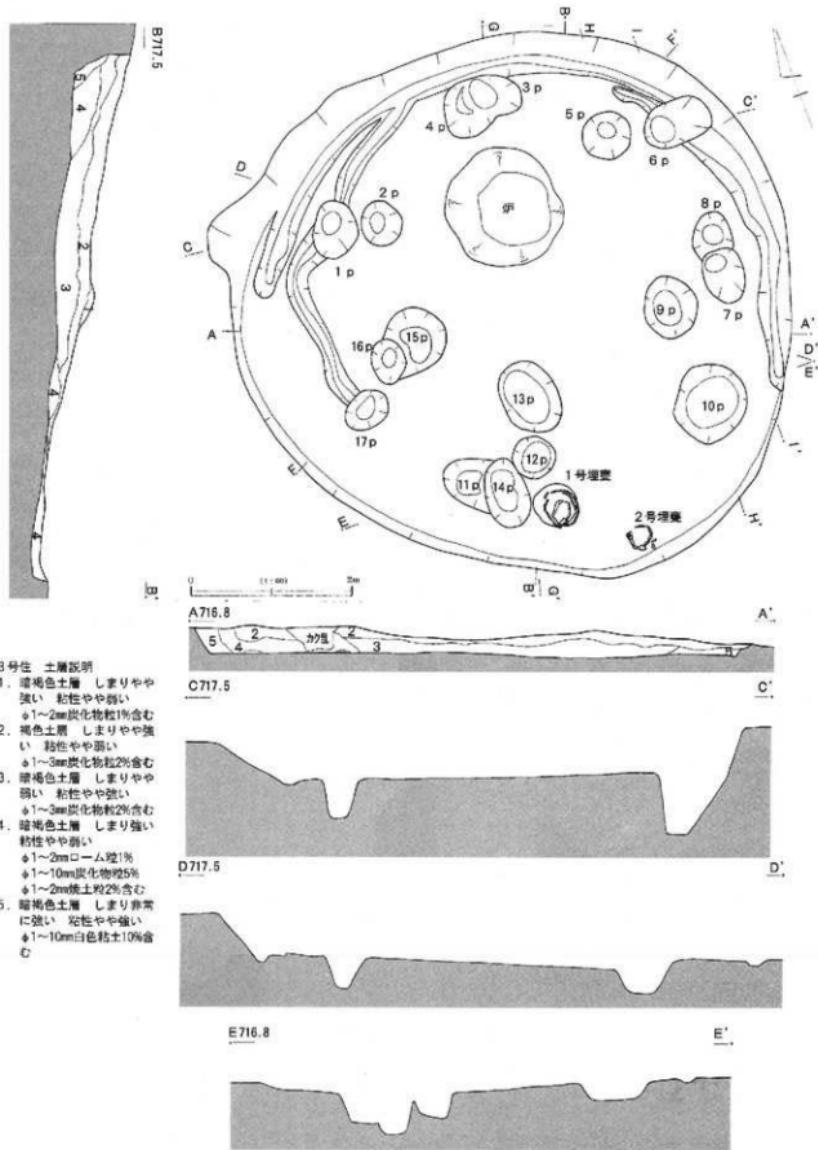
第9図 1号住炉跡・埋甕



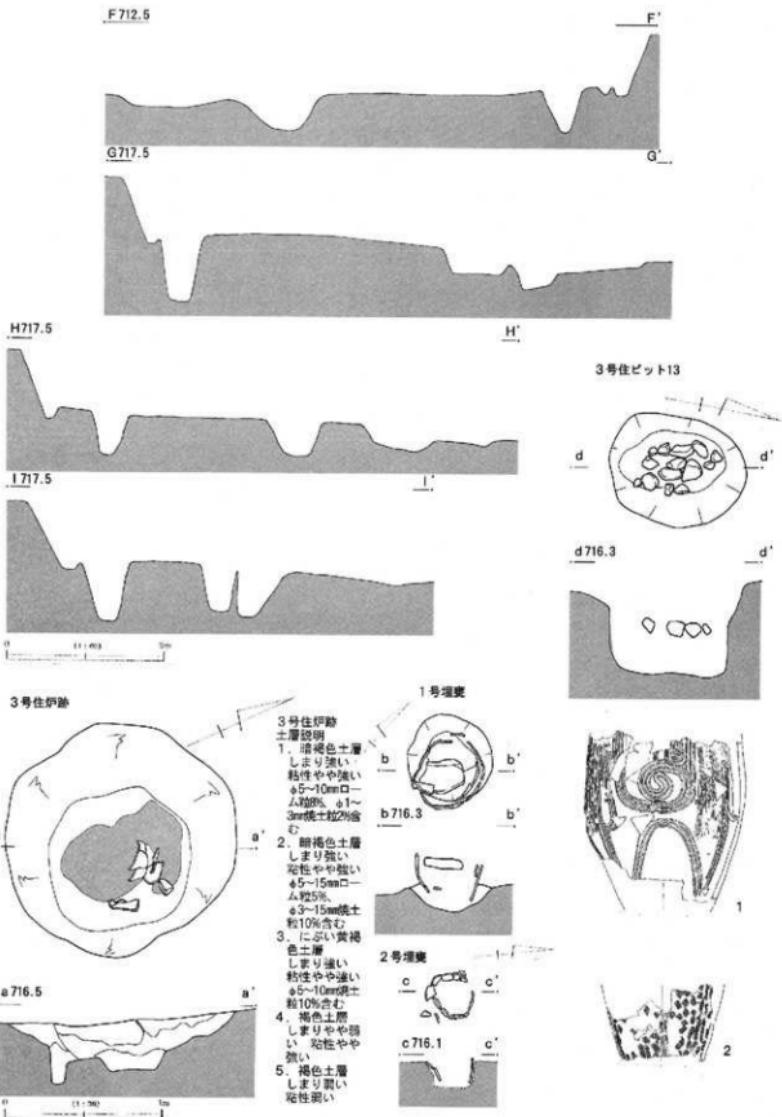
第10図 2・6号住居跡



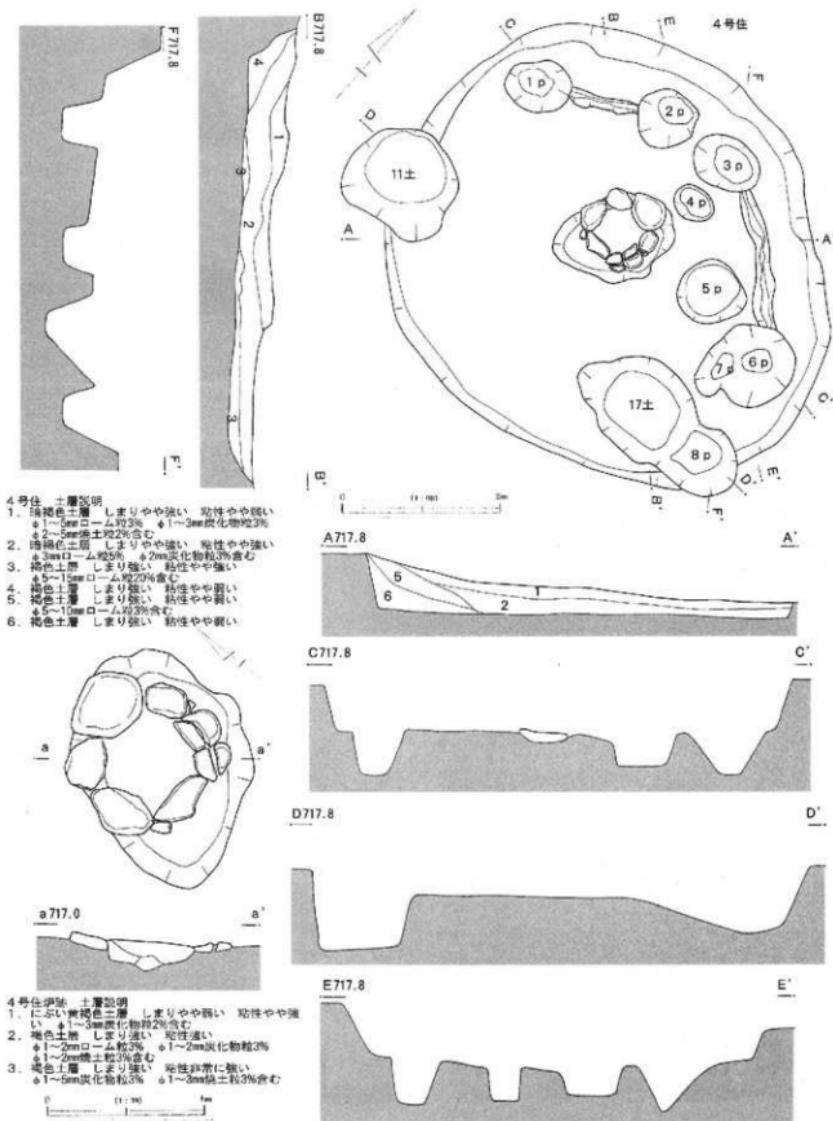
第11図 2・6号住炉跡



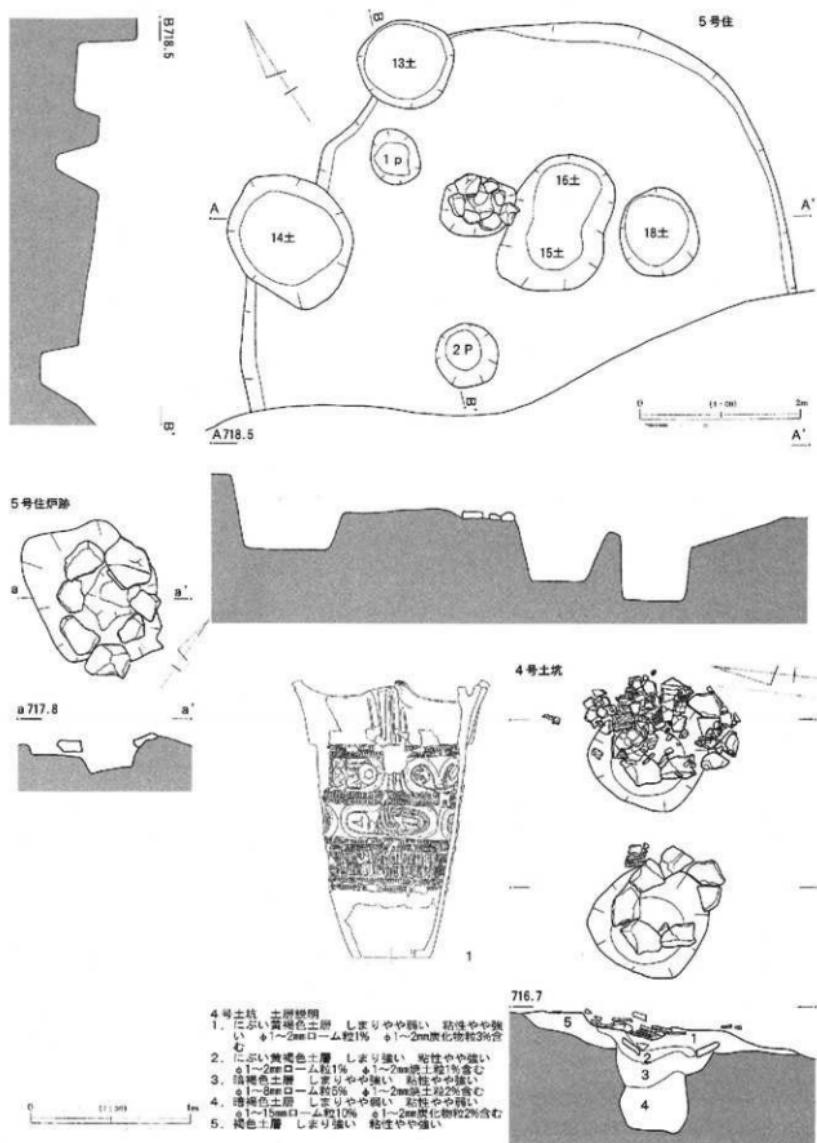
第12図 3号住居跡



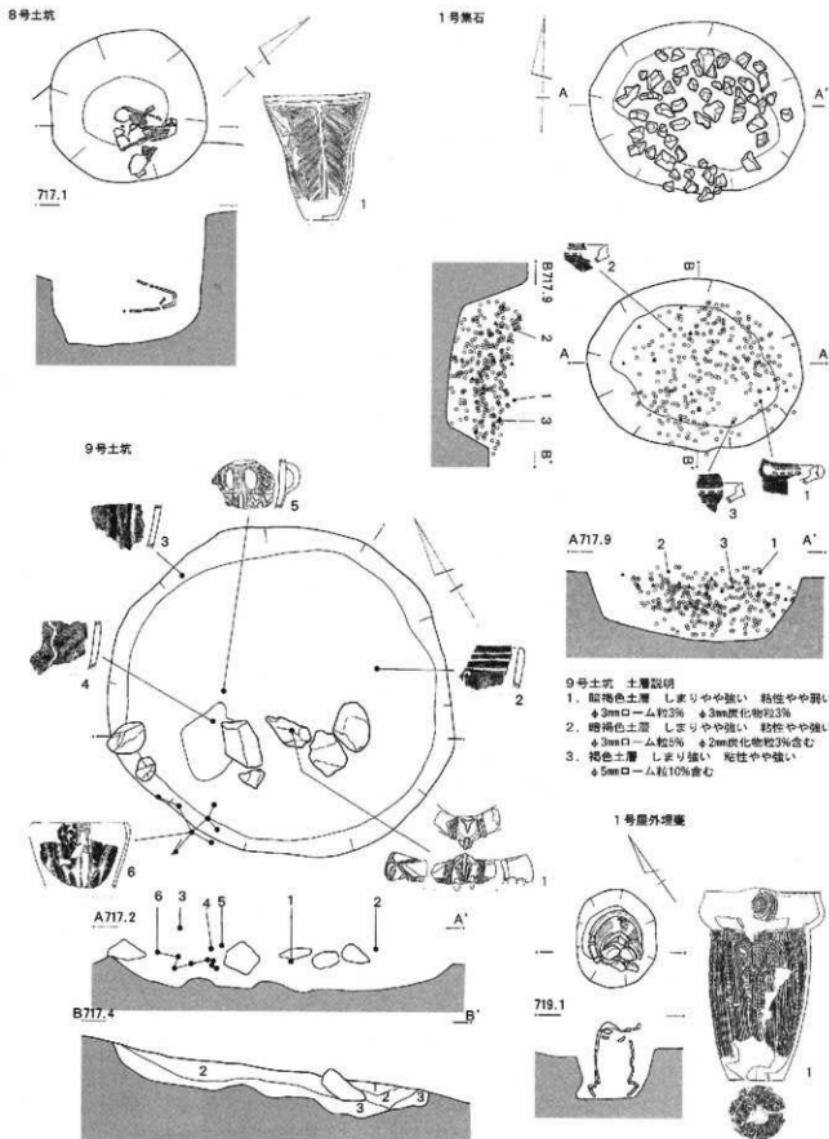
第13図 3号住炉跡、1・2号埋甕、ピット13



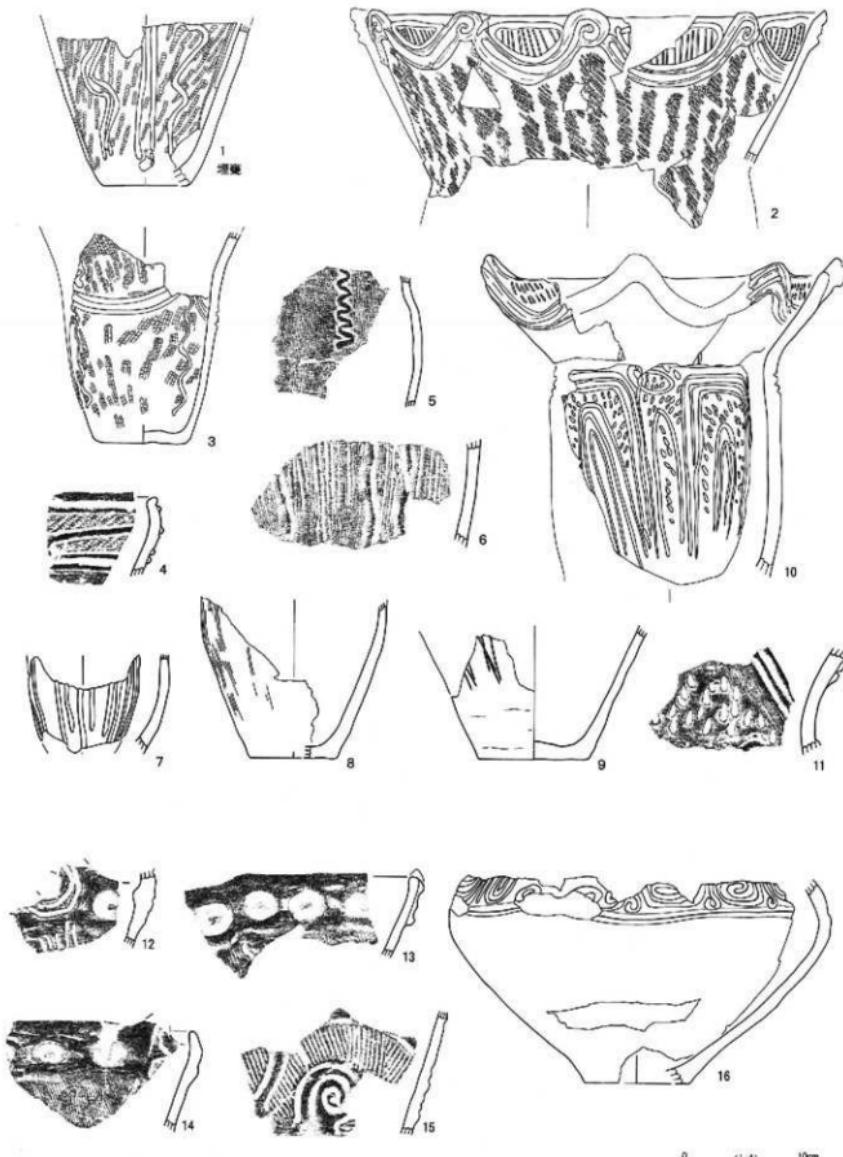
第14図 4号住居跡・同炉跡



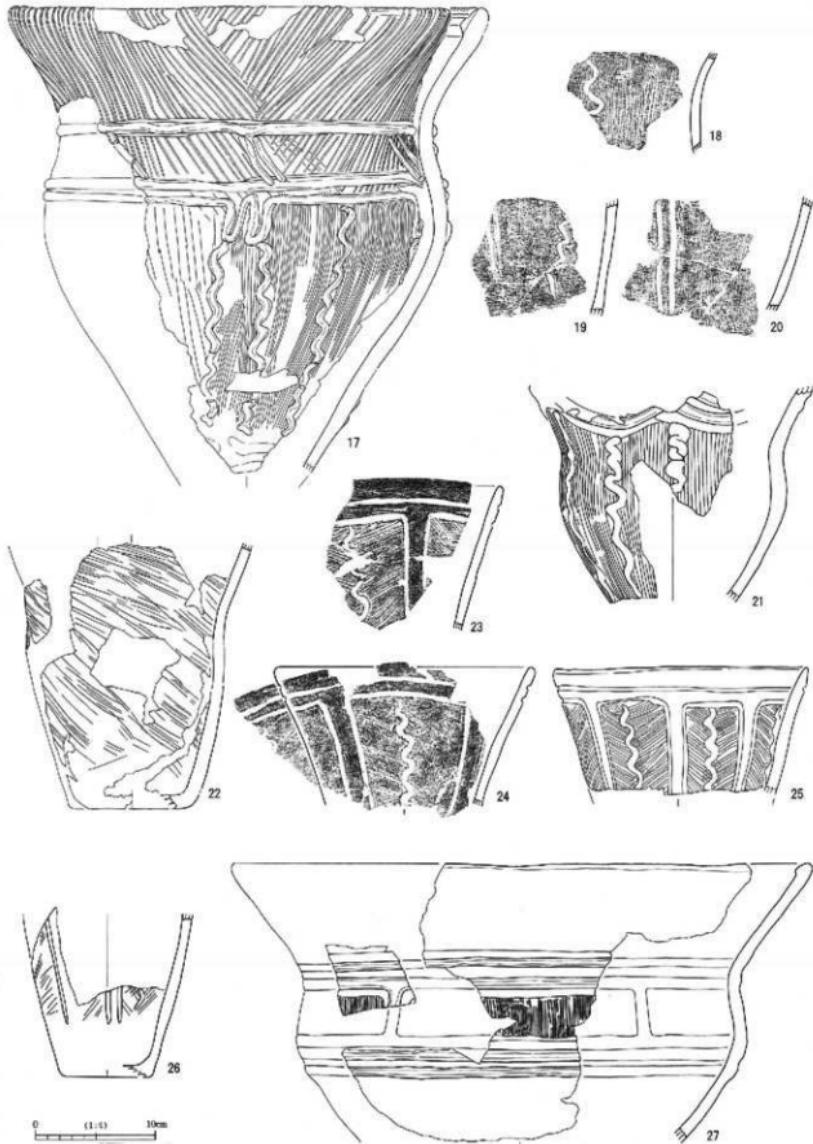
第15図 5号住居跡・同炉跡・4号土坑



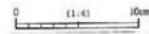
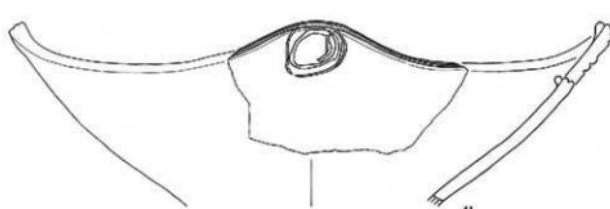
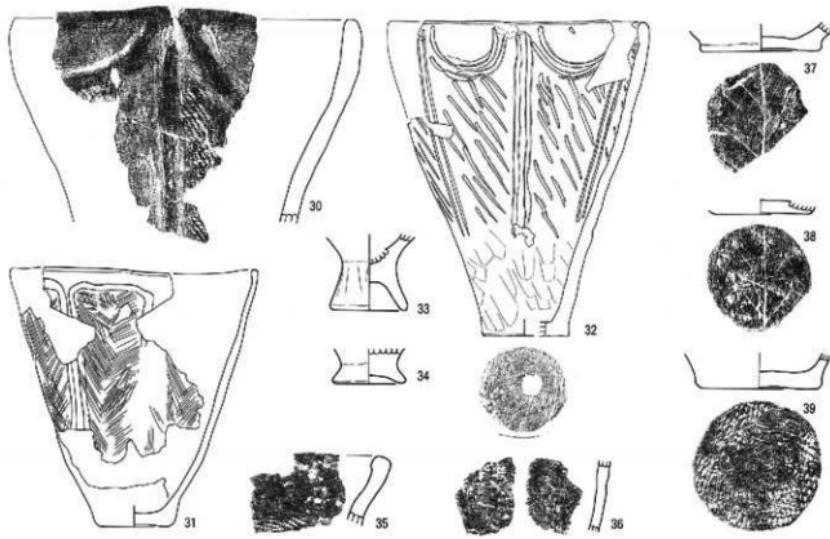
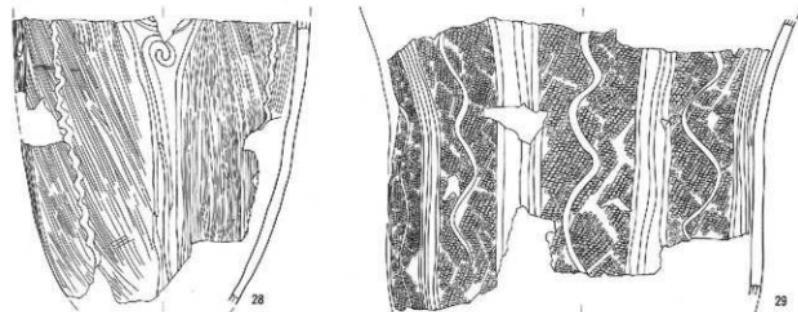
第16図 8・9号土坑、1号集石、1号屋外埋壺



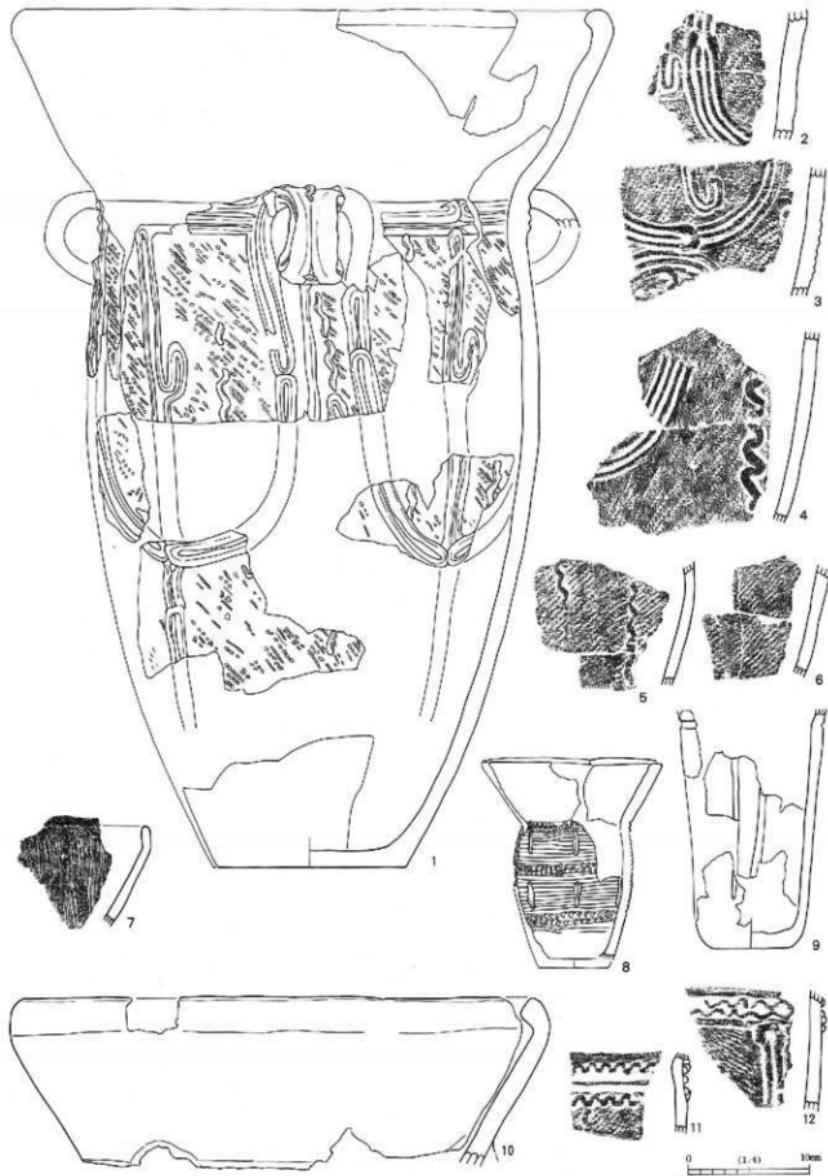
第17図 1号住出土土器①



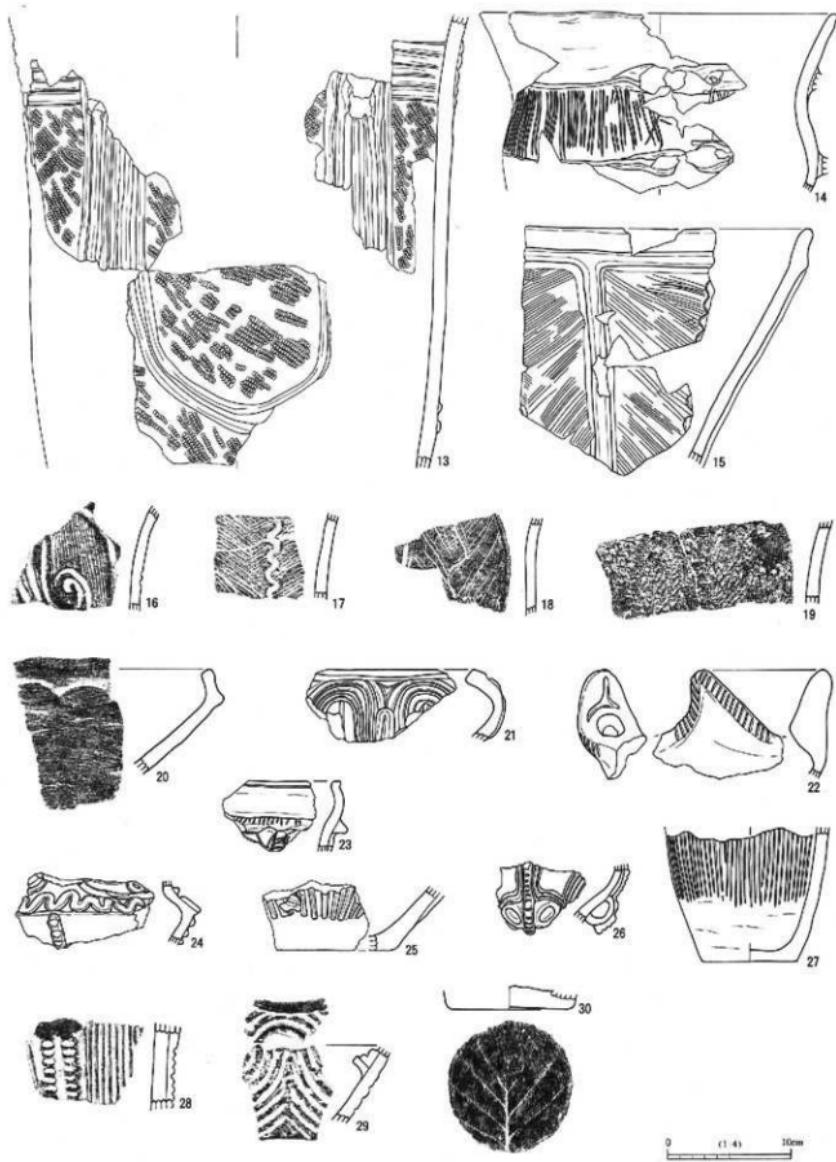
第18図 1号住出土土器②



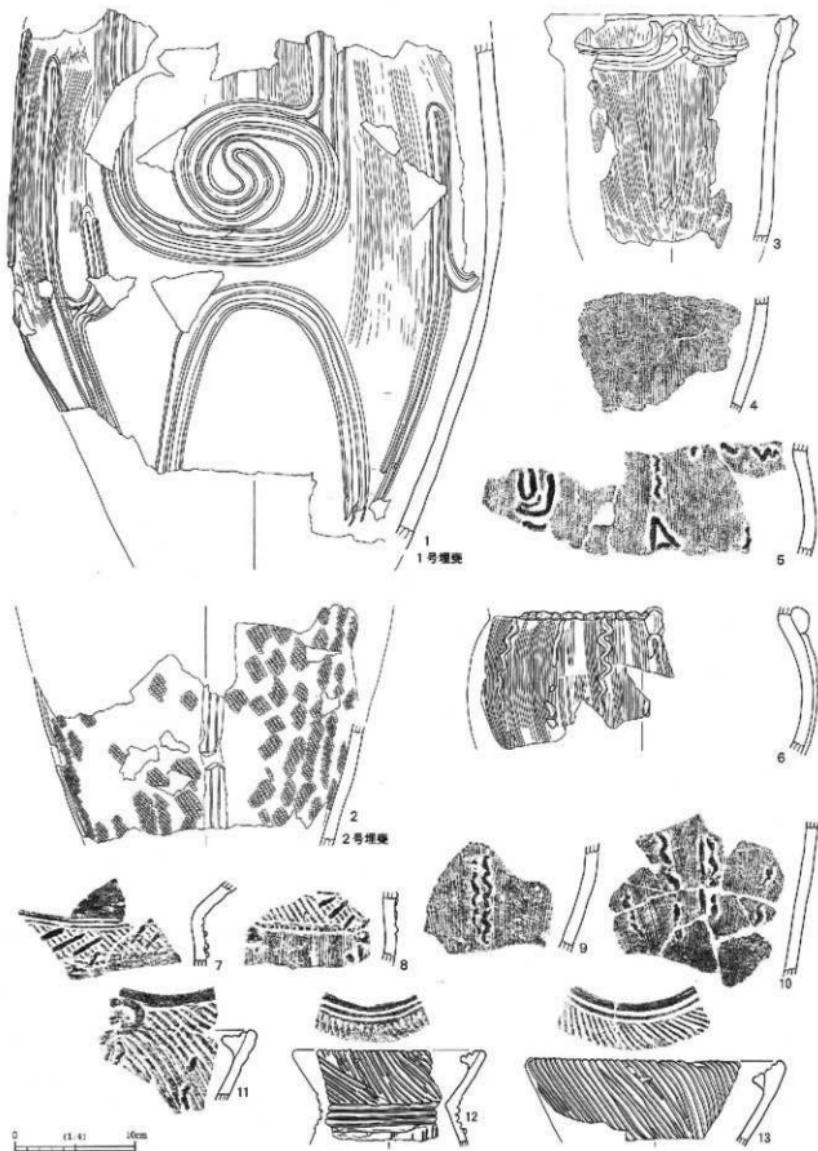
第19図 1号住出土土器③



第20図 2号住出土土器①



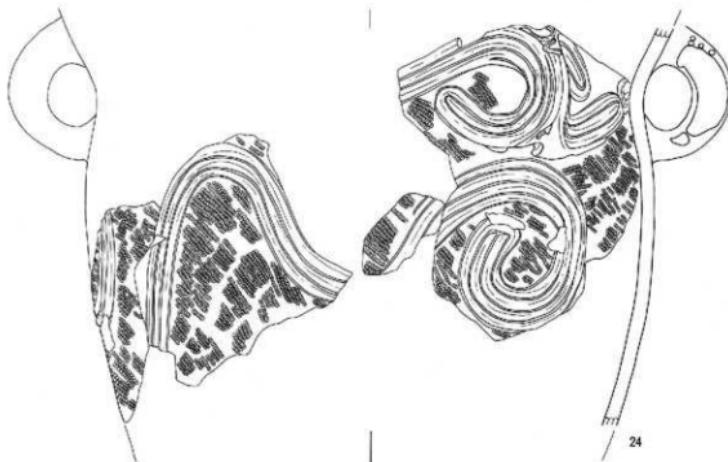
第21図 2号住出土土器②



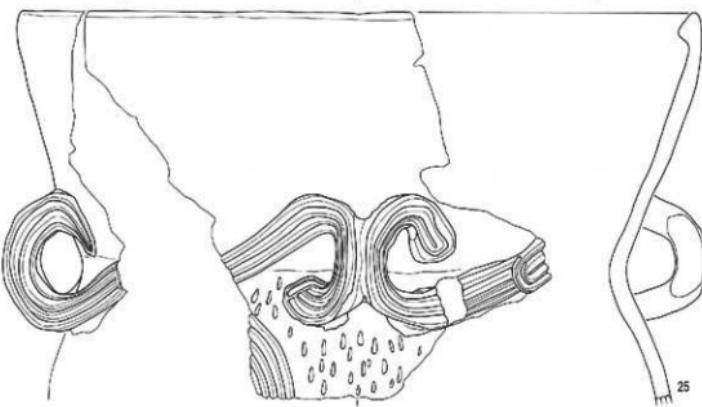
第22図 3号住出土土器①



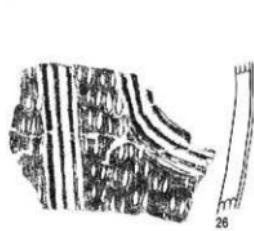
第23図 3号住出土土器②



24



25



26



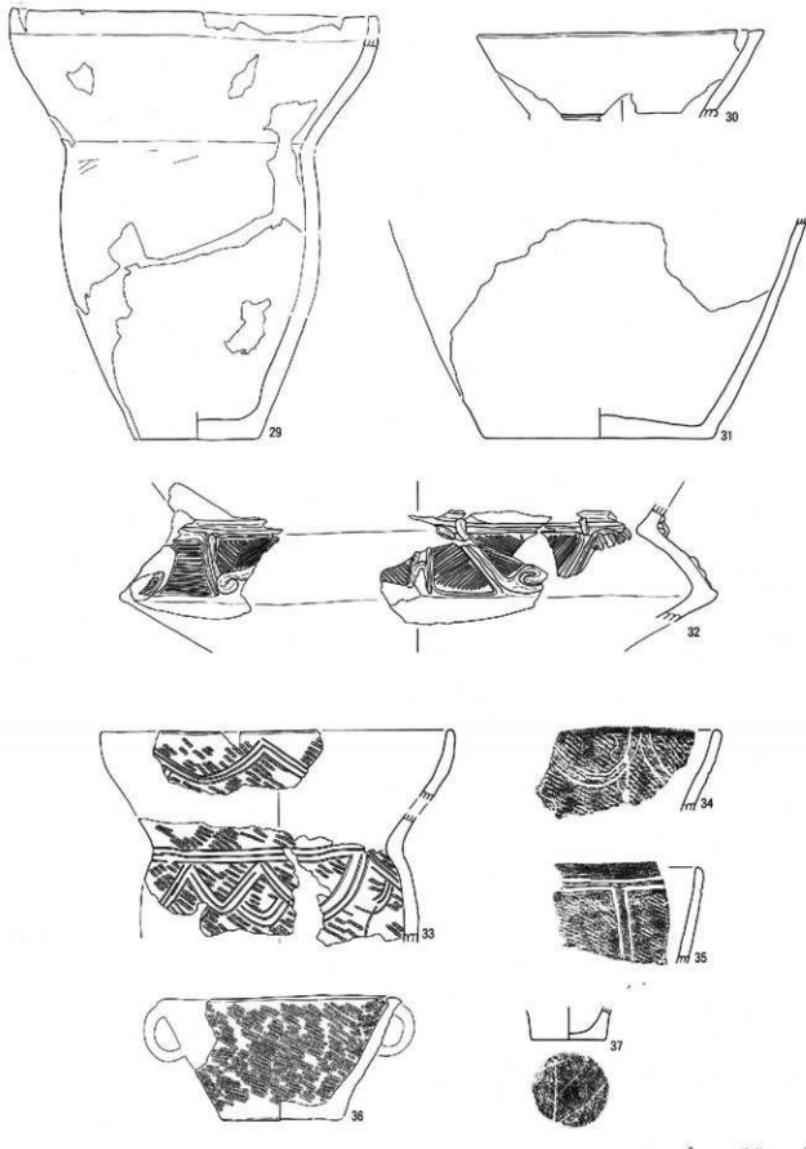
27



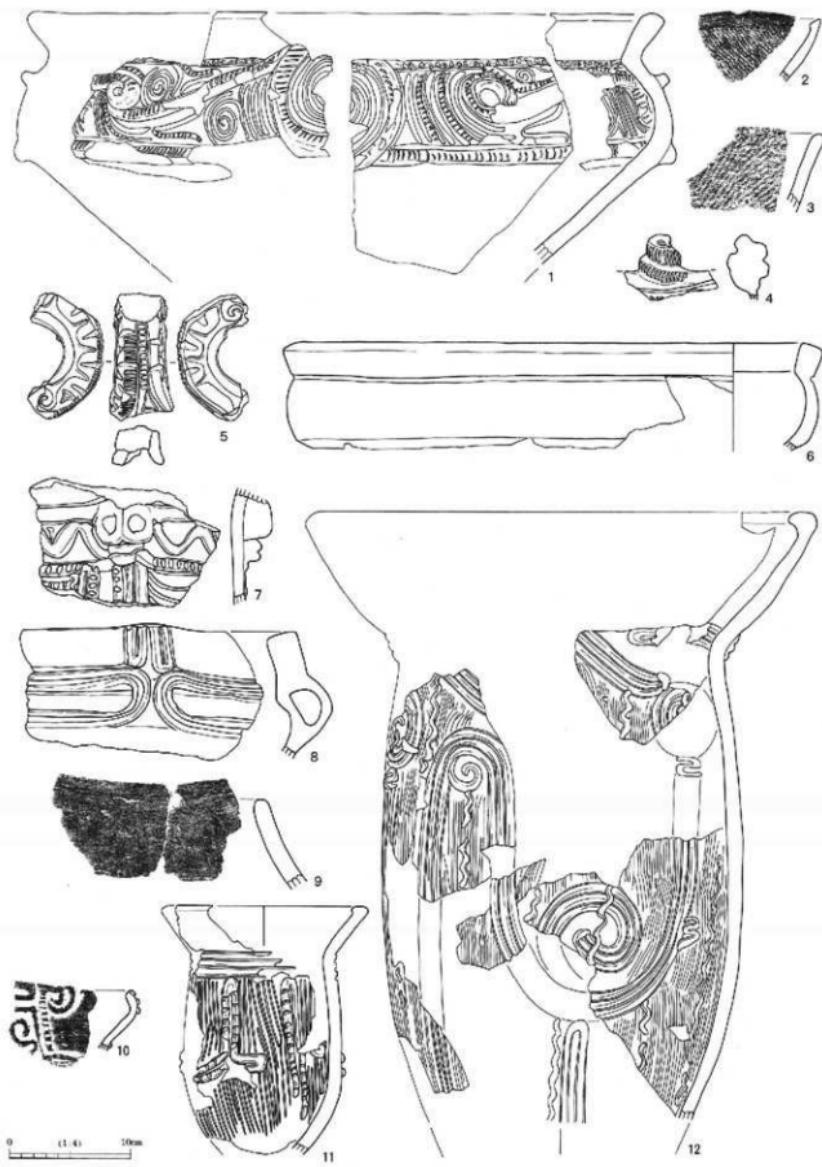
28

1 : 4
10cm

第24図 3号住出土土器③



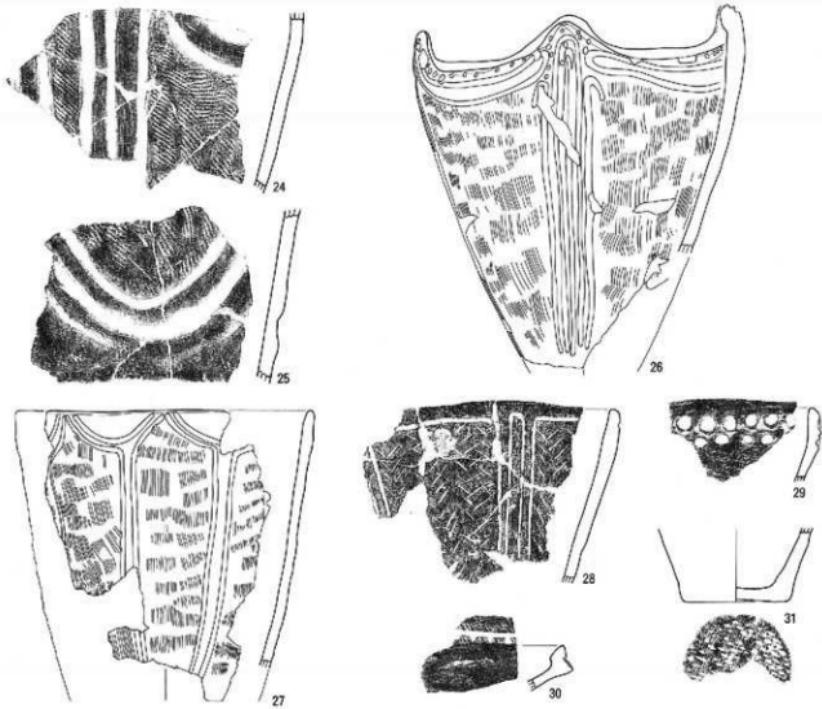
第25図 3号住出土土器④



第26図 4号住出土土器①

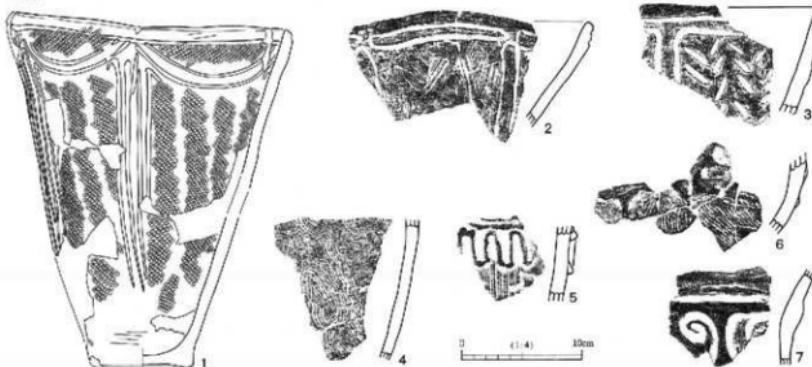


第27圖 4号住出土土器②

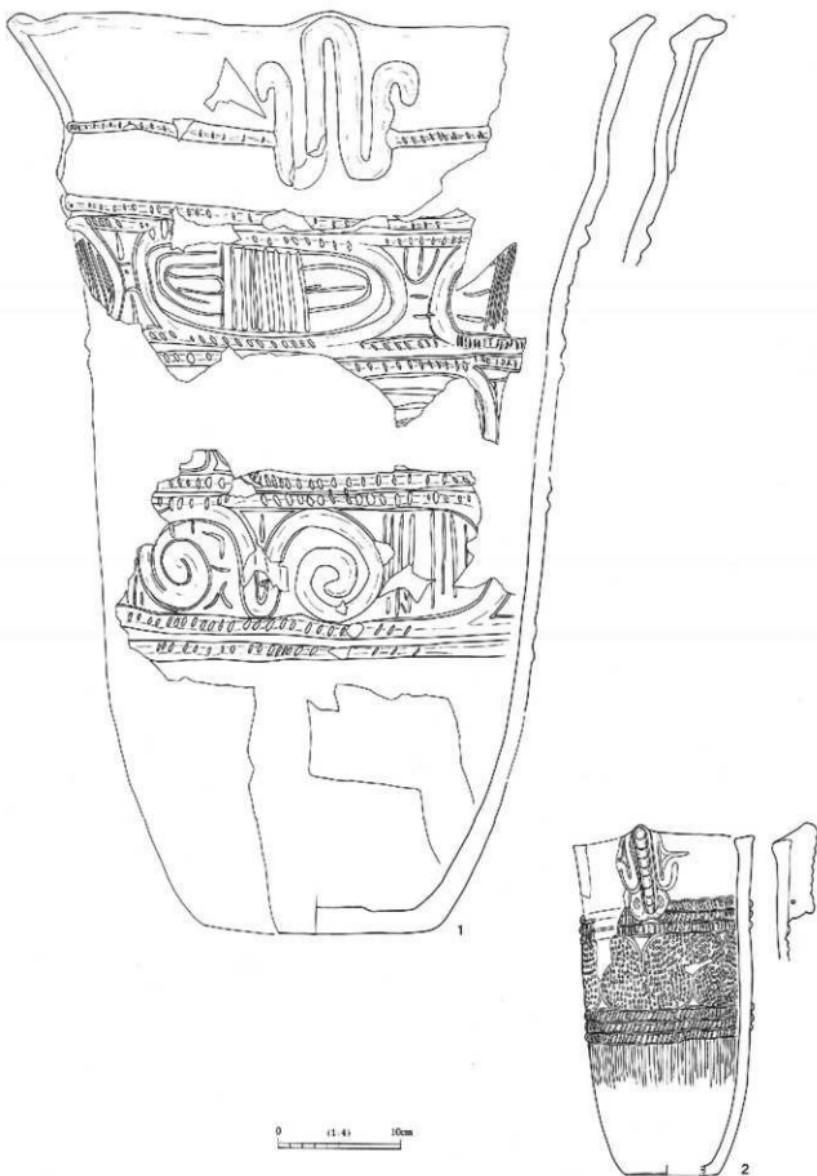


4号住

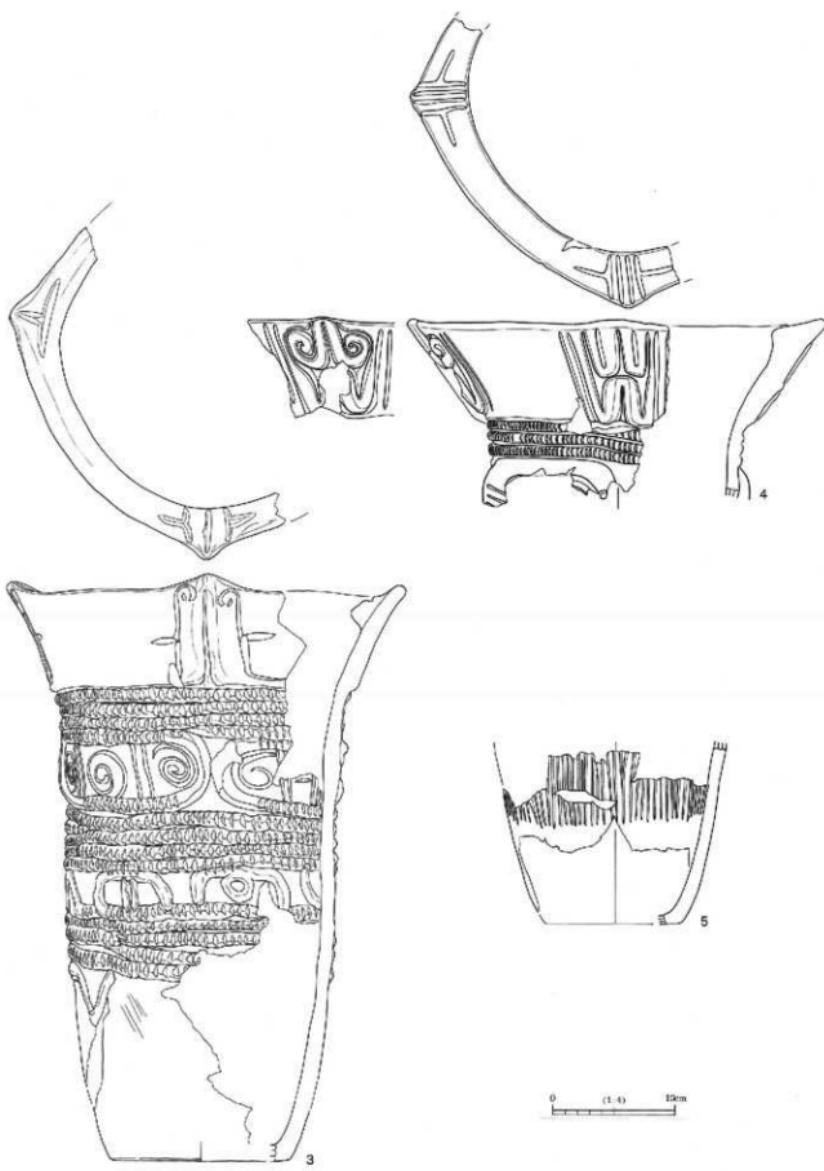
6号住



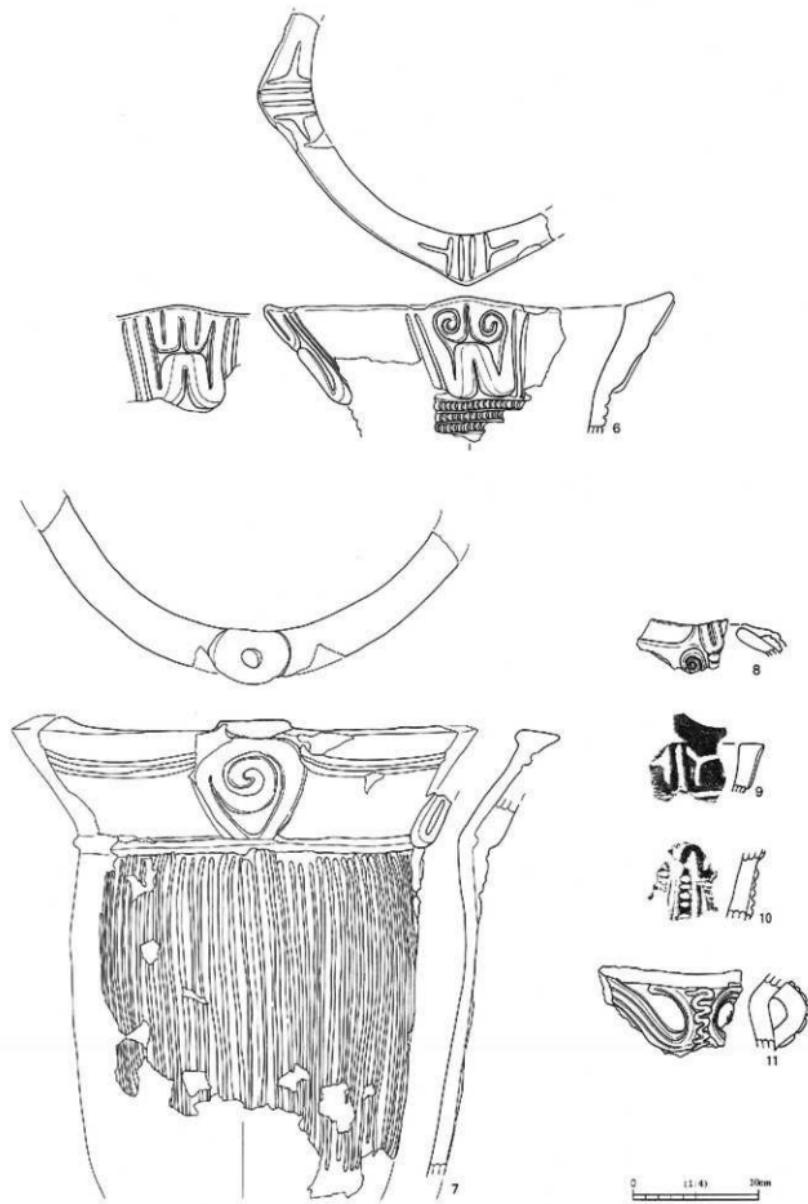
第28図 4号住③・6号住出土土器



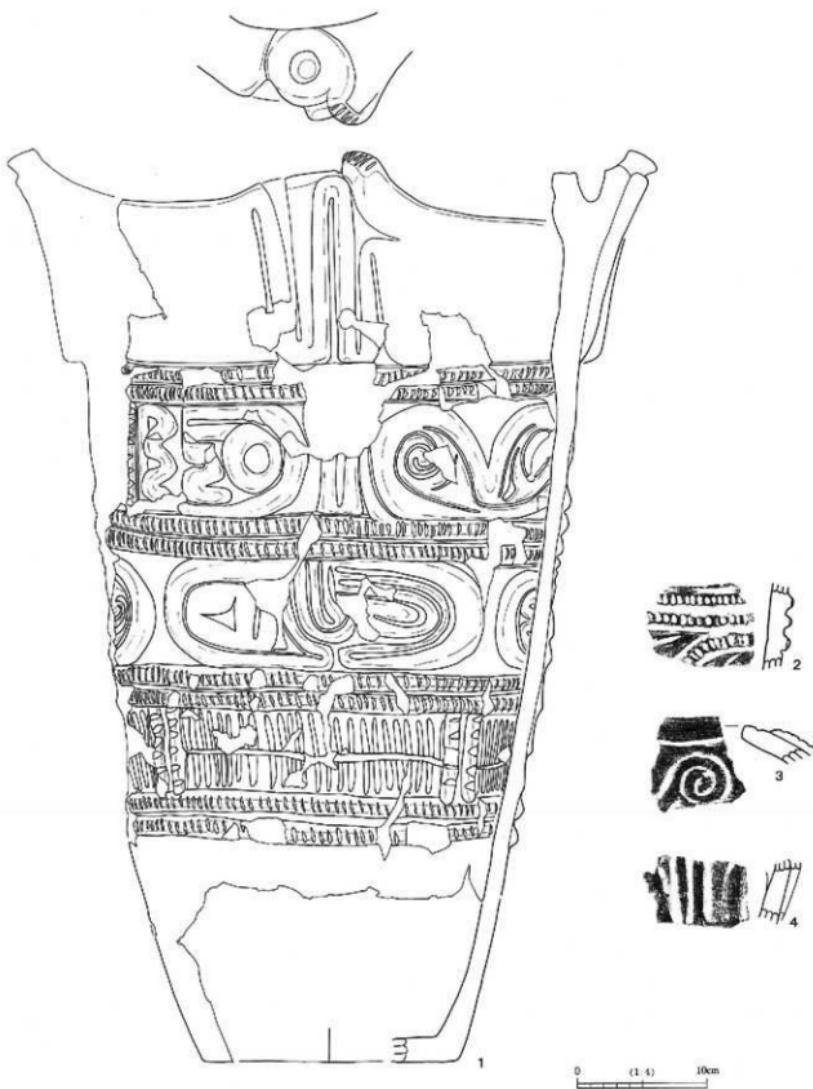
第29図 5号住出土土器①



第30図 5号住出土土器②

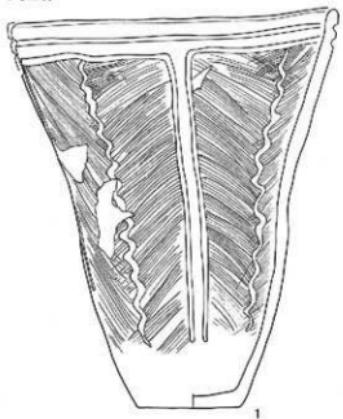


第31図 5号住出土土器③

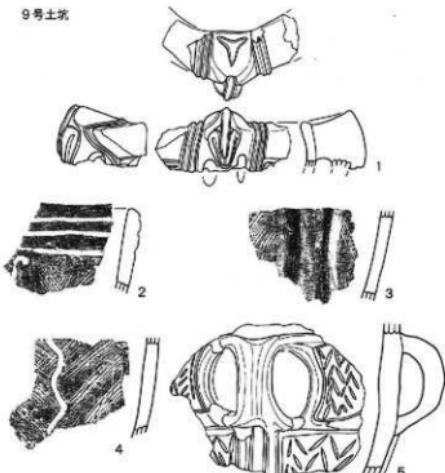


第32圖 4号土坑出土土器

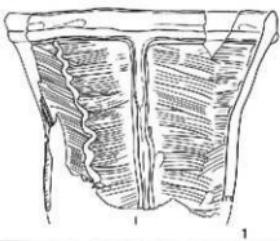
8号土坑



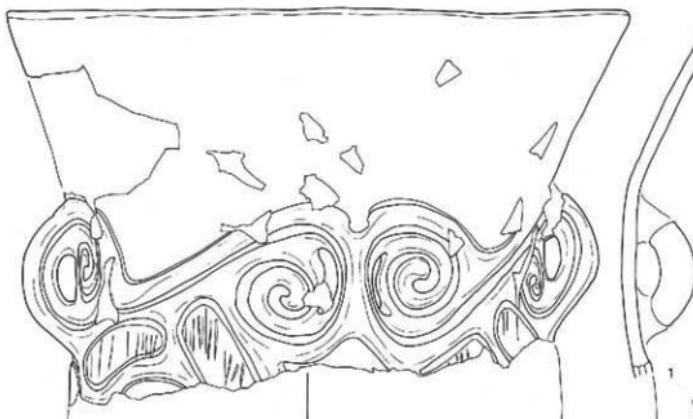
9号土坑



16号土坑

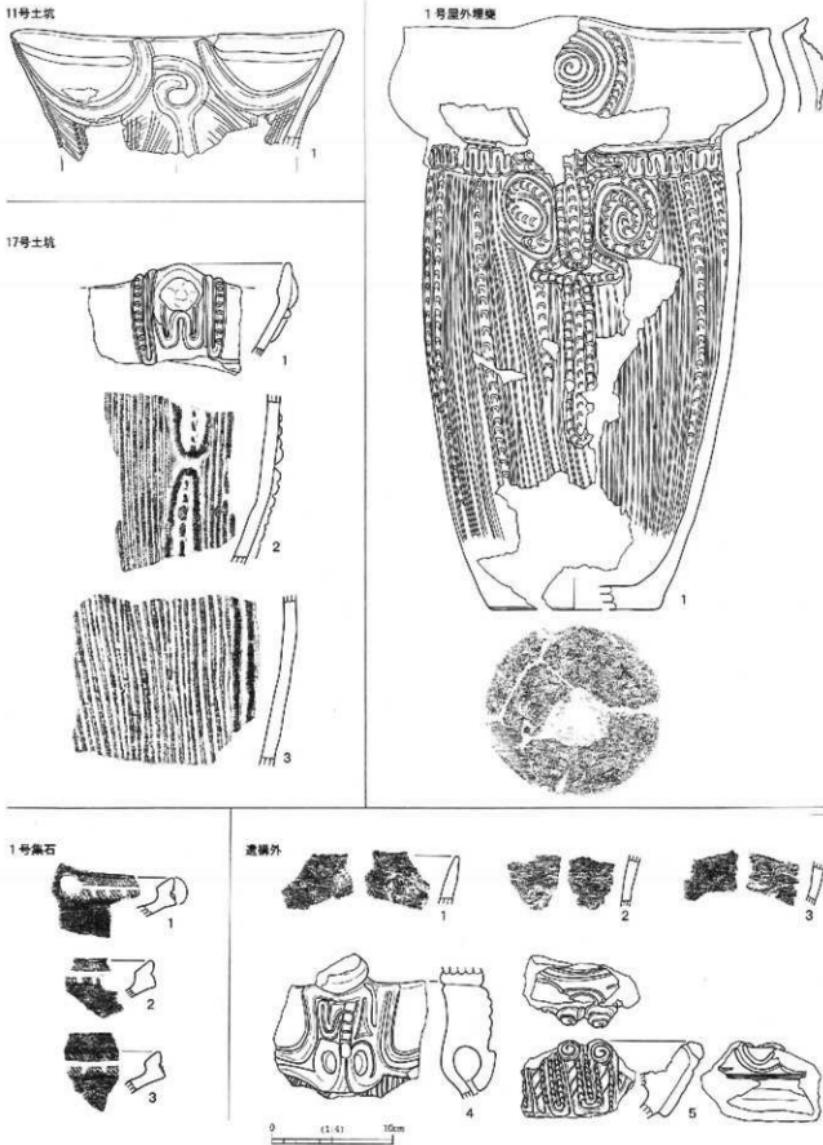


18号土坑

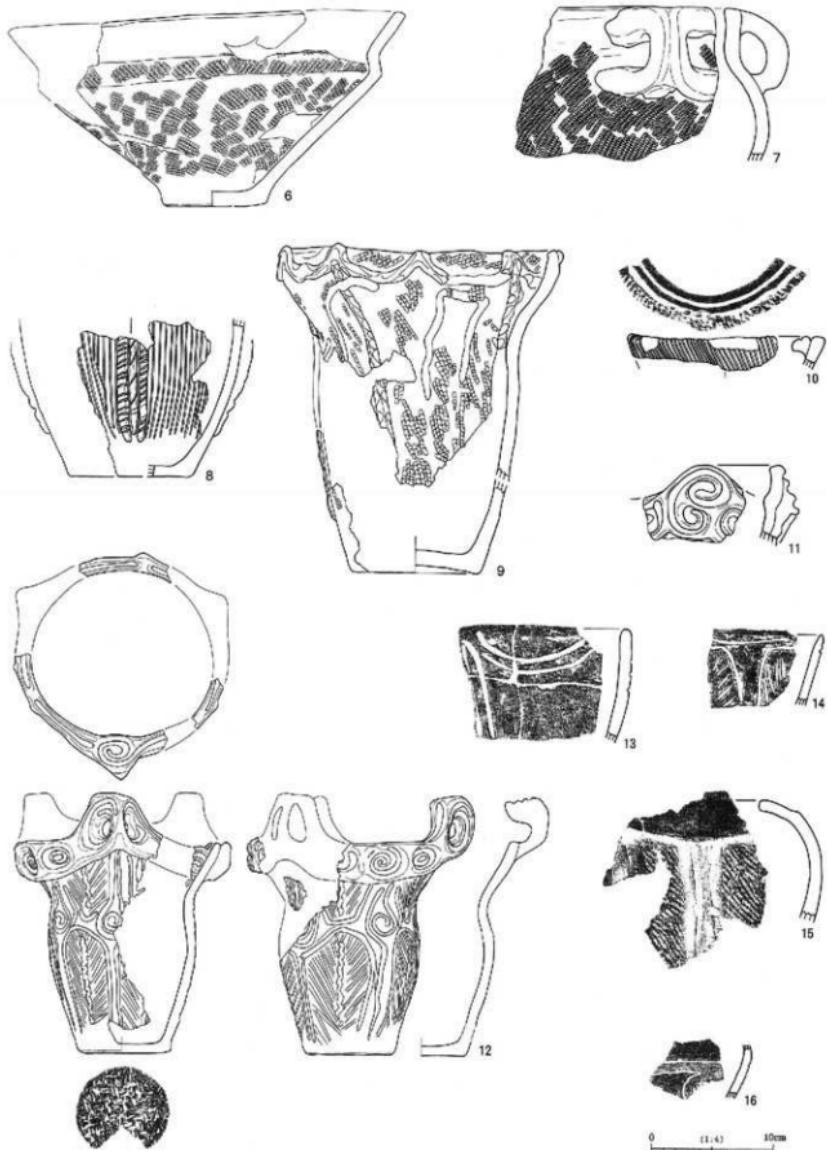


0 (1-4) 10cm

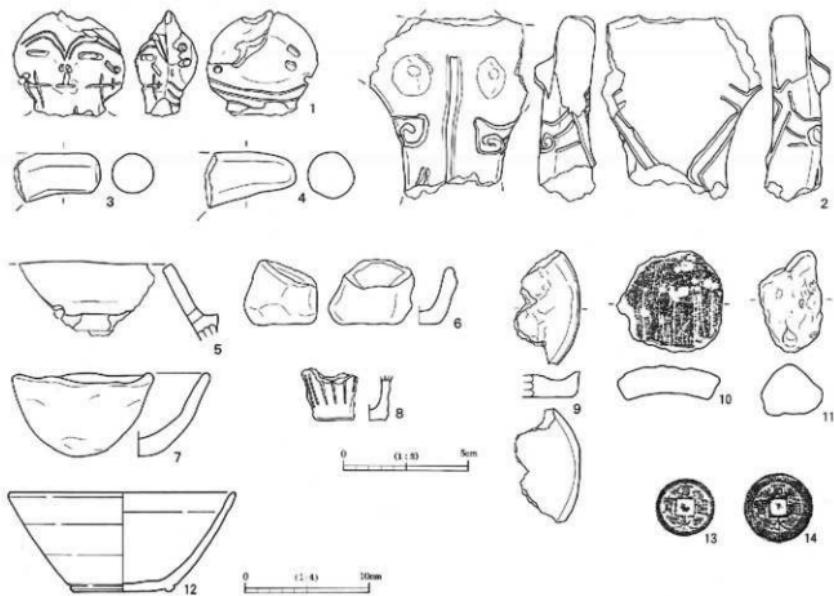
第33図 8・9・16・18号土坑出土土器



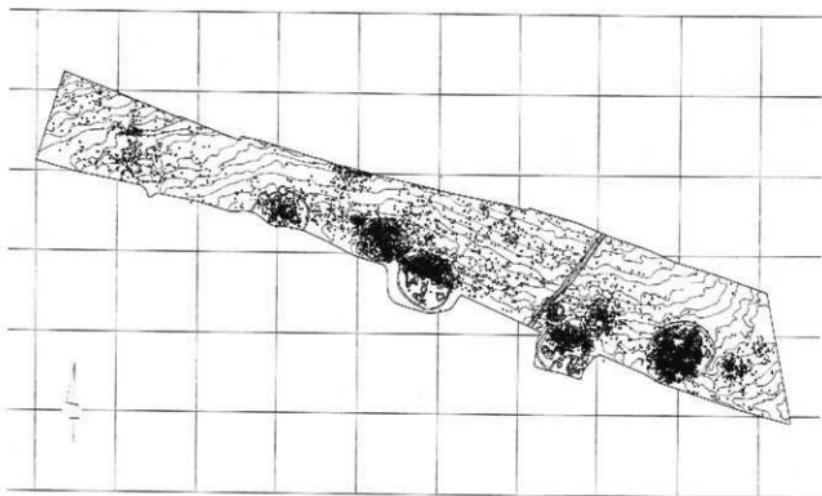
第34図 11・17号土坑、1号屋外埋甕、1号集石、遺構外①出土土器



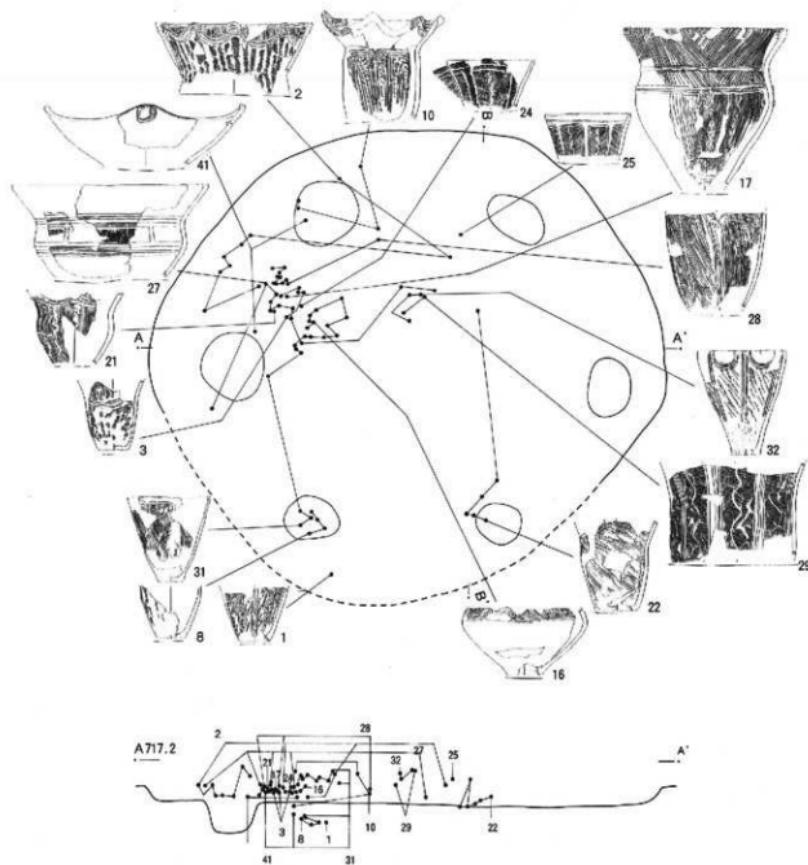
第35図 遺構外出土土器②



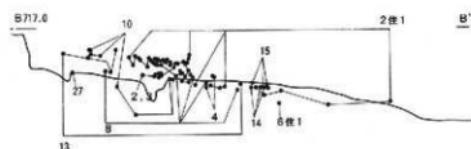
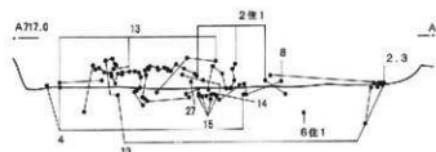
第36図 土偶・土製品他



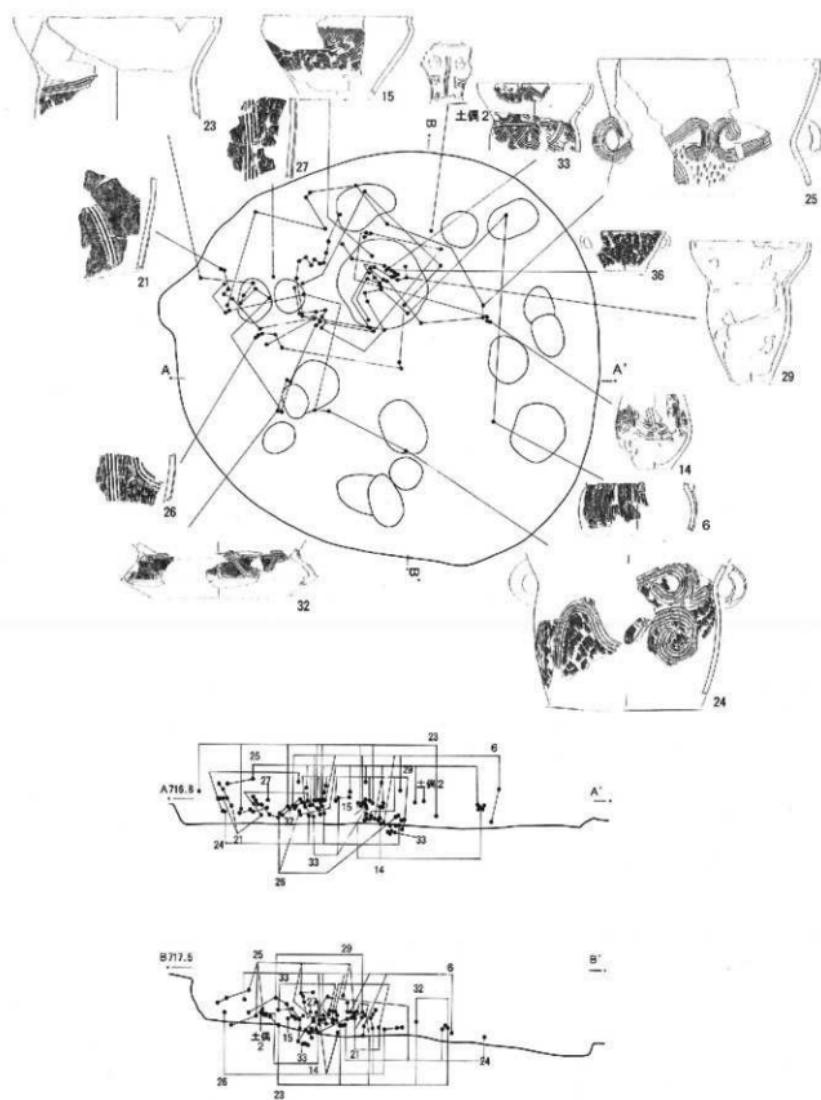
第37図 調査区遺物分布図(1/600)



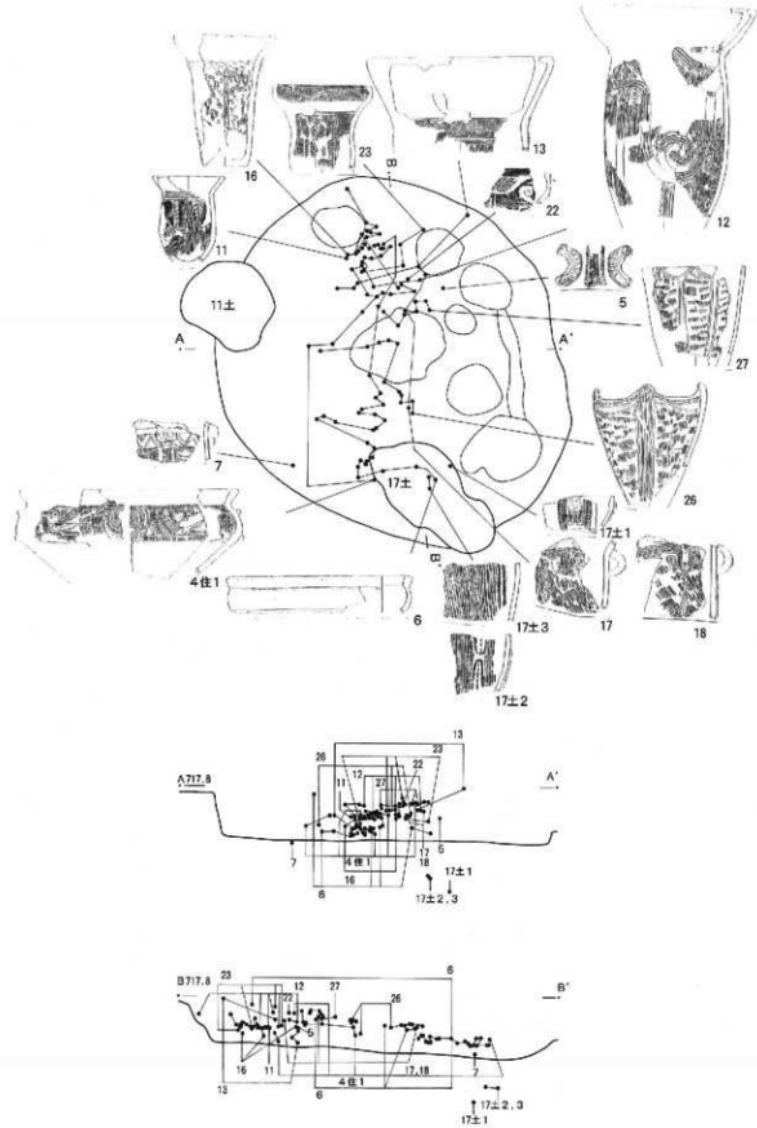
第38図 1号住遺物分布図



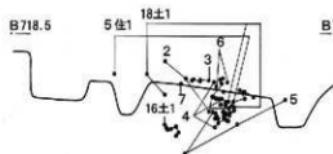
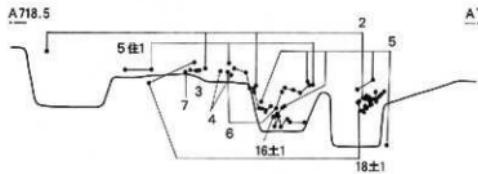
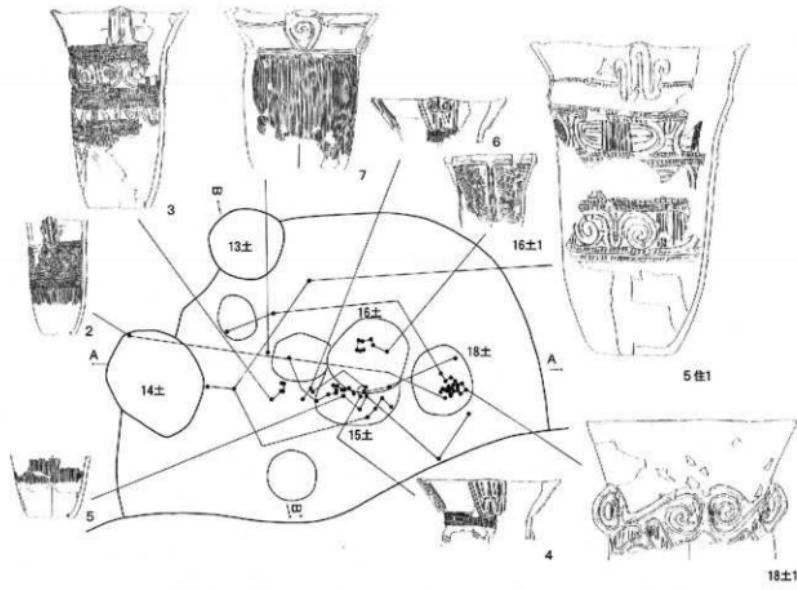
第39圖 2・6号住遺物分布図



第40図 3号住遺物分布図



第41図 4号住他遺物分布図



第42図 5号住他遺物分布図

第2表 居住内ピット一覧表

遺構名	ピット番号	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	備考
1号住居跡	ピット1	B-8	90.0	66.0	34.4		
	ピット2	B-8	113.0	101.0	53.3		
	ピット3	C-8	111.0	99.0	57.1		
	ピット4	C-9	104.0	65.0	48.0		
	ピット5	B-9	97.0	58.0	49.7		
	ピット6	B-9	75.0	65.0	41.2		
2号住居跡	ピット1	C-7	67.0	64.0	66.8		
	ピット2	C-7	69.0	43.0	69.9		
	ピット3	B-7	60.0	55.0	67.3		
	ピット4	B-7	97.0	94.0	71.4		
	ピット5	B-7	55.0	42.0	69.0		
	ピット6	B-7	99.0	93.0	41.5	6号住	
	ピット7	B-7, C-7	60.0	46.0	62.8		
	ピット8	B-7	(100.0)	97.0	27.3	ピット9	
	ピット9	B-7	118.0	95.0	31.5	ピット8	
	ピット10	B-7	67.0	63.0	26.7		
	ピット11	B-7	76.0	58.0	23.5		
3号住居跡	ピット1	C-5	68.0	53.0	50.8	3号住周溝	
	ピット2	C-5	58.0	55.0	41.0		
	ピット3	C-5	68.0	58.0	85.5	ピット4	
	ピット4	C-5	(40.0)	57.0	72.6	ピット3	
	ピット5	C-6	60.0	60.0	57.5		
	ピット6	C-6	80.0	56.0	74.7	3号住周溝	
	ピット7	C-6	(65.0)	50.0	63.5	ピット8	
	ピット8	C-6	(48.0)	50.0	53.0	ピット7	
	ピット9	C-5, C-6	78.0	68.0	35.6		
	ピット10	C-5, C-6	95.0	88.0	26.4		
	ピット11	C-5	(64.0)	63.0	48.9	ピット14	
	ピット12	C-5	53.0	50.0	29.3		
	ピット13	C-5	93.0	66.0	23.1	出土	
	ピット14	C-5	87.0	54.0	43.7	ピット11	
	ピット15	C-5	(82.0)	77.0	40.0	ピット16	
	ピット16	C-5	53.0	41.0	41.0	ピット15	
	ピット17	C-5	56.9	44.5	28.4	3号住周溝	
4号住居跡	ピット1	D-5	81.0	78.0	57.5	4号住周辺切り溝	
	ピット2	D-5	80.0	71.0	58.2	4号住周辺切り溝	
	ピット3	D-5	92.0	69.0	50.6		
	ピット4	D-5	55.0	43.0	46.6		
	ピット5	D-5	85.0	85.0	34.1		
	ピット6	D-5	103.0	(79.0)	56.8	ピット7	
	ピット7	D-5	(80.0)	56.0	61.7	ピット6	
5号住居跡	ピット8	D-5	(82.0)	91.0	85.0	17号土坑	
	ピット1	D-3, D-4	75.0	64.0	53.6		
	ピット2	D-3	86.0	80.0	44.9		
6号住居跡	ピット1	B-7	63.0	57.0	43.3		
	ピット2	B-7	45.0	45.0	13.0	ピット3	
	ピット3	B-7	(105.0)	(85.0)	11.8	ピット1, 部	

()内の数値は残存値を示す

第3表 土坑一覧表

遺構名	時期	図	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1号土坑	-	-	-	-	-	-	1号住ピットに変更したため欠番
2号土坑	-	-	-	-	-	-	消去したため欠番
3号土坑	-	-	-	-	-	-	3号住ピットに変更したため欠番
4号土坑	井戸尻式期	第15図	B-9	69.0	64.0	63.8	壺多數出土
5号土坑	-	-	-	-	-	-	3号住ピットに変更したため欠番
6号土坑	-	-	-	-	-	-	3号住ピットに変更したため欠番
7号土坑	-	-	-	-	-	-	消去したため欠番
8号土坑	曾利IV式期	第16図	C-5	97.0	95.0	86.0	3号住と4号住の間
9号土坑	曾利IV～V式期	第16図	C-7	221.0	206.0	53.3	17号に一部切られている。焼土あり
10号土坑	-	-	-	-	-	-	消去したため欠番
11号土坑	曾利IV式期	第14図	D-5	146.4	131.4	95.0	4号住と重なる
12号土坑	-	-	-	-	-	-	5号住ピットに変更したため欠番
13号土坑	不明	第15図	D-4	120.0	114.0	59.4	4号住と重なる
14号土坑	不明	第15図	D-3	183.0	148.0	69.1	5号住と重なる
15号土坑	井戸尻式期?	第15図	D-4	175.0	131.0	71.8	5号住と重なる。16号土坑に切られる。
16号土坑	曾利IV式期	第15図	D-4	-	108.0	73.7	5号住と重なる。15号土坑を切る。
17号土坑	曾利I式期	第14図	C-5, D-5	235.4	117.7	77.1	4号住と重なる
18号土坑	曾利IV式期	第15図	D-4	112.0	107.0	76.2	5号住と重なる。
1号集石	五箇ヶ台式期	第16図	C-4, C-5	135.0	110.0	40.0	
1分屋外埋臺	曾利I式期	第16図	D-6	63.0	50.0	32.0	逆位に埋設。底部穿孔あり。

第4表 遺物観察表①

第4表 遺物觀察表②

第4表 遺物觀察表③

第5表 1号集石出土砾一覧表①

No.	遺物番号	重量	長軸長(cm)	赤化	煤	保存率	No.	遺物番号	重量	長軸長(cm)	赤化	煤	保存率
1	7206	142.0	6.7	○	○	10	72	7345	149.0	8.6	○	○	9
2	7207	52.0	5.7	○	○	5	73	7347	141.0	6.2	○	○	10
3	7208	1,319.0	13.5	○	○	10	74	7349	182.0	8.9	○	○	10
4	7210	2,000.0	17.6	○	○	5	75	7350	42.0	5.1	○	○	1
5	7211	810.0	13.7	○	○	5	76	7351	117.0	6.8	○	○	7
6	7212	282.0	7.5	○	○	5	77	7352	163.0	7.5	○	○	9
7	7213	668.0	13.0	○	○	10	78	7353	155.0	8.2	○	○	7
8	7216	474.0	9.2	○	○	10	79	7354	45.0	6.7	○	○	5
9	7217	411.0	9.2	○	○	10	80	7355	27.0	4.3	○	○	3
10	7218	664.0	11.5	○	○	7	81	7356	233.0	9.7	○	○	10
11	7219	545.0	11.8	○	○	10	82	7357	52.0	5.6	○	○	5
12	7220	2,080.0	17.7	○	○	7	83	7358	131.0	8.1	○	○	10
13	7222	2,125.0	18.8	○	○	9	84	7360	93.0	7.3	○	○	5
14	7223	42.0	4.3	○	○	7	85	7362	125.0	5.8	○	○	10
15	7224	159.0	7.8	○	○	9	86	7364	892.0	13.7	○	○	10
16	7225	62.0	5.4	○	○	7	87	7365	305.0	8.8	○	○	5
17	7228	177.0	9.7	○	○	3	88	7366	740.0	10.5	○	○	10
18	7232	1,018.0	13.0	○	○	3	89	7367	172.0	7.1	○	○	10
19	7233	847.0	13.4	○	○	10	90	7368	199.0	8.4	○	○	10
20	7234	626.0	9.7	○	○	7	91	7369	377.0	10.7	○	○	10
21	7235	264.0	9.2	○	○	5	92	7370	2,160.0	19.7	○	○	10
22	7236	804.0	11.8	○	○	5	93	7372	1,736.0	16.8	○	○	7
23	7237	709.0	11.1	○	○	3	94	7374	414.0	7.8	○	○	10
24	7239	583.0	14.0	○	○	10	95	7376	861.0	12.8	○	○	10
25	7240	1,017.0	13.7	○	○	10	96	7377	657.0	13.8	○	○	9
26	7241	954.0	13.0	○	○	10	97	7378	983.0	15.5	○	○	10
27	7242	2,010.0	15.3	○	○	10	98	7379	340.0	10.5	○	○	10
28	7243	653.0	12.8	○	○	7	99	7380	410.0	8.8	○	○	9
29	7244	598.0	11.2	○	○	5	100	7381	1,908.0	14.7	○	○	10
30	7245	561.0	10.6	○	○	7	101	7382	365.0	8.7	○	○	10
31	7246	894.0	12.9	○	○	10	102	7383	281.0	9.7	○	○	10
32	7247	1,769.0	15.4	○	○	10	103	7384	739.0	13.2	○	○	10
33	7248	160.0	7.6	○	○	10	104	7385	955.0	14.3	○	○	10
34	7249	254.0	7.8	○	○	7	105	7386	85.0	7.3	○	○	5
35	7250	193.0	8.3	○	○	5	106	7387	204.0	7.8	○	○	10
36	7251	65.0	6.7	○	○	7	107	7424	584.0	10.1	○	○	7
37	7252	206.0	8.5	○	○	5	108	7425	259.0	8.5	○	○	10
38	7254	263.0	8.5	○	○	10	109	7428	488.0	10.4	○	○	10
39	7255	325.0	11.4	○	○	9	110	7429	101.0	7.8	○	○	10
40	7256	2,200.0	14.3	○	○	7	111	7430	461.0	10.7	○	○	10
41	7257	968.0	13.3	○	○	10	112	7431	433.0	10.9	○	○	10
42	7259	1,515.0	16.0	○	○	7	113	7432	102.0	7.0	○	○	10
43	7260	1,499.0	16.3	○	○	10	114	7433	1,886.0	16.9	○	○	10
44	7261	1,138.0	13.6	○	○	7	115	7434	266.0	13.5	○	○	10
45	7262	2,210.0	18.7	○	○	5	116	7435	326.0	8.3	○	○	10
46	7263	508.0	9.6	○	○	9	117	7436	166.0	7.3	○	○	10
47	7264	680.0	11.9	○	○	3	118	7437	268.0	11.2	○	○	10
48	7265	1,192.0	14.4	○	○	7	119	7438	341.0	9.7	○	○	9
49	7266	1,055.0	14.4	○	○	10	120	7439	1,419.0	17.8	○	○	10
50	7267	4,450.0	23.2	○	○	9	121	7440	1,832.0	16.6	○	○	7
51	7268	557.0	11.7	○	○	7	122	7441	2,210.0	18.7	○	○	10
52	7269	1,939.0	18.1	○	○	9	123	7442	300.0	8.8	○	○	10
53	7270	2,100.0	16.3	○	○	10	124	7443	300.0	11.1	○	○	10
54	7271	3,070.0	19.8	○	○	5	125	7444	147.0	7.7	○	○	10
55	7272	2,660.0	18.7	○	○	7	126	7445	430.0	10.3	○	○	10
56	7273	1,588.0	15.8	○	○	10	127	7446	466.0	10.8	○	○	9
57	7274	207.0	9.2	○	○	10	128	7448	221.0	11.1	○	○	10
58	7276	1,500.0	14.1	○	○	9	129	7449	288.0	8.3	○	○	10
59	7278	862.0	12.0	○	○	10	130	7450	393.0	9.2	○	○	9
60	7279	599.0	11.4	○	○	9	131	7451	225.0	7.5	○	○	10
61	7282	173.0	10.2	○	○	9	132	7452	84.0	6.8	○	○	10
62	7284	246.0	7.7	○	○	7	133	7456	394.0	9.6	○	○	10
63	7285	360.0	9.4	○	○	9	134	7457	132.0	7.8	○	○	3
64	7286	277.0	8.5	○	○	7	135	7458	513.0	10.3	○	○	10
65	7287	368.0	12.4	○	○	5	136	7459	25.0	4.7	○	○	10
66	7288	131.0	7.0	○	○	10	137	7460	262.0	9.7	○	○	5
67	7289	371.0	10.7	○	○	9	138	7461	1,995.0	15.5	○	○	10
68	7292	91.0	7.5	○	○	10	139	7462	172.0	6.9	○	○	10
69	7342	191.0	8.0	○	○	7	140	7464	48.0	5.3	○	○	9
70	7343	200.0	8.6	○	○	3	141	7468	205.0	7.6	○	○	5
71	7344	126.0	7.0	○	○	7	142	7469	148.0	6.6	○	○	9

第5表 1号集石出土礫一覧表②

No.	遺物番号	重量	長軸長(cm)	赤化	煤	残存率
143	7470	309.0	8.1	7		
144	7471	150.0	7.9	○	5	
145	7472	90.0	7.8		5	
146	7477	238.0	7.2	○	10	
147	7478	307.0	8.6	○	5	
148	7479	180.0	8.4	○	10	
149	7480	246.0	9.0	○	10	
150	7482	354.0	10.9	○	9	
151	7483	796.0	12.3		10	
152	7484	844.0	12.8	○	10	
153	7485	1,701.0	17.5	○	10	
154	7486	110.0	7.1	○	5	
155	7488	202.0	10.0	○	10	
156	7489	800.0	13.1		5	
157	7490	163.0	9.1	○	5	
158	7491	805.0	13.5	○	7	
159	7492	62.0	5.8		5	
160	7493	222.0	8.3	○	7	
161	7494	187.0	8.9	○	7	
162	7495	110.0	7.8	○	10	
163	7496	252.0	8.7		10	
164	7497	298.0	8.5	○	5	
165	7498	300.0	7.8	○	10	
166	7499	67.0	8.3	○	5	
167	7500	126.0	7.4		5	
168	7501	480.0	13.6		7	
169	7502	113.0	7.4	○	5	
170	7503	298.0	7.9		10	
171	7504	183.0	9.2	○	3	
172	7521	131.0	7.2	○	10	
173	7522	752.0	12.6	○	10	
174	7523	926.0	13.5	○	10	
175	7524	1,188.0	12.8	○	10	
176	7525	264.0	7.7		10	
177	7526	826.0	11.7		10	
178	7528	408.0	9.0		10	
179	7529	281.0	9.9	○	7	
180	7530	164.0	9.0	○	3	
181	7531	255.0	7.4	○	10	
182	7532	281.0	7.6	○	7	
183	7533	163.0	8.0	○	5	
184	7534	102.0	6.2	○	7	
185	7536	663.0	12.6		7	
186	7537	1,301.0	20.3	○	7	
187	7538	152.0	7.1	○	7	
188	7540-1	357.0	9.2	○	10	
188	7540-2	139.0	6.8	○	7	
190	7541	126.0	6.6	○	7	
191	7543	1,138.0	14.0	○	7	
192	7546	152.0	6.8	○	1	
193	7547	136.0	7.6	○	7	
194	7549	42.0	6.7		7	
195	7550	153.0	7.5	○	10	
196	7551	126.0	7.4	○	10	
197	7552	82.0	4.7	○	7	
198	7553	18.0	5.1	○	3	
199	7554	15.0	5.0	○	7	
200	7555	575.0	11.7	○	5	
201	7556	594.0	13.0	○	3	
202	7557	332.0	9.7	○	7	
203	7558	293.0	7.4	○	3	
204	7559	430.0	9.9	○	9	
205	7560	429.0	9.9		10	
206	7563	1,037.0	12.6	○	7	
207	7564	102.0	6.9	○	10	
208	7565	225.0	8.8		10	
209	7567	317.0	8.7	○	5	
210	7569	104.0	7.3	○	10	
211	7570	107.0	7.9		10	
212	7572	114.0	6.7	○	7	
213	7583	23.0	4.8	○	1	

第6表 1号集石出土器一覧表

No.	遺物番号	器種	重量(g)	長軸長(cm)	赤化	煤	割れ率
1	7209	敲石	355.0	9.3	○	10	
2	7215	敲石	590.0	11.9	○	9	
3	7238	敲石	267.0	8.5	○	10	
4	7258	敲石	340.0	10.1	○	5	
5	7277	敲石	523.0	9.7	○	9	
6	7346	敲石	250.0	7.4	○	10	
7	7373	敲石	581.0	11.2	○	5	
8	7375	敲石	327.0	9.0	○	7	
9	7447	敲石	277.0	10.2	○	10	
10	7453	敲石	283.0	9.5	○	5	
11	7454	敲石	309.0	9.3	○	9	
12	7455	敲石	227.0	7.7	○	10	
13	7481	敲石	179.0	9.4	○	7	
14	7539	敲石	133.0	7.8			5

第7表 遺構別出土土器内訳表

第4章 石器分析

1. 上条宮久保遺跡の出土石器について

(株)アルカ 高橋哲、池谷勝典

1) 整理方法

資料化にあたり、まず石器の属性表を作成し、遺構ごとに器種組成を検討した。次いで、黒曜石製石器を中心に使用痕分析を試みた。これらを総合して、井戸尻式期と曾利Ⅱ式期の石器から特徴的な石器を抜き出し図化した。

図化資料は時期ごとに組んである。これ以外に図化対象外を含め、遺構単位、グリッド出土は器種ごとに集合写真で撮影し、出土石器を資料化した。

2) 器種

特に名称に注意するもののみ、下に記述した。

削器は加工で刃部を作り出した石器である。素刃削器は刃部以外の縁辺に加工がみられるが、刃部には加工がなく微小剥離痕がみられる石器である。使用痕剥片は意図的な加工の痕跡はないが、縁辺に微小剥離痕がみられるものである。搔器は片面加工で急角度の刃部をもつ石器である。

断片は加工がみられるが、石器の破損が著しく器種が特定できない石器である。二次加工剥片は、素材剥片に折れ加工がみられた石器である。剥片と分類したものは二次加工がみられない上素材剥片の打面部分が欠損し、剥片剥離技術が特定できない石器である。

3) 石器群の検討

※住居

井戸尻式期

4号住居跡

出土石器は、黒曜石が9点、黒曜石以外が21点である。黒曜石製石器の使用痕剥片2点、縦長剥片2点、剥片2点、両極石器1点、石核1点、剥片1点、黒曜石以外では、削器3点、打製石斧6点、二次加工剥片1点、石器断片3点、縦長剥片1点、剥片1点、剥片4点、自然礫2点である。

5号住居跡

出土石器は、黒曜石が7点、黒曜石以外が24点である。黒曜石製石器の凹基築1点、石錐未製品1点、使用痕剥片2点、縦長剥片1点、両極石器2点、黒曜石以外では、横形石匙1点、削器2点、搔器1点、打製石斧3点、箇状石器1点、二次加工剥片2点、石器断片1点、縦長剥

片2点、横長剥片2点、剥片1点、石皿1点、敲石・磨石3点、剥片3点、礫断片1点である。4号住居は比較して器種組成が豊富である。石皿(図1)の裏面には、多くの凹痕があり、多孔石(蝶の巣石)と同じ凹痕を持っている。

曾利Ⅱ式期

1号住居跡

出土石器は、黒曜石が41点、黒曜石以外が19点である。黒曜石製石器の石錐未製品2点、石錐1点、削器1点、使用痕剥片5点、両極石器3点、石器未製品1点、二次加工剥片1点、断片1点、縦長剥片11点、横長剥片1点、剥片4点、剥片5点、石核5点、黒曜石以外では、削器1点、搔器1点、使用痕剥片1点、打製石斧5点、箇状石器1点、縦長剥片1点、横長剥片1点、石皿1点、敲石・磨石類5点、自然礫2点、礫断片1点である。

2号住居跡

出土石器は、黒曜石が19点、黒曜石以外が30点である。黒曜石製石器の素刃削器1点、使用痕剥片1点、両極石器1点、二次加工剥片1点、縦長剥片5点、横長剥片2点、剥片2点、石核1点、石核成形剥片2点、剥片3点、黒曜石以外では、削器3点、打製石斧9点、定角式磨製石斧1点、石器未製品2点、石器断片1点、縦長剥片1点、横長剥片2点、剥片1点、摩耗礫1点、敲石3点、剥片4点、自然礫4点である。

3号住居跡

出土石器は、黒曜石が16点、黒曜石以外が30点である。黒曜石製石器の凹基築1点、石錐2点、搔器1点、素刃削器1点、使用痕剥片2点、両極石器2点、石器断片2点、縦長剥片1点、石核2点、剥片2点、黒曜石以外では、搔器1点、素刃削器2点、削器3点、使用痕剥片1点、石器断片1点、縦長剥片1点、打製石斧7点、剥片7点、台石1点、敲石6点、摩耗礫1点、礫断片3点、自然礫1点である。

曾利Ⅴ式期

6号住居跡

出土石器は、黒曜石が3点、黒曜石以外が7点である。黒曜石製石器の両極石器1点、石核2点、黒曜石以外では、削器1点、打製石斧3点、敲石6点、剥片1点である。

※その他の遺構

3号土坑：黒曜石製石器の剥片が1点。

4号土坑：黒曜石以外のみ、削器1点、使用痕剥片1点、断片1点。

6号土坑：黒曜石以外のみ、打製石斧未製品1点。

8号土坑：黒曜石以外のみ、箇状石器1点。

9号土坑：黒曜石以外のみ、敲石2点。

11号土坑：黒曜石製剥片が3点。

1号集石：敲石14点。

1号構：黒曜石製石鍛未製品1点。

※遺構外

出土石器は、黒曜石が99点、黒曜石以外は143点である。黒曜石製石器の凹基歯5点、石鍛未製品5点、搔器2点、削器1点、使用痕剥片11点、二次加工剥片5点、石器断片1点、両極石器10点、継長剥片16点、横長剥片9点、剥片8点、石核8点、石核成形剥片1点、裂片17点、黒曜石以外では、石匙2点、搔器1点、削器類11点、使用痕剥片6点、石棒1点、石器断片6点、打製石斧60点、乳棒状磨製石斧1点、多孔石3点、敲石・磨石類14点、特殊磨石1点、二次加工剥片2点、剥片類17点、裂片13点、自然礫類8点が出土している。

打製石斧は未製品や断片を含め60点出土している。1点分鋼形、1点撥形をのぞけば、ほとんどが短円形の平面形態である。ハードハンマーの直接打撃で縁辺ならびに刃部を加工している。

乳棒状磨製石斧は1点で、刃部が欠損している。敲打加工の後、研磨によって整形している。おそらく井戸尻式期に属する石器と考えられる。

住居出土の石器を検討すると（表1）、石鍛、打製石斧、削器、使用痕剥片、箇状石器が井戸尻式・曾利式期に渡り共通に確認できた器種である。これに井戸尻式期に石皿、曾利式期に定角式磨製石斧が1点づつ出土している。この石皿と定角式磨製石斧がみられることを除けば、両時期の石器組成に大きな差がみられない。しかし曾利式期は外来の文化要素がはいりこんで成立した可能性があり、石器組成だけでは捕らえられない製作技術、使用方法に差が生じる可能性が考えられる。そこで石器を石材、剥離面分析、使用痕分析を通して、両時期の差が生じるかどうか検討してみたい。

4) 分析

※石材

石材は黒曜石、チャート、硬砂岩、ホルンフェルス、頁岩、安山岩、凝灰岩、蛇紋岩などで構成されている（表2）。

黒曜石、硬砂岩、ホルンフェルス、頁岩が井戸尻式・曾利式期の両時期にみられる主要な石材である。この内、近隣で採取されたと考えられる石材が硬砂岩、ホルンフェルス、頁岩である。

一方近隣で採取できないと考えられる石材は黒曜石と蛇紋岩である。黒曜石は、原産地分析の結果、信州和田岬産が若干含まれる他は、ほとんどが信州諏訪星ヶ台産

であることが明らかになった。一方で1点井戸尻式期の住居から神津島産黒曜石（遺物番号6965）が確認できた。器種は両極剥片であり、非常に小形である。この原産地産の剥片や裂片例は出土していない。この時期に神津島産黒曜石がこの地域に入り込むことは非常に珍しく今後類例を探す必要がある。

黒曜石製は、石鍛、石錐、削器、使用痕剥片にはほぼ限定される。特に石鍛は黒曜石のみであった。

蛇紋岩は、曾利Ⅱ式期の2号住居跡から出土している。器種は定角式磨製石斧である。出土石器中で、素材剥片、裂片などが確認できなかった唯一の石材である。おそらく製品として遺跡内に持ち込まれたと考えられる。

石材からみた井戸尻式期と曾利式期の差は蛇紋岩製の石材の有無のみである。

※製作技術

使用痕観察方法として、キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ（VH-7000）による低倍率ズーム（VH-Z 05）用いて低倍率の観察をおこなった。観察倍率は、5倍～40倍である。

上条宮久保遺跡の剥離技術について、押圧剥離（プレッシャーフレイキング：「P」と表記）は、変形する工具（ソフトハンマー）だが、剥離の開始部にコーン（剝れ円錐）が発生するので、適度に変形するソフトハンマーといえる。真性のソフトハンマーではないので、これらで生ずる剥離面を「S」として記述した。よって上条宮久保遺跡の押圧剥離には「SP」と表記される押圧剥離面がある。また石鍛や削器の中に非常に細い押圧剥離があり、これらは「nSP」と表記した。この剥離により鉛筆線を作出している。

硬砂岩やホルンフェルスの大形の剥片類や素材剥片の剥離には、大きなコーンを形成するハードハンマーが用いられている。これらは直接打撃なので「HD」と表記した。上条宮久保遺跡の直接打撃は、ほぼ100%がハードハンマーによる剥離であり、硬砂岩やホルンフェルスの削器の形態形成や一部の刃部を形成する剥離にも用いられている。

間接打撃（インダイレクト・フレイキング：「I」と表記）も同様に、「SI」と「HI」の2種類がある。間接打撃は、手に保持することができない小さな石核もしくは石器に適用される。剥離軸がまっすぐな石刃タイプの縦長剥片の加工に用いられることが特徴である。黒曜石の素材剥離に用いられた技術であろう。

両極打撃という剥離技術は、石核を台石などに接ししてハードハンマーの垂直打撃によって生ずる。石核を手に保持しても垂直打撃による剥離は、打点が潰れ、コー

ンが未発達で、バルブが発生せず、強いうねりのリングが主要剥離面を覆う。両極打撃も含めて、垂直打撃の剥離技術を「HvD」と表記した。この技術は黒曜石によくみられる。

・石鎚(図8)

石鎚は、ハンマー径が細く圧縮力の強いソフトハンマー(nSP)で鋸歯線に縁辺を作出している。井戸尻式・曾利Ⅱ式期にかけて石鎚の製作技法に変化はなかった。

・削器

黒曜石製剝器は継長剥片を素材とし、長い1辺に刃部を作出している。曾利Ⅱ式期の2号住居跡から出土した削器は、継長剥片を素材とし、打面側と末端側に加工をいれ、抉りを形成している(図2,7078)。素材の取り方、加工の入れ方と、青森県上野尻遺跡で確認できた縄文前期後半の抉入削器(高橋2003)と類似している。黒曜石以外の削器は横長剥片を素材とし(図1,7319、図2、西北括資料)、井戸尻式期、曾利Ⅱ式とともに鋸歯線刃部を作出している。

曾利式期に抉入削器類似資料がある他は、全体に井戸尻式期と曾利式期の間で、差はみられなかった。

・素材剥片(図8、表3)

井戸尻式期は、概ねハードハンマーの垂直打撃か直接打撃(図8写真4)で素材が取られている。黒曜石は継長剥片が主体である。黒曜石以外は横長剥片が主体である。

曾利式期の黒曜石も継長剥片が主体である。継長剥片には、非常に小形(図2,6600)が出土している。継長剥片の中には打面部に加工をいれ打面に厚みを除去した資料があり(図8写真3)、間接打撃の可能性がある。黒曜石以外は、石材は横長剥片が主体である。

・黒曜石製石核(図8)

石核について、井戸尻式期には明確な石核は確認できず、両極石核の石核が1点であった。開始部は砕けており(図8写真7)、ハードハンマーの垂直打撃で剥離している。

曾利式期は、平坦もしくは自然面、原礪面を打面とし、ハードハンマーの直接打撃である(図8写真6)。

1点間接打撃と考えられる石核が出土している(図8写真5)。打面部は砕けており、剥離に失敗して廃棄されたと考えられる。作業面は縦に長い、石刃状であり、こうした素材が使用痕剥片の素材や小形継長剥片(図2,6600)になったと考えられる。

・打製石斧

石斧は、素材の縁辺をハードハンマーの直接打撃で整形加工している。曾利式期になると、打製石斧の厚みがまし、基部の側辺を潰したような痕跡がみられる。曾利V式になると、明確な基部と、柄に装着することを意識し

た、側辺の作りとなり、短冊からしやもじ形に近くなる。
まとめ

黒曜石製石器の素材剥離で、曾利Ⅱ式期に間接打撃や細石刃石核の様な小形石核や細石刃剥片が出土している。上条宮久保遺跡の資料を観察する限り、曾利Ⅱ式期により明瞭な縦長剥片もしくは石刃状剥片をとる技術が存在していた可能性がある。

器種組成では、1点曾利期に抉入削器類似資料が確認できた。

※使用痕分析

使用痕観察方法として、キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ(VH-7000)による低倍率ズーム(VH-Z05)と高倍率ズームレンズ(VH-Z450)を用いて高倍率の使用痕光沢の観察をおこなった。観察倍率は、5倍～40倍と450倍～1000倍(倍率はマイクロスコープでの倍率で従来の金属顕微鏡の倍率比とは異なる)である。観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。

観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕属性分類は御堂島の分類基準(御堂島1986・1988)によっている。

黒曜石製石器は、削器、搔器、使用痕剥片を観察した。
・削器(図3)

図3上段に掲載した削器は、継長剥片を素材とし、打点側と、末端側に加工をいれ、抉りを整形している。刃部には微小剥離痕が顕著に認められた。線状痕は平行方向であり(写真1と2)、光沢は微妙に表面が変化していた(写真3)。

図3中段は、継長剥片を素材とし、その1辺に平行の線状痕がみられた。被加工物を切断する機能が推定できる。

・搔器(図3下段)

搔器(6175)は加工で刃部範囲を明確にし、その内側に弧状の刃部を作出している。刃部の摩擦と光沢、刃部に対して直交方向の線状痕が確認できた(写真1)。刃部以外の縁辺は、黒曜石本来の面をよく残している(写真2)。

・使用痕剥片(図4,5)

図5の使用痕剥片(6600,6254)は、小形の細石刃状の形態である。6600の左辺に微小剥離痕がみられ、その部分に明瞭ではないが、平行の線状痕がみられた。光沢は確認できなかった。6254もかすかに線状痕がみられ(写真1)、反対辺にはみられなかた(写真2)。

他の使用痕剥片(図4)は継長剥片を素材とし、刃部に対して平行方向の線状痕が確認できた。掲載した資料

は井戸尻式・曾利式期の使用痕剥片であり、特に時期的な差が使用方法の差としては確認できなかった。

図5の上段に掲載した使用痕剥片は、遺構外出土である。使用痕とは、同じく平行方向の線状痕がみられた。遺構外出土の他の使用痕剥片も同じ痕跡を残している。

微小剥離痕のみられる使用痕剥片はこれまでの石器組成においてあまり扱われなかつた。同種石器は、長野県木曽地域の板敷野遺跡（加曾利E3・E4式期）にも確認され（高橋2003）、縄文中期の長い期間にわたり使用されてきた石器である。今後この種の石器の用途が重要なとなるであろう。

・黒曜石以外の石器（図6）

黒曜石以外の石器を観察した。石匙や削器、打製石斧、鎌状石器である。石匙や削器は、代表的な2点を資料化した。結果的には、表面の風化が激しく使用痕は確認できなかつた。安山岩製の横形石匙は、一部光沢は写真1のようにみられるが、広がることはなく、部分的なので使用痕光沢と認定できなかつた。硬砂岩製の削器は、刃部に写真1と2にみられる光沢がみられたが、この光沢は石器表面全面に形成されており、使用痕と認定するのは困難であった。

・打製石斧・鎌状石器（図7）

ほとんどが明瞭な土ズレなどの摩耗痕跡が確認できなかつた（図7, 6587）。

鎌状石器は、素刃と打製刃部があり、打製刃部は、打製石斧と比較し、片刃の急角度刃部である（図7, 6673）。打製石斧と比較し刃部の形態が異なり、機能が異なる可能性がある。

・敲石（図9）

安山岩製の亜角礫を素材とし、その平坦面に凹痕が数箇所観察される。それらの凹痕の特徴は、敲打痕が集中して凹痕を形成していることがわかる（図9写真2）。また、敲打痕の広がりは石器の対称軸に対して右斜め方向に斜行するのが特徴である（図9写真1）。このように敲打痕が斜行する現象は、この敲石の運動方向をしめしている可能性が高く、さらに対象物が先端の尖ったものか角張ったものであり、クルミ等を推定している（池谷2003ab, 2004）。（池谷）

・摩耗縫（図9）

砂岩製である。人形の河原礫の断片であるが表面に摩耗が顕著である。写真1は摩耗が顕著な部分の低倍率写真であるが、鉱物の斑晶が摩滅により明瞭になっている。一方、写真3の摩耗がみられない部分の低倍率写真では鉱物の粒が丸みをもっており表面に凹凸が顕著である。いわゆる自然面の状況である。高倍率の観察では、摩耗が顕著な部分では、不明光沢が観察され、線状痕も確認

できる。一方摩耗が見られない部分は、光沢もほとんど確認できない。これらのことから、摩耗の成因はなんらかのものが接触して形成されており、人工的なものと考えられる。高倍率での光沢の特徴から、比較的柔らかいものが接触して形成されたことが推定される。（池谷）まとめ

剥片石器の分析では植物質に対して作業されたような痕跡は確認できなかつた。

黒曜石製の小形の剥片類は、縁辺に対して平行方向の線状痕が確認できた。

鎌状石器は、打製石斧と形態は類似しているが、刃部が直線的で急角度に加工されており、かつ土ズレの痕跡のような摩耗痕もない。刃部形態から考慮すれば搔器的な操作方法が考えられる。かりに搔器的な使用方法の場合、搔器との関係が注目される。つまり、規格の異なる搔器があることは、当然使い分けがあったと考えられる。この点については、東北地方山形県中川原C遺跡（高橋2002）において、皮加工の鎌状石器と搔器が共伴している事実が確認されている。中部高地の鎌状石器、搔器の関係について今後考察していく必要がある。

礫石器については、主面部に敲打痕の集中をもつ礫石をクルミ等の堅果類叩き割りに使用された可能性を指摘した。

※生業問題

八ヶ岳一体の縄文中期の生業問題は、藤森栄一の縄文農耕論と深い関係がある。井戸尻式期における打製石斧の増加、土器組成などから植物質資源の利用が増加し、この地の縄文文化を支えたのが大きな論旨である。

上条宮久保遺跡の使用痕分析を行った結論から言えば、上条宮久保遺跡から植物質資源に利用された痕跡は確認できなかつた（註）。

打製石斧は、根菜類の収穫に打製石斧が利用された可能性はあるが、それほど顕著な土ズレ痕は検出できなかつた。

搔器は小形の黒曜石の他に、搔きとする操作に用いられたと考えられる鎌状石器が確認できた。搔器、打製石斧、鎌状石器の組み合わせが何を示しているのかは、今後の課題である。

黒曜石製縦長剥片や使用痕剥片は、非常に小形であり、柄に装着しなければ使用できない。線状痕は平行方向であり、光沢はみられない。

削器は、使用痕剥片と比較して微小剥離痕が顕著であり、硬い被加工物に対して使用されたと考えられる。黒曜石製石器が植物質に利用されたとは考えられない。使用痕実験では、稻などに対して作業すると、50回も作

業すれば特長的な光沢が生じてくるが、資料を観察する限りそうした痕跡はみられず、植物質資源に作業された可能性は非常に小さい。

礫石器については、出土点数自体が少ないので、敲打痕をもつ石器が28点確認され、堅果類の加工等に使用された可能性がある。また、磨石、石皿が1点から2点程度と非常に少なく磨る作業は、敲く作業に比べて少なかつたことが考えられる。

5.まとめ

曾利Ⅱ式期は、勝板式土器文化の様相が消える段階である。加曾利E式文化の影響が強い。そうした点を踏まえ、石器に違いがあるかを観察したが、両者を区別する大きな差異は確認できなかった。一部抉入削器、定角式磨製石斧といった、外米系のものが井戸尻期に比べ見られたことが注目される。

生業問題では、縄文農耕論として著名な地域であり、その実態を検討する機会に恵まれたが、植物質に対して剥片石器が積極的に使用されている例が確認できなかつた。

栽培植物を想定した特定の道具類が検出されなかつたことからも農耕の可能性は非常に小さい。しかし、それはこの地の縄文文化がどのような生業基盤に支えられていたかを検証することを止める意味ではない。どのような生業に支えられていたか、学史を検討し、先人の業績にとらわれずに遺物そのものの精緻な分析を進めることが重要である。

(註) 表面が風化しているので、ホルンフェルス、安山岩、硬砂岩製石匙や削器に使用痕が確認できなかつた。これらの石材がどのような役割を生業活動の中で担つていたのか追求しなければならない問題である。

参考文献

- 阿子島香1989『石器の使用痕』考古学ライブラリー56
ニュー・サイエンス社
- 池谷勝典2003a「礫石器の使用痕研究—磨石類を中心として—」『古代』115早稲田大学考古学会
- 池谷勝典2003b「磨石・敲石・石皿の実験考古学的研究」『アルカ研究論集』第1号 考古学研究所術アルカ
- 池谷勝典2004「縄文時代の機能研究—使用痕分析を中心にして—」『考古学ジャーナル』520 ニュー・サイエンス社
- 高橋 哲2003「石器の使用痕分析」『板敷野遺跡』pp.194-206
- 高橋 哲2003「上野尻遺跡出土抉入削器の使用痕分析」「上野尻遺跡IV」青森県埋蔵文化財調査報告書第353集

pp.286-289

藤森栄一1970『縄文農耕』学生社

御堂島正1986「黒曜石製石器の使用痕—ポリッシュに関する実験的研究—」『神奈川考古』22 pp.52-77

御堂島正1988「使用痕と石材—チャート、サヌカイト、凝灰岩に形成されるポリッシュ—」『考古学雑誌』74.2

pp. 1-28

村松佳幸2003『清春白樺美術館南遺跡』長坂町教育委員会

2. 黒曜石製石器産地分析

黒曜石製石器の産地分析を㈱アルカを通して、沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に分析していただいた。図10と表8・9に分析結果を掲載する。

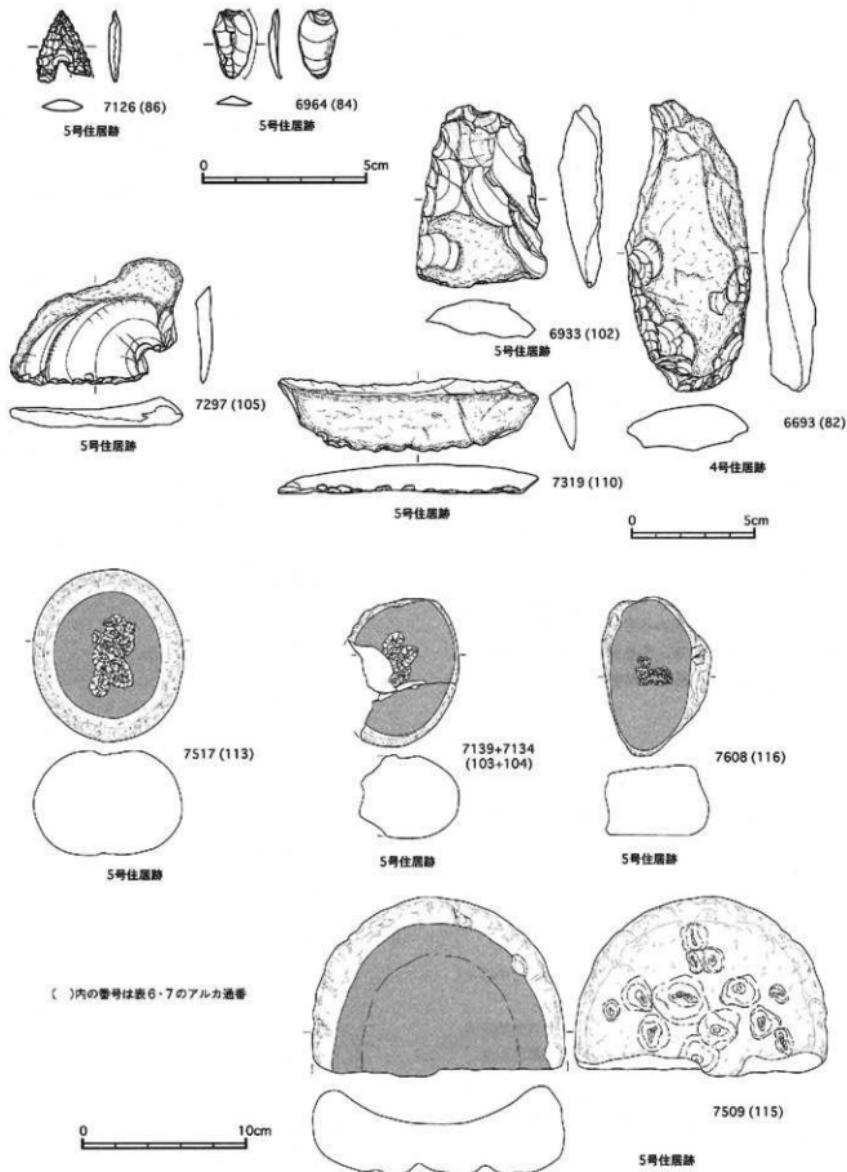


図1 井戸尻式期住居跡出土石器

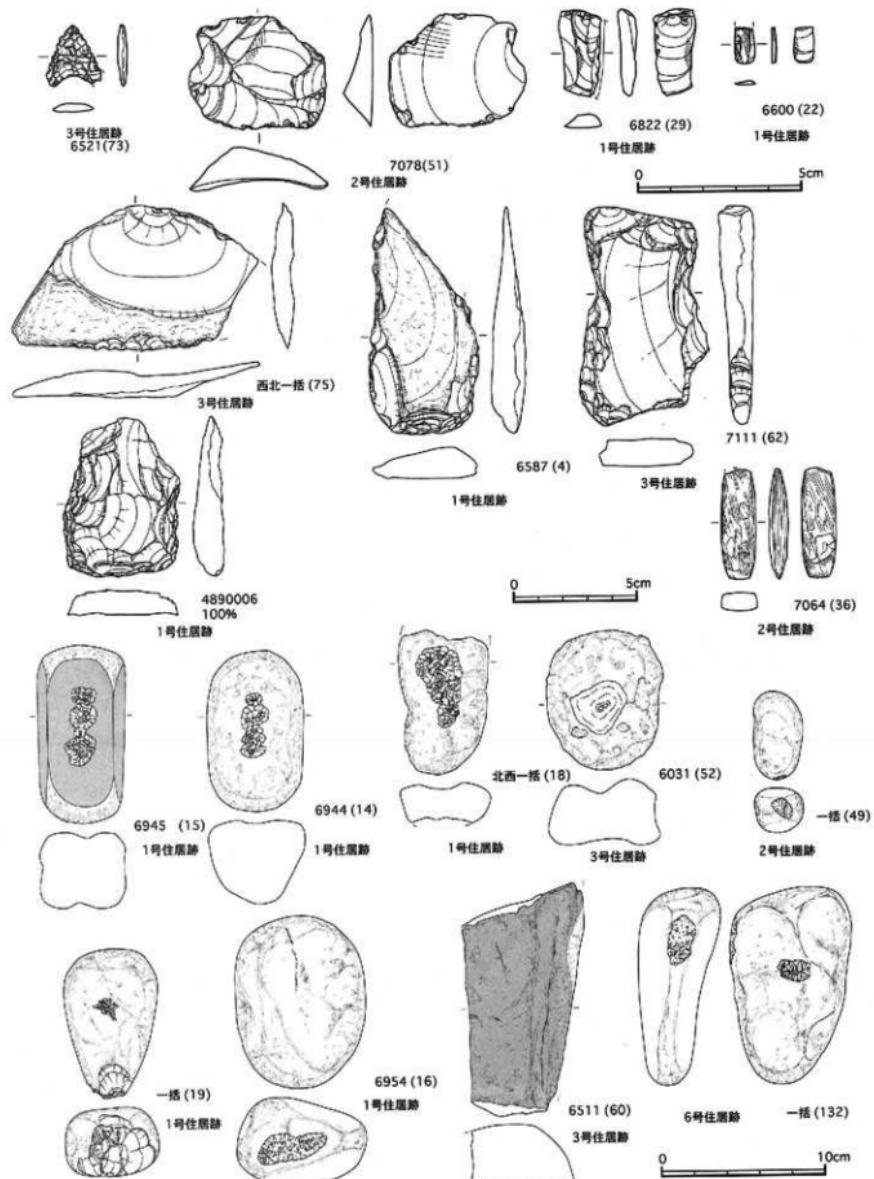
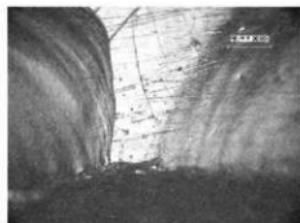


図2 曾利式期住居跡出土石器

()内の番号は表6・7のアルカ番号



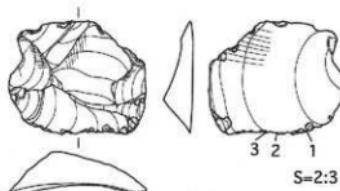
1 刃部の線状痕



2 刃部の線状痕



3 刃部の線状痕



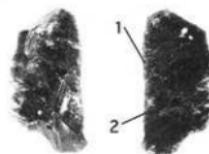
7078
2号住居跡



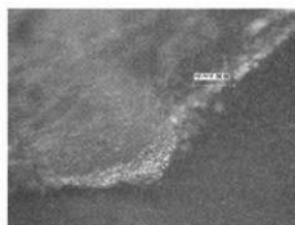
1 刃部の線状痕



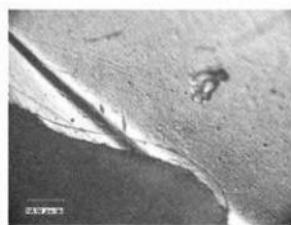
2 刃部の線状痕



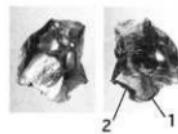
6948
1号住居跡



1 刃部の摩耗と線状痕

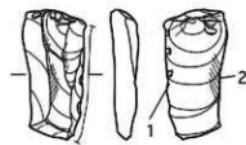


2 線辺の状況



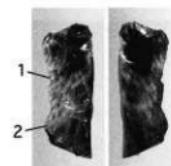
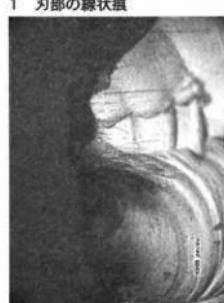
6175
3号住居跡

図 3 石器の使用痕①



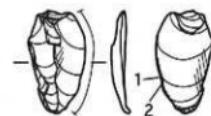
S=1:1

6822
1号住居跡



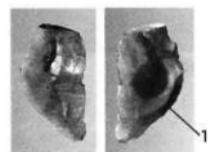
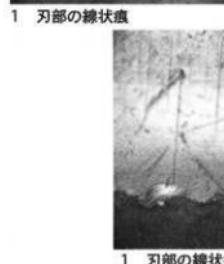
S=1:1

北西一括
1号住居跡



S=1:1

6964
5号住居跡



6627
4号住居跡
S=1:1

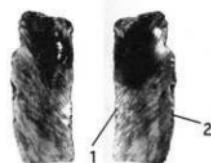
図4 石器の使用痕②



1 刃部の線状痕

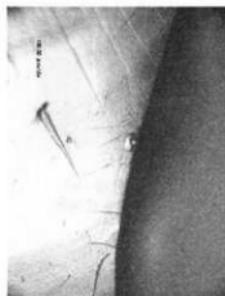


2 刃部の線状痕

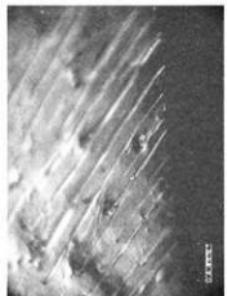


S=1:1

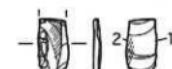
2052
遺構外出土



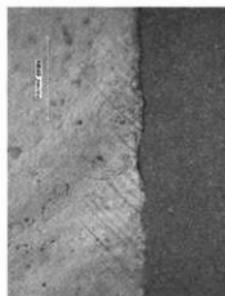
1 縁辺の状況



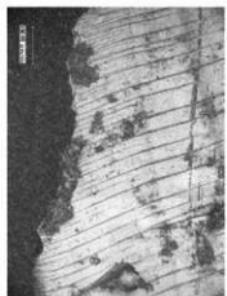
2 縁辺の状況



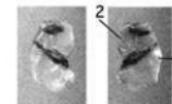
S=1:1
6600
1号住居跡



1 縁辺の状況

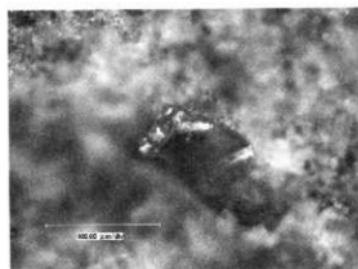


2 縁辺の状況

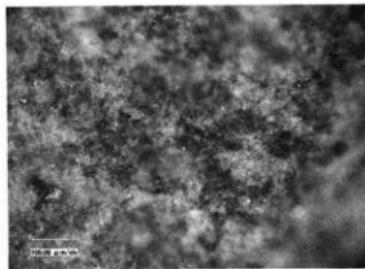


S=1:1
6254
2号住居跡

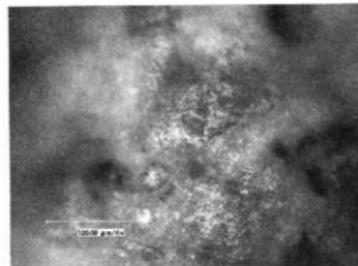
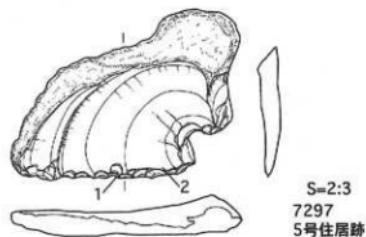
図5 石器の使用痕③



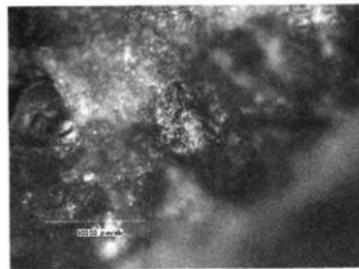
1 刃部の状況



2 刃部の状況



1 刃部の状況



2 刃部の状況

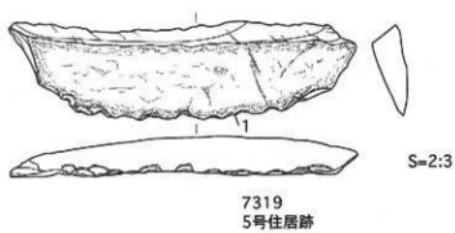


図5 石器の使用痕④

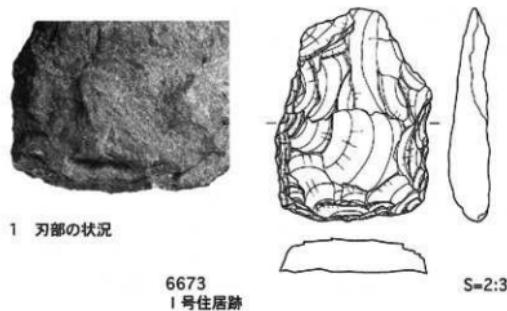
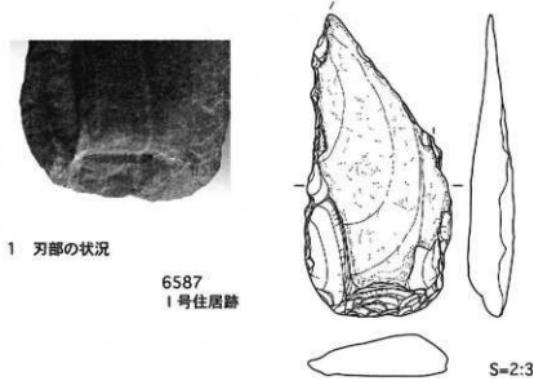
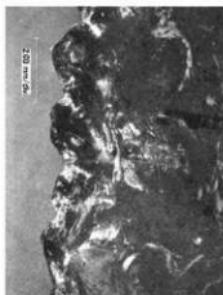
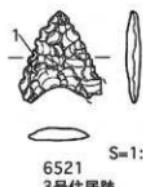


図 7 石器の使用痕⑤



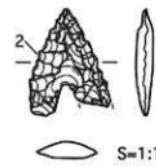
1 石器の加工 鋸曲線



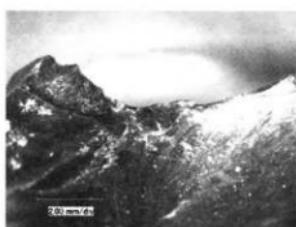
6521
3号住居跡



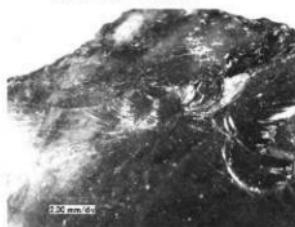
2 石器の加工 鋸歯線



7126
5号住居跡



3 剥離開始部 間接打撃 6573
1号住居跡



4 剥離開始部 直接打撃 6822
1号住居跡



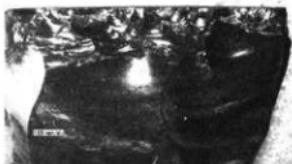
1107 S=1:1
遺構外出土



5 作業面の開始部拡大



6 石核の開始部
北西一括
1号住居跡



7 石核の開始部
4号住居跡一括

図 8 石器の使用痕(⑥)

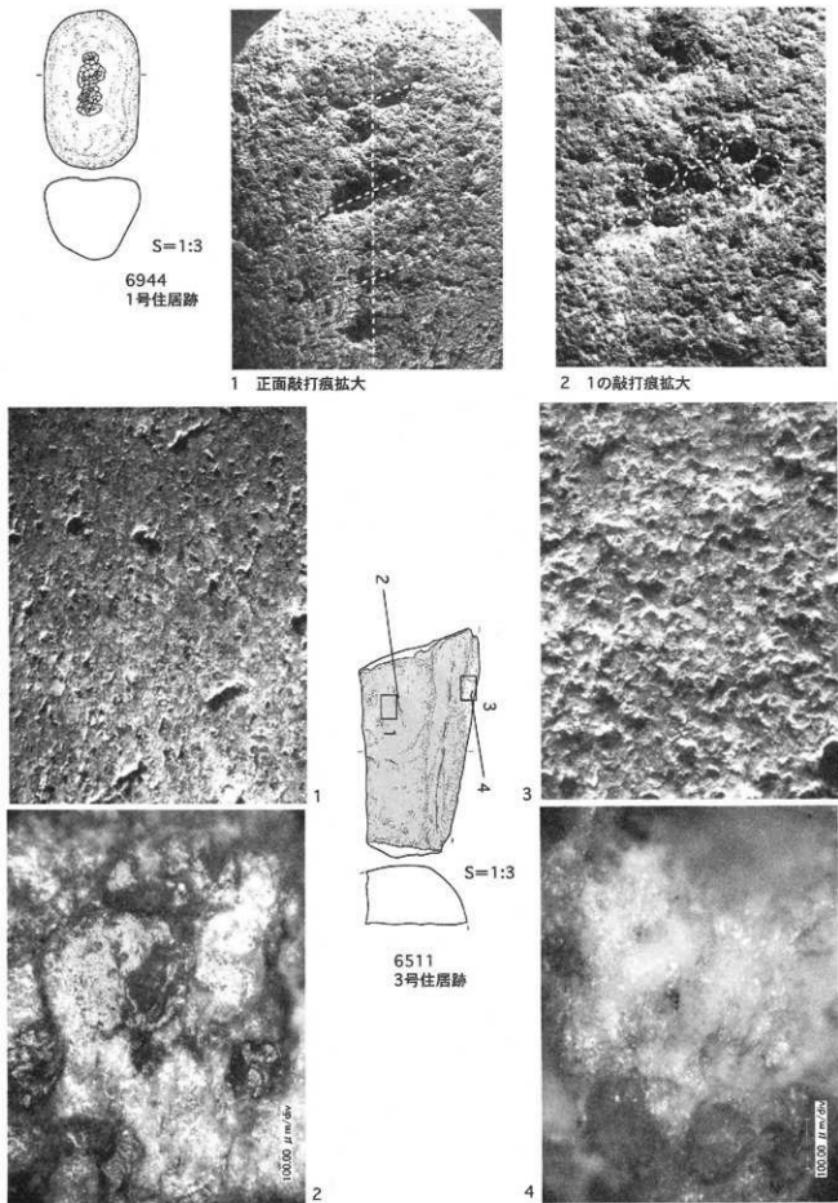


図9 石器の使用痕(7)

表1 黒曜石製以外の器種構成

黒曜石製以外の石器	井戸尻式期		曾利Ⅱ式期			曾利Ⅴ式期		4号土坑	6号土坑	8号土坑	9号土坑	1号集石	遺構外
	4件	5件	1件	2件	3件	6件							
横形石鏃		1											2
両刃類	3	2	1	3	6		1	1					11
器器		1	1		1								1
使用痕剥片		1		1				1					6
石器未製品				2									
石器断片	3	1		1	1			1					6
二次加工剥片	1	2		1	1								2
縱長剥片	1	2		1	2								6
剥片	1	1		1	2								5
裂片	4	3		4	7		1						13
打製石斧	6	3	5	9	7	3		1					60
乳頭状磨製石斧													1
定角式磨製石斧				1									
範状石器		1	1								1		
石皿(縁付き)	1	2	1										
台石				1				1					
多孔石													3
敲石+磨石類	2	3	5	3	6		6				2	14	14
特殊磨石													1
摩耗鏡				1	1								
石礫													1
分割礫													
礫断片			1	1		3							3
自然礫	2		2	4	1								4

表2 黒曜石製の器種構成

黒曜石製石器	井戸尻式期		曾利Ⅱ式期			曾利Ⅴ式期		3号土坑	11号土坑	1号流	遺構外
	4件	5件	1件	2件	3件	6件					
圓基盤		1				1					5
石器未製品		1	2							1	5
石盤			1		2						
削器類		1	1	1	1						1
器器					1						2
使用痕剥片	2	2	5	1	2						11
二次加工剥片			1	1							5
石器断片			1		2						1
石器未製品			1								
縱長剥片	2	1	11	5	1					1	16
横長剥片			1	2					2		9
剥片	2		4	2							8
両側石器	1	2	3	1	2		1				10
石核	1		5	1	2		2				8
石核成形剝片				2							1
裂片	1		5	3	2		1				17

表3 黒曜石製以外の石器石材組成

黒曜石製以外の石器	井戸尻式期		曾利Ⅱ式期			曾利Ⅴ式期		4号土坑	6号土坑	8号土坑	9号土坑	1号集石	遺構外
	4件	5件	1件	2件	3件	6件							
チャート			1		3								6
貝岩	5	6	3	4	4		2	2					22
砂岩	4	7	3	7	10		1			1	2		38
砂岩					1		1						1
ホルンフェルス	6	5	6	11	9		3	1	1				48
安山岩	6	6	7	7	9		4	1				14	23
花崗岩	1												
閃雲岩				1									
粘板岩													3
凝灰岩	1	1		1	1								4
軽石	1				1								
蛇紋岩				1									1

表4 黒曜石製以外の素材剥片

黒曜石製以外の石器	井戸尻式期			魯利Ⅱ式期			魯利Ⅴ式期					
	4住	5住	1住	2住	3住	7	6住	4号土坑	6号土坑	8号土坑	9号土坑	遺構外
横長剥片	-	2	6	3	9	7	2	2	2	2	2	41
縦長剥片	-	1	3	4	2	3	1	-	-	-	-	11
石刃状剥片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
剥片	16	-	11	4	11	13	2	1	1	1	1	63

表5 黒曜石製の素材剥片

黒曜石	井戸尻式期			魯利Ⅱ式期			魯利Ⅴ式期				
	4住	5住	1住	2住	3住	6住	3号土坑	11号土坑	1号窓	遺構外	
縦長剥片	6	3	16	10	2	-	-	3	1	31	
石刃状剥片	-	1	3	-	-	-	-	-	-	4	
横長剥片	-	1	3	1	1	-	-	1	-	14	
剥片	3	2	19	5	12	3	-	-	-	46	

表6 黒曜石製石器観察表①

アソシ 番	遺構	遺物番号	形態	器種	石材	刃部属性	新規度	所蔵場所	魯利Ⅳ式期	魯利Ⅴ式期	備考	長(m)	幅(m)	厚(m)	重量(g)	使用光沢	線状痕	奉耗	備考		
1	1住	5588	・	段長剥片	黒曜石	なし	なし	HvD	先端	広い断面	27.6	18.9	10.1	3.5	なし	なし	なし	なし			
2	1住	5589	・	段長剥片	黒曜石	なし	なし	段長剥片	自然面	HvD	先端	24.0	20.0	4.7	2.3	なし	なし	なし	なし		
3	1住	6398	・	段長剥片	黒曜石	なし	なし	段長剥片	線状	HD	先端	9.1	17.0	3.3	0.4	なし	なし	なし	なし		
4	1住	6401	・	ホタル型黒曜石	SP	SP	SP	小崩	不明	断片	-	21.2	15.6	2.4	0.8	-	-	-	-		
5	1住	6468	・	石核	黒曜石選別用	なし	なし	HD	剥片	通風外選別用	完形	22.6	27.9	10.2	4.9	-	-	-	-		
6	1住	6475	・	黒曜石	黒曜石なし	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	21.3	22.0	13.5	5.4	なし	なし	なし	なし		
7	1住	6495	・	石核	黒曜石選別用	なし	なし	HD	剥片	通風外選別用	完形	27.2	36.7	17.8	10.8	-	-	-	-		
8	1住	6502	・	黒曜石	黒曜石なし	なし	なし	段長削片	平端	HD	先端	18.0	14.3	5.5	0.7	なし	なし	なし	なし		
9	1住	6504	・	両脇石	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	15.7	13.6	6.9	1.7	なし	なし	なし	なし		
10	1住	6505	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	完形	18.6	18.7	5.6	1.8	なし	なし	なし	なし		
11	1住	6524	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	HD	先端	21.0	10.7	5.1	0.8	なし	なし	なし	なし	
12	1住	6525	・	剥片	黒曜石	なし	なし	段長削片	自然面	HD	先端	-	-	-	0.3	-	-	-	-		
13	1住	6526	・	剥片	黒曜石	なし	なし	段長削片	自然面	HD	先端	-	-	-	0.8	-	-	-	-		
14	1住	6558	・	剥片	黒曜石	なし	なし	段長削片	自然面	HD	先端	-	-	-	3.4	-	-	-	-		
15	1住	6560	・	石核	黒曜石	SP	なし	HD	剥片	不明	HD	先端	21.6	12.6	7.7	1.9	なし	なし	なし	なし	
16	1住	6561	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	HD	先端	-	-	3.1	-	-	-		
17	1住	6573	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	自然面	HT	未発達	16.3	17.7	3.1	1.0	なし	なし	なし	なし	
18	1住	6577	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	HD	先端	17.7	13.5	5.1	0.8	なし	なし	なし	なし	
19	1住	6581	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	断片	14.3	15.0	2.0	0.3	なし	なし	なし	なし	
20	1住	6591	・	被覆削片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	不明	HD	先端	27.6	19.8	6.2	2.4	なし	なし	なし	なし
21	1住	6594	・	核	黒曜石選別用	なし	なし	HTL	剥片	通風外	HD	完形	28.0	16.8	6.4	1.4	-	-	-	-	
22	1住	6600	・	被覆削片	石器	MF	なし	なし	HD	剥片	不明	(HD)	先端	11.1	6.3	1.7	0.1	なし	平行/横状	毎個	毎個
23	1住	6601	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	(HD)	先端	31.5	22.1	9.4	4.5	なし	なし	なし	なし	
24	1住	6603	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	自然面	HD	完形	19.5	10.5	4.7	0.5	なし	なし	なし	なし	
25	1住	6775	・	石核	黒曜石選別用	なし	なし	HvD	剥片	通風外選別用	完形	断面形状未記載	31.0	19.1	11.1	6.9	-	-	-	-	
26	1住	6794	・	石核	大型黒曜石	SP	なし	なし	HD	剥片	不明	断片	20.2	14.1	3.4	0.8	-	-	-	-	
27	1住	6820	・	剥片	黒曜石	なし	なし	段長削片	点状	HD	先端	32.5	19.6	5.2	2.3	なし	ランダム	なし	削除		
28	1住	6821	・	被覆削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	先端	20.6	7.2	4.4	0.6	なし	なし	なし	なし	
29	1住	6822	・	被覆削片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	先端	26.5	13.1	5.9	1.8	なし	平行/横状	毎個	毎個
30	1住	6916	・	石核	大型黒曜石	なし	なし	HD	剥片	自然面	HD	完形	28.0	16.1	7.6	2.8	-	-	-	-	
31	1住	6917	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	線状	HD	完形	19.8	12.4	2.4	0.5	なし	なし	なし	なし	
32	1住	6948	・	容器	黒曜石	SP	なし	なし	段長削片	平端	HD	完形	44.8	22.6	10.0	7.4	なし	平行/横状	細微	日本古墳時代 はくとう	
33	1住	6953	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	断片	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
34	1住	6958	・	後藤片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	HD	完形	21.5	22.2	5.1	1.9	なし	なし	なし	なし		
35	1住	6959	・	内脇片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	HD	完形	9.7	12.4	4.6	0.5	なし	なし	なし	なし
36	1住	6959	・	被覆削片	黒曜石	MF	なし	なし	段長削片	線状	HD	完形	21.3	19.7	4.8	1.1	なし	なし	なし	なし	
37	1住	6960	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	完形	20.8	19.7	8.9	2.0	なし	なし	なし	なし	
38	1住	6982	・	被覆削片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	自然面	HD	完形	27.2	21.1	7.4	2.2	なし	なし	なし	なし
39	1住	北西一低	・	核	黒曜石	選別用	なし	なし	HD	剥片	通風外選別用	完形	14.6	24.5	9.8	3.5	-	-	-	-	
40	1住	北西一低	・	被覆削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	HD	完形	28.2	11.0	11.2	1.2	なし	円錐状	軽微	日本古墳時代 はくとう		
41	2住	5888	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	完形	17.8	16.8	6.0	1.3	なし	なし	なし	なし	
42	2住	6102	・	被覆削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	完形	30.2	19.3	7.4	2.7	-	-	-	-	
43	2住	6254	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	HD	完形	14.0	9.2	1.4	0.1	なし	平?	なし	なし
44	2住	6253	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	断片	-	-	-	2.7	-	-	-	-	
45	2住	6270	・	被覆削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	自然面	HD	完形	9.7	17.8	3.0	0.4	なし	なし	なし	なし	
46	2住	6294	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	断片	-	-	-	0.5	-	-	-	-	
47	2住	6295	・	段長削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	平端	HD	完形	25.8	18.1	5.9	1.7	なし	平行/横状	細微	日本古墳時代 はくとう	
48	2住	7045	・	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	完形	20.7	18.5	3.2	1.0	なし	なし	なし	なし	
49	2住	7049	・	被覆削片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不明	不明	完形	22.4	16.7	9.7	2.3	-	-	-	-	

表6 黒曜石製石器観察表(2)

アーチ セグメント	遺物番号	分類	器種	石材	刃形 裏形	削り方	断面形	打面	素材	既存率	備考	長(m)	幅(m)	厚(m)	重量(t)	使用光	器形状	耗耗	備考	
50 2往	7050	-	横刃片	黒曜石	なし	なし	横刃片	横刃	Hd	完形	15.3	11.1	3.8	0.5	なし	なし	なし	なし		
51 2往	7078	石器	素刃削器	黒曜石	MF	なし	横刃片	横刃	Hd	完形	35.1	42.1	13.4	12.8	微弱(H?)	平行/直状	垂直	なし		
52 2往	7175	-	短刃削器	黒曜石	MF	なし	HD	扁長削片	自然面	HD	完形	32.2	22.3	13.5	4.8	なし	平行/直状	垂直	なし	
53 2往	7184	-	石器	黒曜石	MF	なし	HD	横刃削片	平坦	HD	完形	20.2	30.3	7.9	3.4	-	-	-	-	
54 2往	7186	-	石器	黒曜石	MF	なし	折取	脱石	邊川外道通	削片	半形	30.1	24.5	10.3	6.9	なし	なし	なし	なし	
55 2往	7187	-	石器	黒曜石	MF	なし	HD	剥片	邊川外道通	削片	半形	23.5	54.2	15.5	13.4	-	-	-	-	
56 2往	P-4	-	長刃片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	自然面	HD	完形	14.5	7.9	6.8	0.5	なし	なし	なし	なし	
57 2往	-	-	剥片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	不規	不明	打面	-	-	-	1.6	-	-	-		
58 2往	-	-	横刃片	黒曜石	なし	なし	HD	剥片	自然面	HD	完形	16.9	21.4	5.2	1.6	なし	平行/直状	垂直	なし	
59 3往	5977	-	石器	黒曜石	SP	なし	剥片	自然面	HD	完形	20.9	5.2	9.0	0.8	-	-	-	-		
60 3往	6018	-	石核	黒曜石	MF	なし	HD	原石	邊川外道通	削片	半形	19.3	24.4	13.5	6.4	-	-	-	-	
61 3往	6100	-	石核片	黒曜石	MF	なし	剥片	不規	自然面	断片	からだ	10.5	11.9	7.2	0.8	-	-	-	-	
62 3往	6101	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	横刃	HD	半形	31.2	22.0	8.3	3.4	なし	なし	なし	なし	
63 3往	6157	-	剥片	黒曜石	MF	なし	剥片	半形	HD	半形	-	-	-	1.0	-	-	-	-		
64 3往	6175	-	剥片	黒曜石	SP	なし	剥片	不規	HD	半形	25.9	22.0	10.8	5.2	無端	直交?	垂直	なし		
65 3往	6180	-	剥片	黒曜石	MF	なし	HD	剥片	不規	HD	半形	23.2	18.5	8.2	2.4	-	-	-	-	
66 3往	6235	-	剥片	黒曜石	MF	なし	HD	剥片	不規	HD	半形	17.8	15.6	3.9	1.5	-	-	-	-	
67 3往	6236	-	石核	黒曜石	MF	なし	HD	剥片	不規	HD	半形	29.1	21.0	10.2	3.2	なし	ランダム	無端	なし	
68 3往	6284	-	石核	黒曜石	MF	なし	HD	剥片	邊川外道通	削片	半形	17.1	27.8	10.3	3.5	-	-	-	-	
69 3往	6333	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	-	-	-	0.3	-	-	-	-	
70 3往	6566	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	16.6	14.4	5.0	1.1	なし	なし	なし	なし	
71 3往	6567	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	自然面	HD	完形	28.2	17.0	6.1	2.3	なし	なし	なし	なし	
72 3往	7106	-	石核	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	19.0	13.3	7.2	1.3	なし	なし	なし	なし	
73 3往	P-5-6321	直基盤	黒曜石	SP	なし	なし	剥片	不規	HD	完形	19.0	16.9	3.1	0.7	-	-	-	-		
74 3往	7100	-	西北	直基盤	黒曜石	MF	なし	剥片	不規	HD	半形	26.8	22.7	7.4	4.1	なし	なし	なし	なし	
75 4往	6551	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	25.1	19.8	7.8	2.3	-	-	-	-	
76 4往	6613	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	14.6	16.0	2.9	0.4	-	-	-	-	
77 4往	6620	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	半形	HD	完形	23.0	21.8	5.3	1.4	なし	なし	なし	なし	
78 4往	6623	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	半形	HD	完形	24.3	10.2	4.8	0.9	-	-	-	-	
79 4往	6626	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	-	-	-	1.3	-	-	-	-	
80 4往	6627	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	完形	23.3	16.2	4.4	1.3	なし	ランダム	無端	なし	
81 4往	6633	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	完形	23.4	11.2	7.1	1.4	なし	なし	なし	なし	
82 4往	6634	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	自然面	HD	完形	24.7	16.2	3.8	1.4	なし	なし	なし	なし	
83 4往	6635	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	邊川外道通	削片	半形	31.9	29.7	10.3	8.7	-	-	-	-
84 5往	6664	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	石片	不規	HD	半形	21.2	12.0	4.0	0.6	なし	平行/直状	垂直	なし	
85 5往	6665	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	石片	不規	HD	半形	13.8	11.0	3.8	0.5	-	-	-	-	
86 5往	7120	-	直基盤	黒曜石	SP	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	22.0	16.6	3.9	1.0	-	-	-	-	
87 5往	7130	-	直基盤	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	25.0	14.9	6.1	1.7	なし	なし	なし	なし	
88 5往	7131	-	直基盤	黒曜石	SP	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	21.5	17.3	5.3	1.8	-	-	-	-	
89 5往	7313	-	直基盤	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	23.9	14.0	5.2	1.4	なし	有?斜面	無端	なし	
90 5往	7400	-	直基盤	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	29.7	19.4	3.5	1.8	なし	なし	なし	なし	
91 6往	6800	-	直基盤	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	22.3	11.8	7.8	1.4	-	-	-	-	
92 6往	-	-	石核	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	邊川外道通	削片	半形	19.5	29.2	10.9	3.9	-	-	-	-
93 6往	6861	-	石核	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	邊川外道通	削片	半形	14.9	19.5	10.4	3.0	-	-	-	-
94 6往	5241	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	-	-	-	0.4	-	-	-	-	
95 15往	6690	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	12.5	24.0	4.6	0.8	-	-	-	-	
96 15往	6710	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	20.8	26.3	7.8	2.3	-	-	-	-	
97 15往	6711	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	剥片	不規	HD	半形	20.7	13.0	4.7	0.7	-	-	-	-	
98 15往	5508	-	石核	黒曜石	SP	なし	なし	HD	剥片	半形	HD	半形	23.8	16.7	2.3	0.7	-	-	-	-
99 15往	131	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	半形	HD	半形	-	-	-	1.1	-	-	-	-
100 15往	227	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	半形	D	19.7	18.3	8.8	1.7	-	-	-	-	
101 15往	275	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	半形	HD	完形	22.3	18.4	4.9	1.5	-	-	-	-
102 15往	289	-	石核	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	22.6	16.1	8.8	2.9	-	-	-	-
103 15往	468	-	二刃刀削	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	13.8	12.6	9.6	1.4	-	-	-	-
104 15往	484	-	二刃刀削	黒曜石	SP	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	14.5	9.9	3.5	0.3	-	-	-	-
105 15往	547	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	半形	HD	完形	19.4	27.4	14.3	5.5	-	-	-	-
106 15往	560	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	自然面	HD	完形	15.7	28.5	7.2	2.9	-	-	-	-
107 道構外	951	-	有頭剥片	黒曜石	なし	なし	なし	横長剥片	不明	不明	HD	半形	34.5	16.7	8.8	3.0	-	-	-	-
108 道構外	1107	-	小核	黒曜石	MF	なし	なし	HD	剥片	不規	HD	完形	21.6	20.5	11.4	5.8	-	-	-	-
109 道構外	1141	-	仙塵剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	切子	HD	完形	12.7	17.3	4.8	0.7	-	-	-	-
110 道構外	1146	-	横刃片	黒曜石	MF	なし	なし	横長剥片	半形	HD	完形	31.4	20.9	8.1	4.3	-	-	-	-	
111 道構外	1288	-	二刃刀削	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	半形	HD	完形	27.6	21.9	5.4	3.0	-	-	-	-
112 道構外	1364	-	横刃片	黒曜石	MF	なし	なし	横長剥片	半形	HD	完形	20.0	23.1	11.3	3.7	-	-	-	-	
113 道構外	1402	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	-	-	-	1.0	-	-	-	-
114 道構外	1583	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	20.8	21.4	3.3	1.4	-	-	-	-
115 道構外	1640	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	-	-	-	2.9	-	-	-	-
116 道構外	1726	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	-	-	-	0.8	-	-	-	-
117 道構外	1744	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	自然面	HD	完形	38.2	14.2	14.7	4.4	-	-	-	-
118 道構外	1848	-	二刃刀削	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	自然面	HD	完形	30.5	26.0	14.6	11.5	-	-	-	-
119 道構外	1898	-	二刃刀削	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	不規	HD	完形	21.3	13.0	7.1	1.7	-	-	-	-
120 道構外	2052	-	横刃片	黒曜石	SP	なし	なし	HD	直角剥片	自然面	HD	完形	31.6	12.9	4.3	1.7	平行/直状	垂直	無端	なし
121 道構外	2101	-	圓承狀	黒曜石	SP	なし	なし	HD	直角剥片	平底	HD	完形	12.6	14.8	2.7	0.4	-	-	-	-
122 道構外	2102	-	剥片	黒曜石	MF	なし	なし	HD	直角剥片	平底	HD	完形	13.0	14.7	3.0	0.4	-	-	-	-

表6 黒曜石製器観察表③

アラス番	遺物番	記号	器種	石材	万用 属性	断面形 状	表面形態	打削 痕跡	表面 形状	研磨 痕跡	備考	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	側面 光沢	線状痕	摩耗	備考
123	遺物外	2214	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	23.2	18.4	3.3	-	-	-	-
124	遺物外	2218	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	-	-	0.8	-	-	-	
125	遺物外	2231	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	SD	光形	24.0	14.6	16.5	1.3	-	-	-	
126	遺物外	2275	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	平面	HD	光形	-	27.1	24.2	8.5	5.1	-	-
127	遺物外	2298	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	平面	HD	光形	43.0	22.4	6.4	5.5	-	-	-
128	遺物外	2314	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	平面	HD	光形	-	17.3	14.4	4.4	0.9	-	-
129	遺物外	2345	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	-	37.0	24.5	14.2	11.3	-	-
130	遺物外	2348	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	平面	HD	光形	14.9	18.8	4.8	1.2	-	-	-
131	遺物外	2358	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	平面	HD	光形	28.3	17.9	8.2	3.9	-	-	-
132	遺物外	2373	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	切子	HD	光形	16.5	27.1	6.1	2.2	-	-	-
133	遺物外	2405	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	14.4	16.3	2.9	0.4	-	-	-
134	遺物外	2427	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	1.3	-	-	-
135	遺物外	2437	-	回基盤	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	15.6	15.8	3.7	0.8	-	-	-
136	遺物外	2473	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	平面	HD	光形	14.5	17.4	3.8	1.0	-	-	-
137	遺物外	2494	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	1.6	-	-	-
138	遺物外	2537	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	28.3	15.2	6.5	2.0	-	-	-
139	遺物外	2601	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	光形	HD	光形	23.4	26.6	5.2	2.1	-	-	-	
140	遺物外	2622	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	0.4	-	-	-
141	遺物外	2754	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	16.2	19.1	4.6	1.4	-	-	-
142	遺物外	2761	-	石核	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	21.2	29.6	12.2	8.3	-	-	-
143	遺物外	2766	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	23.0	17.9	8.4	3.1	-	-	-
144	遺物外	2770	-	石器	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	23.8	25.3	10.2	5.3	-	-	-
145	遺物外	2816	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	14.1	17.9	8.0	1.6	-	-	-
146	遺物外	2817	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	16.5	21.2	4.4	1.2	-	-	-
147	遺物外	2825	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	45.9	36.5	17.7	22.0	なし	なし	なし
148	遺物外	2967	-	石核	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	26.9	37.1	15.9	10.0	-	-	-
149	遺物外	2978	-	回基盤	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	21.9	13.5	3.3	0.7	-	-	-
150	遺物外	3014	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	21.4	14.1	12.2	2.8	-	-	-
151	遺物外	3038	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	16.4	27.0	7.5	2.7	-	-	-
152	遺物外	3113	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	18.3	18.3	10.4	3.3	-	-	-
153	遺物外	3365	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	17.5	17.8	8.9	2.7	-	-	-
154	遺物外	3439	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	12.4	14.7	3.9	0.6	-	-	-
155	遺物外	3490	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	28.3	15.8	5.4	2.1	-	-	-
156	遺物外	3555	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	19.3	12.9	5.6	1.6	-	-	-
157	遺物外	3791	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	3.1	-	-	-
158	遺物外	3921	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	29.9	19.7	6.8	3.6	-	-	-
159	遺物外	3940	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	21.9	21.6	7.4	2.4	-	-	-
160	遺物外	3980	-	回基盤	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	16.7	13.3	3.6	0.8	-	-	-
161	遺物外	3985	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	HvD	剥片	不明	不明	光形	21.1	14.1	6.6	1.8	-	-	-
162	遺物外	4017	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	1.8	-	-	-
163	遺物外	4188	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	18.2	17.7	5.4	1.4	-	-	-
164	遺物外	4190	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	17.4	16.8	5.5	1.4	-	-	-
165	遺物外	4191	-	石核	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	22.3	18.1	4.2	1.3	-	-	-
166	遺物外	4511	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	12.3	18.6	7.4	0.7	-	-	-
167	遺物外	4562	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	24.1	23.4	10.6	3.4	-	-	-
168	遺物外	4637	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	15.3	11.6	3.4	0.4	-	-	-
169	遺物外	4749	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	9.1	17.4	3.8	0.5	-	-	-
170	遺物外	4757	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	2.1	-	-	-
171	遺物外	4773	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	21.0	15.5	4.2	0.9	-	-	-
172	遺物外	4810	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	7.5	14.4	1.5	0.2	-	-	-
173	遺物外	4851	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	36.0	14.0	7.2	2.6	-	-	-
174	遺物外	4860	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	2.1	-	-	-
175	遺物外	4872	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	18.7	13.1	5.0	0.9	-	-	-
176	遺物外	4954	-	木製工具	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	24.1	13.6	3.7	1.0	-	-	-
177	遺物外	4970	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	16.6	15.9	6.0	0.8	-	-	-
178	遺物外	4982	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	12.5	15.3	4.0	0.7	-	-	-
179	遺物外	4988	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	22.6	11.0	5.0	1.0	-	-	-
180	遺物外	5039	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	22.6	15.6	4.6	0.9	-	-	-
181	遺物外	5074	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	23.1	11.9	8.5	1.4	-	-	-
182	遺物外	5087	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	12.4	15.0	2.7	0.3	-	-	-
183	遺物外	5105	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	1.5	-	-	-
184	遺物外	5347	-	斧子	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	0.3	-	-	-
185	遺物外	5413	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SP	SP	なし	不明	光形	-	-	-	1.2	-	-	-
186	遺物外	5491	-	石核	黒曜石	適用なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	22.4	33.1	13.4	9.6	-	-	-
187	遺物外	5495	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	-	-	-	6.5	-	-	-
188	遺物外	5497	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	-	-	-	0.7	-	-	-
189	遺物外	5664	-	若刃器	黒曜石	MF	C1	SD	SD	なし	不明	光形	19.2	23.8	6.0	2.7	-	-	-
190	遺物外	5832	-	若刃器	黒曜石	SP	STP	なし	SD	SD	不明	光形	12.4	13.6	3.6	0.5	-	-	-
191	遺物外	5932	-	若刃器	黒曜石	MF	なし	SD	SD	なし	不明	光形	17.8	15.3	4.0	0.7	-	-	-
192	遺物外	5846	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	17.0	18.6	4.7	1.0	-	-	-
193	遺物外	5851	-	石核	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	19.4	12.0	5.4	1.1	-	-	-
194	遺物外	5855	-	長手器	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	19.0	15.6	6.4	1.0	-	-	-
195	遺物外	6477	-	肉垂石刀	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	22.8	16.4	4.4	1.6	-	-	-
196	遺物外	7619	-	石核	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	18.0	31.3	14.4	5.8	-	-	-
197	1住	6617	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	-	-	-	1.0	-	-	-
198	2住	7050	-	長手器	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	18.4	14.4	3.1	0.5	-	-	-
199	遺物外	4405	-	鋸片	黒曜石	なし	なし	SD	SD	なし	不明	光形	22.4	18.2	5.1	1.1	-	-	-

表7 黒曜石製以外の石器観察表①

表7 墓葬石製以外の石器観察表②

表8 黒曜石製石器产地推定結果

分析者：沼津工業高等専門学校 望月明彦

判別図法・判別分析からの最終推定結果

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

研究室 半簡造番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群		判別分析 第1候補産地		判別分析 第2候補産地	
				判別群	距離	距離	判別群	距離	距離
MK03-5342	KJM-1	5588	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	20.61	1	SBIY	43.46
MK03-5343	KJM-2	5589	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	5.22	1	SBIY	96.96
MK03-5344	KJM-3	5398	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	8.6	1	WDTN	102.52
MK03-5345	KJM-4	6401	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	12.82	1	SBIY	59.15
MK03-5346	KJM-5	6468	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	4.39	1	SBIY	92.1
MK03-5347	KJM-6	6475	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	13.49	1	SBIY	104.9
MK03-5348	KJM-7	6495	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	6.06	1	SBIY	87.54
MK03-5349	KJM-8	6502	和田麗山群	WDTY	WDTY	8.25	0.9998	WDHY	22.88
MK03-5350	KJM-9	6504	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	17.09	1	SBIY	90.32
MK03-5351	KJM-10	6505	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	13.59	1	SBIY	109.64
MK03-5352	KJM-11	6524	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	7.98	1	SBIY	104.81
MK03-5353	KJM-12	6525	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	18	1	SBIY	91.96
MK03-5354	KJM-13	6526	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	14.53	1	SBIY	59.38
MK03-5355	KJM-14	6558	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	10.51	1	SBIY	127.47
MK03-5356	KJM-15	6560	和田麗山群	WDTY	WDTY	6.43	1	WDKB	34
MK03-5357	KJM-16	6561	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	10.35	1	SBIY	106.65
MK03-5358	KJM-17	6573	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	8.77	1	SBIY	112.5
MK03-5359	KJM-18	6577	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	12.99	1	SBIY	68.61
MK03-5360	KJM-19	6581	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.76	1	SBIY	70.04
MK03-5361	KJM-20	6591	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	6.81	1	WDTN	129.9
MK03-5362	KJM-21	6594	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	16.96	1	SBIY	107.22
MK03-5363	KJM-22	6600	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	22.42	1	SBIY	64.02
MK03-5364	KJM-23	6601	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	3.64	1	SBIY	92.83
MK03-5365	KJM-24	6603	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	10.01	1	SBIY	106.27
MK03-5366	KJM-25	6775	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	5.26	1	SBIY	90.03
MK03-5367	KJM-26	6794	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	8.09	1	SBIY	89.6
MK03-5368	KJM-27	6820	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.41	1	SBIY	95.12
MK03-5369	KJM-28	6821	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	12.98	1	SBIY	105.39
MK03-5370	KJM-29	6822	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	13.64	1	SBIY	106.25
MK03-5371	KJM-30	6916	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	13.27	1	SBIY	119.37
MK03-5372	KJM-31	6917	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	6.69	1	SBIY	93.44
MK03-5373	KJM-32	6948	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	15.04	1	SBIY	112.07
MK03-5374	KJM-33	6953	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	11.55	1	SBIY	60.48
MK03-5375	KJM-34	6958	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	10.14	1	SBIY	89.31
MK03-5376	KJM-35	6959	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	3.5	1	SBIY	68.72
MK03-5377	KJM-36	6959	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	10.85	1	SBIY	119.38
MK03-5378	KJM-37	6960	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	24.25	1	SBIY	115.95
MK03-5379	KJM-38	6982	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	2.87	1	SBIY	74.7
MK03-5380	KJM-39	北西一括	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	1.84	1	SBIY	69.14
MK03-5381	KJM-40	北西一括	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.88	1	SBIY	74.62
MK03-5382	KJM-41	5888	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	8.02	1	SBIY	74.05
MK03-5383	KJM-42	6102	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.62	1	SBIY	100.64
MK03-5384	KJM-43	6254	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	22.12	1	SBIY	53.86
MK03-5385	KJM-44	6263	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	8.23	1	WDTN	107.52
MK03-5386	KJM-45	6270	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	4.4	1	SBIY	103.28
MK03-5387	KJM-46	6294	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	13.25	1	SBIY	99.72
MK03-5388	KJM-47	6295	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	12.12	1	WDTN	105.48
MK03-5389	KJM-48	7045	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.16	1	SBIY	105.97
MK03-5390	KJM-49	7049	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	14.78	1	SBIY	92.4
MK03-5391	KJM-50	7050	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	4.56	1	SBIY	62.35
MK03-5392	KJM-51	7078	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	5.36	1	SBIY	115.19
MK03-5393	KJM-52	7175	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.97	1	SBIY	103.32
MK03-5394	KJM-53	7184	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	5.84	1	WDTN	88.31
MK03-5395	KJM-54	7186	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	6.47	1	SBIY	112.59
MK03-5396	KJM-55	7187	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	1.36	1	SBIY	71.94
MK03-5397	KJM-56	P-4	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	3.99	1	SBIY	94.07
MK03-5398	KJM-57	-柄	推定不可	推定不可		推定不可		推定不可	
MK03-5399	KJM-58	-柄	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	2.97	1	SBIY	95.34
MK03-5400	KJM-59	5977	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	8.01	1	SBIY	110.9
MK03-5401	KJM-60	6018	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	9.06	1	SBIY	128.88
MK03-5402	KJM-61	6100	和田麗山群	WDTY	WDTY	2.94	0.9999	WDHY	18.89
MK03-5403	KJM-62	6101	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	2.59	1	SBIY	57.89
MK03-5404	KJM-63	6157	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	0.92	1	SBIY	70.88
MK03-5405	KJM-64	6175	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	3.75	1	SBIY	104.62
MK03-5406	KJM-65	6180	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	11	1	WDTN	123.56
MK03-5407	KJM-66	6235	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	19.03	1	SBIY	124.17
MK03-5408	KJM-67	6236	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	7.75	1	WDTN	82.17
MK03-5409	KJM-68	6284	黒曜石ヶ台群	SWHD	SWHD	13.85	1	SBIY	75.95

研究 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別分析				
				第1候補產地		第2候補產地		
				判別群	距離	確率	判別群	
MK03-5410	KJM-69	6333	瀬訪足ヶ台群	SWHD	10.79	1 SBIY	59.29 0	
MK03-5411	KJM-70	6566	瀬訪足ヶ台群	SWHD	3.28	1 SBIY	114.99 0	
MK03-5412	KJM-71	6567	瀬訪足ヶ台群	SWHD	11.41	1 SBIY	125.88 0	
MK03-5413	KJM-72	7106	和田土屋横南群	WDTM	3.99	1 WDTN	50.12 0	
MK03-5414	KJM-73	P-5 - 6521	瀬訪足山群	TSTY	8.71	1 TSHG	43.51 0	
MK03-5415	KJM-74	西北-柄	瀬訪足ヶ台群	SWHD	19.37	1 SBIY	92.61 0	
MK03-5416	KJM-75	6551	瀬訪足ヶ台群	SWHD	12.87	1 SBIY	90.06 0	
MK03-5417	KJM-76	6613	瀬訪足ヶ台群	SWHD	10.02	1 SBIY	67.77 0	
MK03-5418	KJM-77	6620	瀬訪足ヶ台群	SWHD	4.85	1 SBIY	96.44 0	
MK03-5419	KJM-78	6623	瀬訪足ヶ台群	SWHD	11.38	1 SBIY	97.29 0	
MK03-5420	KJM-79	6626	瀬訪足ヶ台群	SWHD	17.87	1 SBIY	78.76 0	
MK03-5421	KJM-80	6627	瀬訪足ヶ台群	SWHD	4.14	1 SBIY	71.75 0	
MK03-5422	KJM-81	6633	瀬訪足ヶ台群	SWHD	6.03	1 SBIY	88.64 0	
MK03-5423	KJM-82	南西一括	瀬訪足ヶ台群	SWHD	9.13	1 SBIY	93.72 0	
MK03-5424	KJM-83	-一括	瀬訪足ヶ台群	SWHD	19.1	1 SBIY	169.93 0	
MK03-5425	KJM-84	6954	瀬訪足ヶ台群	SWHD	6.66	1 SBIY	84.06 0	
MK03-5426	KJM-85	6965	沖津島鬼島群	KZOB	3.33	1 KZSN	31.74 0	
MK03-5427	KJM-86	7126	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.01	1 SBIY	66.38 0	
MK03-5428	KJM-87	7130	瀬訪足ヶ台群	SWHD	8.76	1 SBIY	95.11 0	
MK03-5429	KJM-88	7131	瀬訪足ヶ台群	SWHD	11.84	1 SBIY	83.2 0	
MK03-5430	KJM-89	7313	瀬訪足ヶ台群	SWHD	7.17	1 SBIY	92.98 0	
MK03-5431	KJM-90	南西一括	瀬訪足ヶ台群	SWHD	5.86	1 SBIY	69.09 0	
MK03-5432	KJM-91	6802	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.26	1 SBIY	84.74 0	
MK03-5433	KJM-92	-一括	瀬訪足ヶ台群	SWHD	6.35	1 SBIY	75.98 0	
MK03-5434	KJM-93	-一括	瀬訪足ヶ台群	SWHD	20.34	1 SBIY	141.26 0	
MK03-5435	KJM-94	5244	瀬訪足ヶ台群	SWHD	18	1 SBIY	100.71 0	
MK03-5436	KJM-95	6690	瀬訪足ヶ台群	SWHD	19.72	1 SBIY	68.43 0	
MK03-5437	KJM-96	6710	瀬訪足ヶ台群	SWHD	16.55	1 SBIY	101.66 0	
MK03-5438	KJM-97	6711	瀬訪足ヶ台群	SWHD	20.88	1 SBIY	91.29 0	
MK03-5439	KJM-98	5505	瀬訪足ヶ台群	SWHD	7.57	1 SBIY	83.93 0	
MK03-5440	KJM-99	131	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.11	1 SBIY	74.46 0	
MK03-5441	KJM-100	227	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.98	1 SBIY	86.82 0	
MK03-5442	KJM-101	275	瀬訪足ヶ台群	SWHD	21.7	1 SBIY	137.15 0	
MK03-5443	KJM-102	289	瀬訪足ヶ台群	SWHD	3.62	1 SBIY	98.37 0	
MK03-5444	KJM-103	468	瀬訪足ヶ台群	SWHD	14.63	1 SBIY	144.32 0	
MK03-5445	KJM-104	484	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.74	1 SBIY	109.42 0	
MK03-5446	KJM-105	547	和田屋山群	WDTY	4.68	0.9995	WDHTY	17.31 0.0005
MK03-5447	KJM-106	560	瀬訪足ヶ台群	SWHD	10.6	1 SBIY	74.7 0	
MK03-5448	KJM-107	951	瀬訪足ヶ台群	SWHD	16.76	1 SBIY	99.12 0	
MK03-5449	KJM-108	1107	瀬訪足ヶ台群	SWHD	4.92	1 SBIY	109.7 0	
MK03-5450	KJM-109	1141	瀬訪足ヶ台群	SWHD	14.93	1 SBIY	60.58 0	
MK03-5451	KJM-110	1146	瀬訪足ヶ台群	SWHD	21.74	1 SBIY	92.66 0	
MK03-5452	KJM-111	1288	瀬訪足ヶ台群	SWHD	7.16	1 SBIY	103.35 0	
MK03-5453	KJM-112	1364	瀬訪足ヶ台群	SWHD	11.86	1 SBIY	145.08 0	
MK03-5454	KJM-113	1402	和田屋山群	WDTY	8.1	0.9999	WDKB	26.97 0.0001
MK03-5455	KJM-114	1583	瀬訪足ヶ台群	SWHD	20.64	1 SBIY	114.62 0	
MK03-5456	KJM-115	1640	瀬訪足ヶ台群	SWHD	16.51	1 SBIY	150.5 0	
MK03-5457	KJM-116	1726	瀬訪足ヶ台群	SWHD	14.21	1 SBIY	115.05 0	
MK03-5458	KJM-117	1844	瀬訪足ヶ台群	SWHD	3.01	1 SBIY	98.12 0	
MK03-5459	KJM-118	1848	瀬訪足ヶ台群	SWHD	14.47	1 SBIY	109.54 0	
MK03-5460	KJM-119	1898	瀬訪足ヶ台群	SWHD	13.94	1 SBIY	127.89 0	
MK03-5461	KJM-120	2052	瀬訪足ヶ台群	SWHD	1.22	1 SBIY	100 0	
MK03-5462	KJM-121	2101	瀬訪足ヶ台群	SWHD	6.02	1 SBIY	91.22 0	
MK03-5463	KJM-122	2102	瀬訪足ヶ台群	SWHD	13.94	1 SBIY	104.73 0	
MK03-5464	KJM-123	2214	瀬訪足ヶ台群	SWHD	14.19	1 SBIY	95.23 0	
MK03-5465	KJM-124	2218	瀬訪足ヶ台群	SWHD	1.76	1 SBIY	85.1 0	
MK03-5466	KJM-125	2231	瀬訪足ヶ台群	SWHD	13.15	1 SBIY	130.89 0	
MK03-5467	KJM-126	2275	瀬訪足ヶ台群	SWHD	11.41	1 SBIY	111.58 0	
MK03-5468	KJM-127	2297	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.11	1 SBIY	102.12 0	
MK03-5469	KJM-128	2314	瀬訪足ヶ台群	SWHD	4.96	1 SBIY	81.44 0	
MK03-5470	KJM-129	2345	瀬訪足ヶ台群	SWHD	16.71	1 SBIY	123.14 0	
MK03-5471	KJM-130	2348	瀬訪足ヶ台群	SWHD	23.28	1 WDTN	129.67 0	
MK03-5472	KJM-131	2358	瀬訪足ヶ台群	SWHD	4.76	1 SBIY	97.52 0	
MK03-5473	KJM-132	2373	瀬訪足ヶ台群	SWHD	4.25	1 SBIY	114.24 0	
MK03-5474	KJM-133	2405	瀬訪足ヶ台群	SWHD	11.04	1 SBIY	120.44 0	
MK03-5475	KJM-134	2427	瀬訪足ヶ台群	SWHD	7.37	1 SBIY	84.25 0	
MK03-5476	KJM-135	2437	瀬訪足ヶ台群	SWHD	17.75	1 SBIY	125.35 0	
MK03-5477	KJM-136	2473	瀬訪足ヶ台群	SWHD	18.16	1 SBIY	133.45 0	
MK03-5478	KJM-137	2494	瀬訪足ヶ台群	SWHD	14.17	1 SBIY	60.73 0	
MK03-5479	KJM-138	2537	瀬訪足ヶ台群	SWHD	2.44	1 SBIY	116.3 0	
MK03-5480	KJM-139	2601	瀬訪足ヶ台群	SWHD	19.74	1 SBIY	99.28 0	
MK03-5481	KJM-140	2622	瀬訪足ヶ台群	SWHD	13.77	1 SBIY	104.12 0	

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別分析		
				第1候補產地	確率	第2候補產地
MK03-5482	KJM-141	2754	諫訪星ヶ台群	SWHD	8.46	1 SBIY 106.09 0
MK03-5483	KJM-142	2761	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.73	1 SBIY 82.08 0
MK03-5484	KJM-143	2766	諫訪星ヶ台群	SWHD	14.21	1 SBIY 96.62 0
MK03-5485	KJM-144	2770	諫訪星ヶ台群	SWHD	18.64	1 SBIY 97.12 0
MK03-5486	KJM-145	2816	諫訪星ヶ台群	SWHD	14.9	1 SBIY 71.3 0
MK03-5487	KJM-146	2817	諫訪星ヶ台群	SWHD	4.86	1 SBIY 92.15 0
MK03-5488	KJM-147	2825	諫訪星ヶ台群	SWHD	0.71	1 SBIY 90.83 0
MK03-5489	KJM-148	2967	和田巣山群	WDTY	2.02	1 WDHY 21.28 0
MK03-5490	KJM-149	2978	諫訪星ヶ白群	SWHD	9.87	1 SBIY 129.57 0
MK03-5491	KJM-150	3014	諫訪星ヶ台群	SWHD	5.61	1 SBIY 124.5 0
MK03-5492	KJM-151	3038	和田巣山群	WDTY	5.74	1 WDHY 23.57 0
MK03-5493	KJM-152	3113	諫訪星ヶ台群	SWHD	3.92	1 SBIY 101.69 0
MK03-5494	KJM-153	3364	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.15	1 SBIY 99.21 0
MK03-5495	KJM-154	3439	諫訪星ヶ台群	SWHD	12.98	1 SBIY 115.14 0
MK03-5496	KJM-155	3490	諫訪星ヶ台群	SWHD	17.85	1 SBIY 121.16 0
MK03-5497	KJM-156	3555	諫訪星ヶ台群	SWHD	6.41	1 SBIY 98.82 0
MK03-5498	KJM-157	3791	諫訪星ヶ台群	SWHD	6.39	1 SBIY 111.11 0
MK03-5499	KJM-158	3921	諫訪星ヶ台群	SWHD	5.78	1 SBIY 102.12 0
MK03-5500	KJM-159	3940	諫訪星ヶ台群	SWHD	16.55	1 SBIY 92.22 0
MK03-5501	KJM-160	3950	諫訪星ヶ台群	SWHD	5.47	1 SBIY 77.68 0
MK03-5502	KJM-161	3985	諫訪星ヶ白群	SWHD	1.37	1 SBIY 86.61 0
MK03-5503	KJM-162	4017	諫訪星ヶ台群	SWHD	7.72	1 SBIY 116.77 0
MK03-5504	KJM-163	4188	諫訪星ヶ台群	SWHD	1.36	1 SBIY 95.27 0
MK03-5505	KJM-164	4406	諫訪星ヶ台群	SWHD	5.88	1 SBIY 116.82 0
MK03-5506	KJM-165	4410	諫訪星ヶ台群	SWHD	17.31	1 SBIY 117.5 0
MK03-5507	KJM-166	4511	諫訪星ヶ台群	SWHD	10	1 SBIY 89.91 0
MK03-5508	KJM-167	4562	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.75	1 SBIY 115.3 0
MK03-5509	KJM-168	4637	諫訪星ヶ台群	SWHD	2.54	1 SBIY 100.95 0
MK03-5510	KJM-169	4749	諫訪星ヶ台群	SWHD	17.72	1 SBIY 109.71 0
MK03-5511	KJM-170	4757	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.54	1 SBIY 109.81 0
MK03-5512	KJM-171	4773	諫訪星ヶ台群	SWHD	6.57	1 SBIY 89.75 0
MK03-5513	KJM-172	4810	諫訪星ヶ台群	SWHD	5.8	1 SBIY 63.57 0
MK03-5514	KJM-173	4851	諫訪星ヶ台群	SWHD	9.73	1 SBIY 102.18 0
MK03-5515	KJM-174	4860	諫訪星ヶ台群	SWHD	17.88	1 SBIY 104.73 0
MK03-5516	KJM-175	4872	諫訪星ヶ台群	SWHD	18.33	1 SBIY 126.98 0
MK03-5517	KJM-176	4954	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.6	1 SBIY 70.17 0
MK03-5518	KJM-177	4970	諫訪星ヶ台群	SWHD	5.82	1 SBIY 83.67 0
MK03-5519	KJM-178	4982	諫訪星ヶ台群	SWHD	16.43	1 SBIY 134.71 0
MK03-5520	KJM-179	4985	諫訪星ヶ台群	SWHD	6.67	1 SBIY 64.16 0
MK03-5521	KJM-180	5039	諫訪星ヶ台群	SWHD	8.56	1 SBIY 74.5 0
MK03-5522	KJM-181	5074	諫訪星ヶ台群	SWHD	13.55	1 SBIY 81.81 0
MK03-5523	KJM-182	5087	諫訪星ヶ台群	SWHD	16.5	1 SBIY 95.77 0
MK03-5524	KJM-183	5105	推定不可	推定不可		
MK03-5525	KJM-184	5347	諫訪星ヶ台群	SWHD	2.87	1 SBIY 68.06 0
MK03-5526	KJM-185	5413	諫訪星ヶ台群	SWHD	4.06	1 SBIY 107.83 0
MK03-5527	KJM-186	5491	和田巣山群	WDTY	6.75	0.9521 WDHY 10.3 0.0479
MK03-5528	KJM-187	5495	諫訪星ヶ台群	SWHD	6.12	1 SBIY 105.08 0
MK03-5529	KJM-188	5497	諫訪星ヶ台群	SWHD	3	1 SBIY 69.65 0
MK03-5530	KJM-189	5664	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.52	1 SBIY 102.81 0
MK03-5531	KJM-190	5832	諫訪星ヶ台群	SWHD	7.63	1 SBIY 87.32 0
MK03-5532	KJM-191	5802	諫訪星ヶ台群	SWHD	17.03	1 SBIY 123.44 0
MK03-5533	KJM-192	5846	諫訪星ヶ台群	SWHD	1.51	1 SBIY 77.31 0
MK03-5534	KJM-193	5851	諫訪星ヶ台群	SWHD	14.45	1 SBIY 136.63 0
MK03-5535	KJM-194	5853	諫訪星ヶ台群	SWHD	11.7	1 SBIY 103.54 0
MK03-5536	KJM-195	6477	和田巣山群	WDTY	9.17	0.9986 WDHY 19.91 0.0014
MK03-5537	KJM-196	7619	和田小深沢群	WDKE	10.82	0.9999 WDTK 28.85 0.0001
MK03-5538	KJM-197	6197	諫訪星ヶ台群	SWHD	2.82	1 SBIY 87.04 0
MK03-5539	KJM-198	7050	諫訪星ヶ台群	SWHD	10.49	1 SBIY 72.76 0
MK03-5540	KJM-199	4406	諫訪星ヶ台群	SWHD	16.32	1 SBIY 100.07 0

推定結果の見方

右側の表

判別回数別群：判別回数によって推定された産地

判別分析と結果が異なるときは“*”をつけて示す。

判別分析：第1候補產地…判別分析により推定された産地の第1候補
第2候補產地…判別分析により推定された産地の第2候補

判別群 供試産地番号

… 判別回数による産地と通常は一致する。

距離 試料から候補産地までのマハノビス距離

一 が小さいほど供試産地と類似性が高い。

確率 試料が候補産地に属する確率

· 1に近いほど類似性が高い。

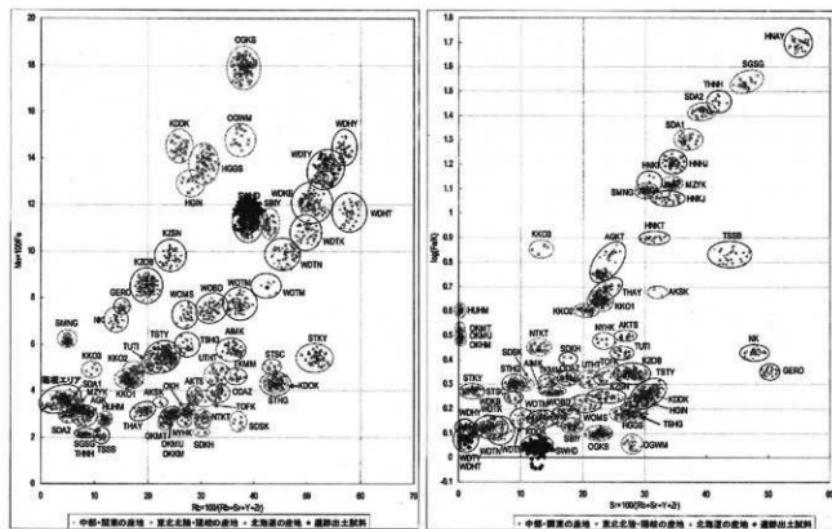


図10 黒曜石产地推定判別図

表9 上条宮久保遺跡出土黒曜石产地組成表

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	ブドウ沢	WOHD	0	0
	牧ヶ沢	WOMS	0	0
	高松沢	WOTM	0	0
和田(WD)	美蘇ライド	WDHY	0	0
	鷹山	WDTY	9	4.57
	小森沢	WDKB	1	0.51
	土屋横北	WDTK	0	0
	土屋横西	WDTN	0	0
	土屋横南	WDTM	1	0.51
	古峰	WDHT	0	0
浜坊	星ヶ台	SWHD	184	93.4
南山	TSTY	1	0.51	
蓼科	双子山	TSHG	0	0
大城	播鉢山	TSSB	0	0
箱根	柏崎1	AGKT	0	0
	知宿	HNHJ	0	0
	銀治橋	HNKJ	0	0
	黒岩橋	HNKI	0	0
	上多賀	HNKT	0	0
	芦ノ湯	HNAY	0	0
	忍動島	KZOB	1	0.51
神津島	砂林崎	KZSN	0	0
高原山	甘湯沢	THAY	0	0
新津	七ツ沢	THNH	0	0
	金津	NTKT	0	0
	新発田	SBY	0	0
深浦	八森山	HUHM	0	0
木造	出来島	KDDK	0	0
男鹿	金ヶ崎	OGKS	0	0
	藤本	OGWM	0	0
羽黑	月山	HGGS	0	0
	今野川	HGIN	0	0

エリア	判別群	記号	試料数	%
北上川	折居1群	KKO1	0	0
	折居2群	KKO2	0	0
	折居3群	KKO3	0	0
宮崎	湯ノ舟	MZYK	0	0
	秋保1群	SDA1	0	0
	秋保2群	SDA2	0	0
	色麻	SMNG	0	0
	塩郷	SGSG	0	0
	小泊	KDKO	0	0
	折居内	UTHT	0	0
魚津	慈月上野	UTHT	0	0
高岡	二上川	TOFK	0	0
東光寺	SDSK	0	0	
佐渡	金井二ヶ坂	SDKH	0	0
福井	久見	OKHM	0	0
	岬地区	OKMT	0	0
	箕浦	OKMU	0	0
	8号沢	STHG	0	0
	白滝	STKY	0	0
	赤井山頂	STSC	0	0
	曲川	AIMK	0	0
勝浦	豊泉	TUTI	0	0
竜戸	安住	ODAZ	0	0
十勝	三段	TKMM	0	0
名寄	布川	NYHA	0	0
函館	高砂台	AKTS	0	0
春光台	春光台	AKSK	0	0
不明产地1	NK	NK	0	0
下呂石	GERO	GERO	0	0
合計				197 100.01
不可など				2
総計				199

第5章 調査の成果と課題

今回の調査で、縄文時代中期中葉～後葉の堅穴住居跡6軒、集石土坑1基、屋外埋甕1基、土坑10基、時期不明の溝1条が発見された。出土した遺物は縄文時代前期初頭・中期初頭～後期初頭の土器・石器、平安時代の土師器、近世の古鏡である。

以下、特筆すべき点を述べていく。なお、縄文時代中期後半の時期については、櫛原氏の時期区分（櫛原1999）を参考にした。

1. 遺構の変遷について

本遺跡は台地の傾斜地にできた平坦面に作られた小規模な集落である。今回の調査区は、農道整備に伴うもので東西に細長く集落全体を調査したわけではないが、その変遷を見ていきたい（第43・44図）。

○五領ヶ台式期

1号集石土坑が調査区の中央やや西寄りにある。それ以外は発見されていない。調査区外に該期の遺構が存在すると思われるが、出土土器も少なくその数はあまり多くないであろう。

○井戸尻式期

中期中葉の遺構は発見されず、井戸尻式期になり調査区中央やや西寄りに4号住・5号住が、東側に4号土坑が作られる。後述するが、井戸尻式期でも終末にあたるものと思われる。遺物出土量も多く、この時期から安定的に集落が営まれたと考えられる。

○曾利Ⅰ式期

調査区中央に17号土坑と1号屋外埋甕がある。住居跡は確認できない。遺物出土量も比較的多いので、周辺に住居跡が存在するであろう。

○曾利Ⅱa式期

調査区中央とやや東寄りに2号住と3号住が展開する。土坑は確認できなかった。遺物出土量も多く、集落の最盛期といえるであろう。

○曾利Ⅱb式期

調査区東側に1号住があるのみで、土坑は確認できなかった。遺物出土量は多いので、周辺に遺構が存在すると思われる。

○曾利Ⅳ式期

調査区中央やや西寄りに8号・11号・16号・18号土坑がある。かつて住居跡が存在したところに作られている。住居跡は確認できなかった。遺物出土量が多いので周辺に住居跡があるであろう。

○曾利V式期

調査区中央やや東寄りに6号住と9号土坑がある。遺物出土量が少なく調査区外の遺構も多くはないであろう。

今回の調査において、以上のような変遷をたどる。遺構は確認できなかったが、住居覆土及び遺構外から前期初頭のものと考えられる鐵維土器がわずかながら出土している。調査区外に前期初頭の遺構が発見される可能性もあり、その時期から生活の痕跡が残されていったであろう。

その後、前期後半では遺物・遺構とも確認できなかつたので、この土地は利用されなくなっていくが、五領ヶ台式期に再び生活の痕跡が残される。集石土坑1基のみなので、継続的に定住した様子ではなく、キャンプ地などの一時的に生活した場所といえよう。

五領ヶ台式期以降の中期中葉では遺構が確認できない。遺物出土量も少なく、調査区外に遺構の存在する可能性もあるが、それほど多くないと思われる。井戸尻式終末期になり住居が作られ始め、集落が安定的に継続していく。今回の調査結果から本遺跡の集落の始まりは、住居跡が確認できる井戸尻式終末期となる。

曾利Ⅰ式期ではまだ遺構が少なくなるが、曾利Ⅱa式期では住居が作られ、遺物量が増大している。集落の最盛期であると考えてよいであろう。曾利Ⅱb式期では住居が減り、曾利Ⅲ式期では遺構が確認できず、曾利Ⅳ式期で土坑数基、曾利Ⅴ式期で再び住居が現れてくる。それ以降の時期の遺構は確認できず、中期末で集落が断絶したと考えられる。

第7表の出土土器の内訳を見ると、一番多く出土しているのは無紋のものであるが、それに次いで縄文地紋のものが多く出土し、綾杉文地紋がそれに続く。それぞれ曾利Ⅱ式とIV式に多い地紋があるので、その時期に生活活動が盛んであったと思われる。

遺構数や遺物出土量から考えると、本遺跡の集落は曾利Ⅱa式期が最盛期で、井戸尻式終末期がそれに続く。それ以外の時期は比較的の低調であり、中期後半通して、一部断絶する時期はあるが、小規模な集落であったといえる。

遺物の分布状況については第37図を参照されたい。住居跡を中心とした範囲に数多く出土している。住居跡以外では4号土坑周辺や2号住の北東部、4号住の北西側の北壁周辺に分布のまとまる箇所があり、一部住居跡等の遺構があった可能性も考えられる。調査区西側の傾斜が強くなり始める所にも、比較的多くの遺物が出土している。事前の試掘調査ではこれより西側では遺構が確認できず遺物も数える程度であったので、これらの遺物は北側からの流れ込みと思われ、調査区外の遺構の範囲を

考るうえで重要である。

2. 繩文中期後半の土器について

今回の調査では、遺構内外から縄文時代中期中葉～後葉の土器が数多く出土した。ここでは、該期の土器の変遷を追っていきたい（第45・46図）。なお、時期区分については櫛原氏の区分（櫛原1999）を参考にした。

○1期

非戸尻式終末期である。主に5号住・4号住・4号土坑から出土している。口縁部にW字状の隆線をもつ楕円区画文土器が多い。楕円区画は、大きさにより段数が異なる。5住2・7の条線は棒状工具または半截竹管外皮による1本引きの条線であり、次の曾利I式に統いていく。浅鉢形土器や把手の付く土器は、出土位置がバラバラで曾利式期には置けないものをこの時期に入れた。よってあるものは少し時期が遅る可能性もある。

○2期

曾利I式期である。条線地紋で隆線上に半截竹管内皮による押し引き文が施されている。外埋1や17.1は口縁部に満巻文等の文様をもつもので、曾利I式でも古い段階のものであろう。脣部のモチーフは垂下するものが多く、U字状になるものは4住11だけである。

○3期

曾利IIa式期である。主に2号住・3号住・4号住から出土している。地紋には条線のもの（3住1・3・5・6、4住12・13）と縄文のもの（2住1・13、3住2・14、4住16・17・18、外9）がある。条線は歯齒状工具により施され、比較的浅く細かい。

4住12・17・18、2住1・13がX字状把手深鉢で3住1もその可能性がある。脣部モチーフは、U字状のもの（2住13）、U字状を基本に垂下文と連絡するもの（2住1、4住12）、対向する逆U字状文があるもの（3住1）がある。把手の数は2住1が4個であるが、それ以外は4個以上である。

口縁つなぎ文の土器は3住3、外9であり、1本または2本隆線で表されたつなぎ文の上下幅は狭く、内側には地紋が施されている。4住23は加曾利E2式であるが、供伴している4号住の土器が該期のものが多いので、この時期に入れておく。

○4期

曾利IIb式期である。主に1号住と3号住から多く出土している。地紋は縄文のもの（1住1・2・3、3住15・18・23・24、4住20）と刺突文のもの（1住10、3住25）とがある。口縁つなぎ文土器は、満巻つなぎ弧文が多く、隆線上に沈線を引いて2本隆線のように見せている（1住2・10、3住18、4住20）。X字状把手深鉢

は、幅広い隆線上に半截竹管内皮を引くことで複数の隆線があるように見せている。脣部モチーフは垂下文とU字状文がつながり片方の端に渦が巻くものである（3住24・25）。

3住33は連弧文土器でこの時期に入れたが、3号住からは前段階の曾利IIa式期の土器も数多く出土しているので、そちらになる可能性もある。

○5期

曾利III式期である。比較的出土量は少ない。口縁部有孔土器（外12）、斜行文土器（1住17）、壺形土器（1住16、2住14、3住32）がある。1住17は、地紋が歯齒状工具による条線と細いヘラ状工具による1本引き条線とが併存する。口縁部の斜行文が比較的縱方向になっていること、斜行文が頭部文様帶にまで及び明らかに作りが雑になっていること、脣部の波状粘土紐が垂下するだけで簡略化されていること、底部が小さくなっていることなどから、この時期と考えた。

○6期

曾利IV式期である。主に1号住や土坑から出土している。出土量は多い。そのほとんどが綾杉文地紋（1住23・24・25、2住15、8土1、11土1、16土1）であるが、綾位条線のもの（18土1、1住21・27）や縄文のもの（1住30、4住24・25）もある。1住28は条線と綾杉文の中間と言えようか。地紋などにより2段階に時期が分かれ（櫛原1999、今福1999）可能性があるが、土器全体の様子が把握できないものも多いので、ここでは分けなかつた。

口縁部文様帶が省略されている土器（1住23・24・25、2住15、8土1、16土1）が多いが、口縁部文様帶のあるものは隆線により弧線文が施されるもの（1住30、4住24・25、11土1）が多い。1住29は加曾利E3式であるが、供伴する4号住の土器が該期に多いので、この時期に入れてある。

○7期

曾利V a式期である。地紋がハの字状文のもの（4住28、9土5）や歯齒状工具によるハの字状文に近いものの（4住26）がある。1住31の地紋は綾杉文が崩れているものであるが、器形がほぼ直線的に広がることや、口縁部直下に沈線や隆線がないことなどからこの時期に入れてある。9土6は加曾利E3式であるが、9土5と供伴しているのでこの時期のものと考えた。

○8期

曾利V b式である。地紋は雑なハの字状文（1住32、外14）や歯齒状工具によるハの字状文（4住27、6住2）、縄文のもの（6住1）などがある。6住1の縄文は綾位に転がして施文されている。口縁部には2本沈線による

弧線文が施され、弧線同士が接するところから垂下文が下がる（1住32、6住1、外13）。4住27は弧線の途中から垂下文が下がる。6住2は楕円文である。外15は微隆線をもつ加曾利E4式で、供伴関係は不明であるが、この時期においた。

以上が本遺跡における中期後半の土器変遷であるが、1期（井戸尻式終末期）の楕円区画文土器や8期（曾利Vb式期）の弧線文を持つ土器が比較的まとまって出土したことが特徴といえよう。また、残りは悪く全体像が把握できるものは少ないが、X字状把手付深鉢が比較的多く出土している。

図示したものでは、1期（井戸尻式終末期）、3期（曾利IIa式期）、4期（曾利IIb式期）、6期（曾利IV式期）が多く、2期（曾利I式期）、5期（曾利III式期）、7期（曾利Va式期）、8期（曾利Vb式期）は比較的小ない。

3. 周辺の縄文時代中期後半の遺跡について

本遺跡の周辺では、縄文時代中期後半の集落が数多く調査されている（第4図参照）。

本遺跡の南西約600m離れた所に酒呑場遺跡がある。現在山梨県農試試験場地内にあり、縄文時代前期から後期にかけての住居跡が200軒以上発見されている大集落跡であり、八ヶ岳南麓における拠点的な集落の1つである（野代1997、保坂1997・1998、保坂他2003、小宮山1996）。

縄文時代中期後半の住居跡は、井戸尻式期を含めると、井戸尻式期が35軒、曾利式期が38軒である。その中で時期の特定できるものは、井戸尻I式期2軒、井戸尻II式期6軒、井戸尻III式期19軒、曾利I式期6軒、曾利II式期5軒、曾利III式期8軒、曾利IV式期9軒、曾利V式期6軒である。井戸尻III式期が突出して住居数が多く、他の時期も安定して集落が存続していることが分かる。

酒呑場遺跡の住居変遷を全時期で見ると次のようになる。前期前半の中越式期に住居が作られ始め、諸磯b式期で大規模な集落が出現する。中期になり五頭ヶ台式期～井戸尻式期において、諸磯b式期の住居分布とは異なる場所で環状集落ができる。曾利式期になり再び集落の場所が移動し、後期初頭の称名寺式期を最後に集落が消滅していく。その中で井戸尻式期～曾利式期は、住居数が急激に増加し最盛期を迎えた環状集落が消え、次第に集落が縮小・減少していく時期にあたると見える。

本遺跡から東へ約800m離れた隅の台地上には、段道遺跡がある。段道遺跡は縄文時代中期後半の住居跡6軒、配石造構1基、屋外埋甕1基などが発見されている（長谷川2004）。住居跡の時期の内訳は、曾利II式期3軒、曾利III式期1軒、曾利IV式期1軒、曾利V式期1軒である。

道路建設に伴う発掘調査であったため集落の全体の様相ははっきりとしないが、曾利II式期に集落が出現し、曾利V式期まで存続している。住居数や分布状況を見ると小規模な集落であるが、中期後半を通して集落は継続している。

本遺跡から西に約1.8km離れた所に清春白樺美術館南遺跡がある。酒呑場遺跡とは約1kmの距離で、大深沢川の浸食による大きな河谷を挟んでいる。住居跡は7軒発見され、どれも中期後半のものである（村松2003）。時期の確定できるものは、井戸尻式期2軒、曾利I式期3軒であり、比較的短期間で集落が消滅している。出土土器も井戸尻式～曾利I式が圧倒的に多く、曾利II式以降の土器はわずかしか出土していないので、調査区外の曾利II式以降の遺構も少ないと思われる。

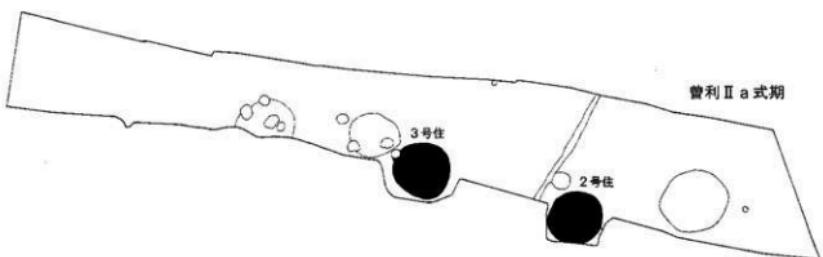
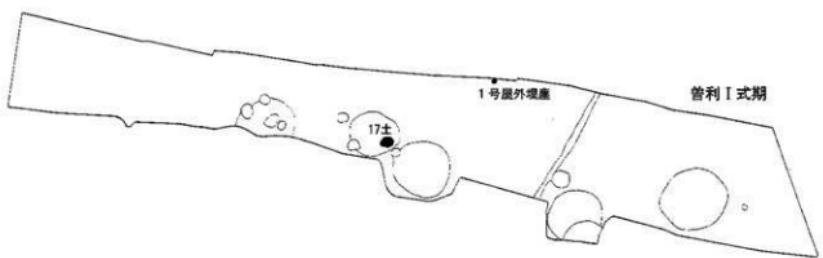
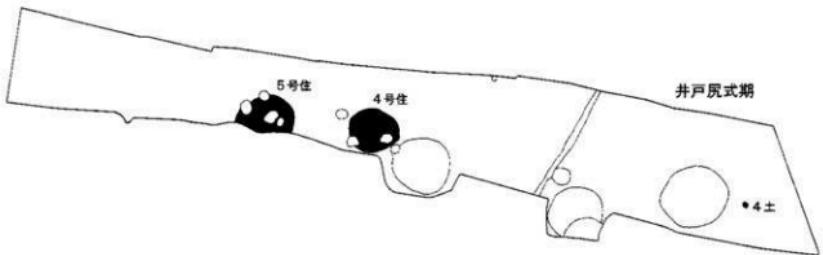
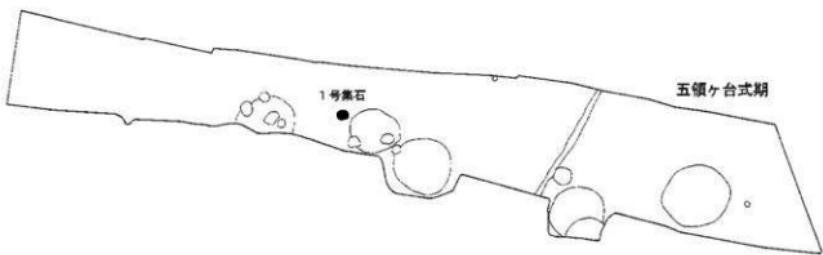
清春白樺美術館南遺跡から北へ800mの所に新宿区健康村遺跡があり、諸磯c式期の住居跡1軒、五頭ヶ台式期の伏堀1基、曾利II式期の埋甕1基、曾利III式期の住居跡1軒が発見されている（板倉1994）。

本遺跡は、中期後半の住居跡が6軒あり、その内訳は井戸尻式期2軒、曾利II式期3軒、曾利V式期1軒である。断続的ではあるが、井戸尻式期から曾利V式期まで集落が続いている。

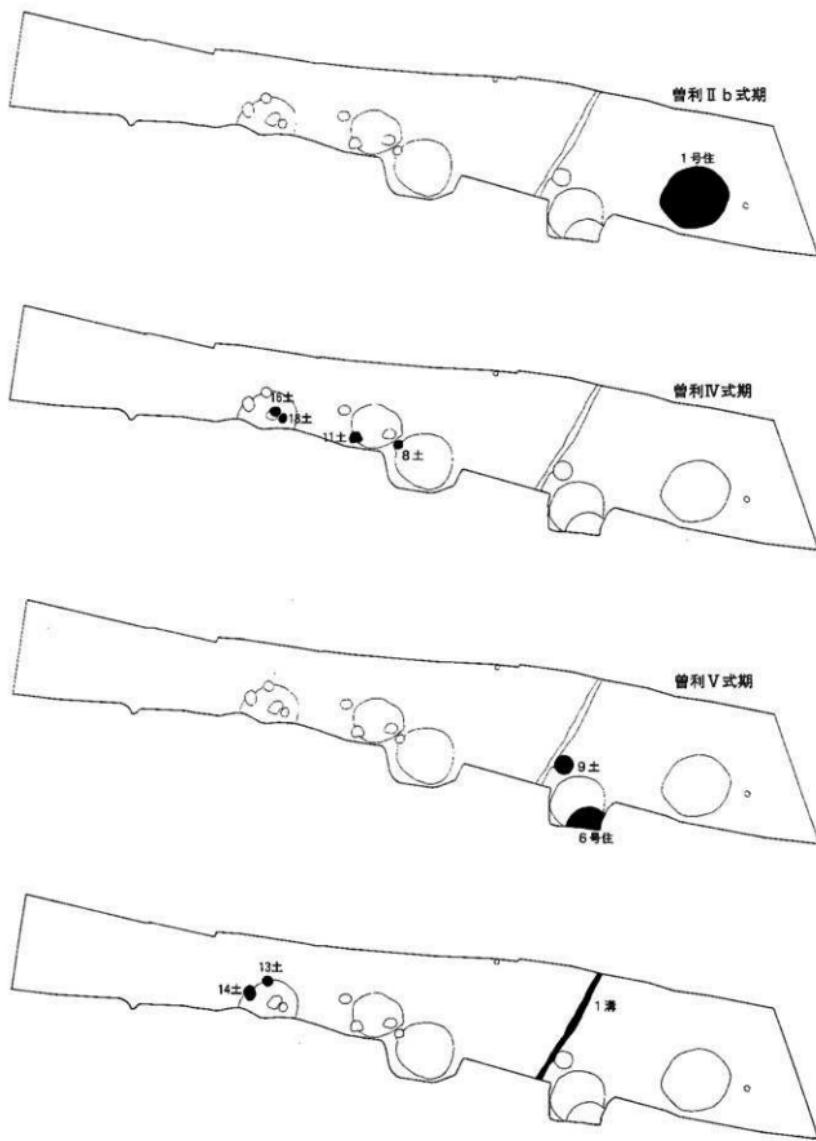
以上の調査事例を基に、本遺跡周辺の集落の様相を見てみると以下のようになる。

酒呑場遺跡に前期後半の諸磯b式期から大規模な集落が営まれ、この周辺の拠点的集落となつた。中期になり環状集落に発展し住居数が増加していく、五頭ヶ台式期～井戸尻式期まではそのまま推移していく。周辺の遺跡からもその時期の住居は確認されていない。井戸尻式終末期になると、酒呑場遺跡では住居数が急増し、その台地だけでは収まり切れなくなつたであろうか、酒呑場遺跡の東側にある本遺跡や、西側にある清春白樺美術館南遺跡など周辺に集落が拡散していく。曾利II式期になると、西側では清春白樺美術館南遺跡の集落が減少・消滅する。新宿区健康村遺跡では集落が出現するが曾利III式期を最後に継続しない。一方、東側の台地では本遺跡では集落が継続し、さらに東側に段道遺跡のように新たに出現する集落もあった。それらの集落は中期末の曾利V式期や後期初頭まで続き、それ以降消滅していく。拡散した集落も全て長期間存続するのではなく、消滅するものやその後一時的に出現するものもあり、各集落によってその在り方が様々であることが分かる。

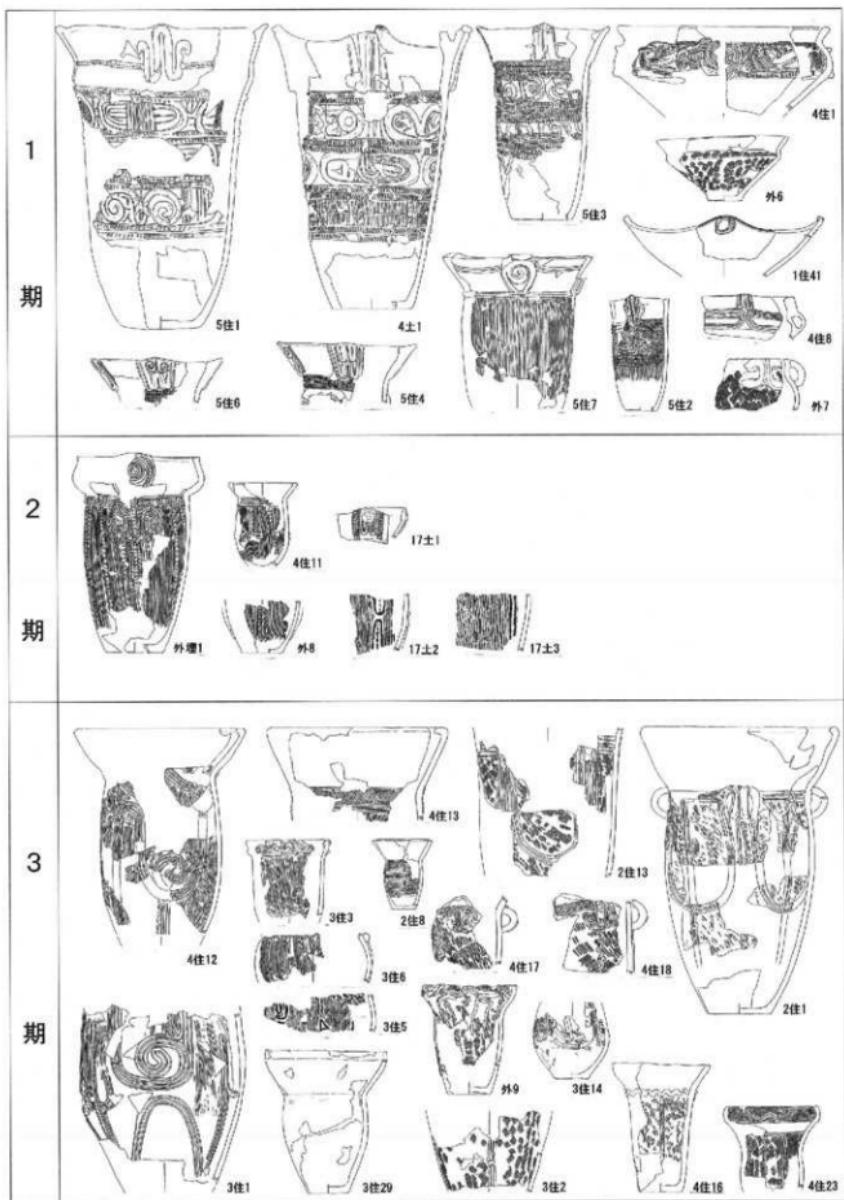
酒呑場遺跡周辺以外では、長板インターチェンジ付近にある柳坪A・B遺跡周辺の地域が類似している。柳坪A・B遺跡では、A遺跡が谷部を挟んで西側に、B遺跡が東側に集落が展開している。A遺跡には中期前半から



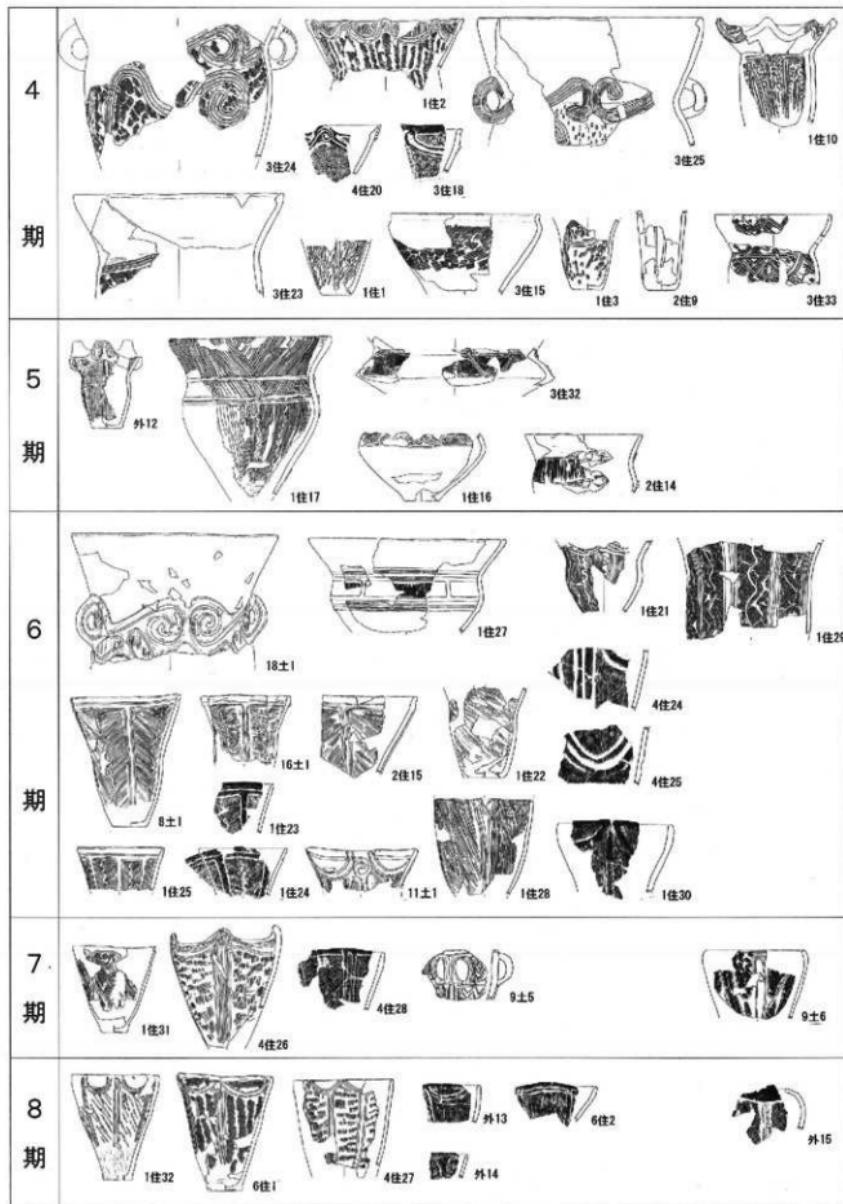
第43図 遺構変遷図①



第44図 遺構変遷図②



第45図 縄文中期後半の土器変遷図①



第46図 繩文中期後半の土器変遷図②

集落が營まれておらず、中期後半まで続いている。B遺跡は中期後半から集落が出現し始めるので、A遺跡の集落から拡大・分散したものと考えられている（末木1972、櫛原2002）。ここでも曾利式期に集落が広がっていくようである。

八ヶ岳南麓では、曾利式期に集落が増加する傾向が知られていた（日本考古学協会1984）。今回の調査は、曾利式期に集落が拡散・増加していく様子を、拠点的集落を中心とした半径約1.5kmの狭い範囲で確認することができ、なおかつ、大規模集落と小規模集落で比較できる地域の1遺跡として重要な調査事例となった。

参考文献

- 小宮山隆1996『酒呑場遺跡G区』長坂町教育委員会
小宮山隆1997「6長坂上条遺跡」「八ヶ岳考古」平成8年度年報 北巨摩市町村文化財担当者会
長谷川誠2004『段段遺跡』長坂町教育委員会
長谷川誠2004『蟻塚遺跡』長坂町教育委員会
村松佳幸2003『清春白樺美術館南遺跡』長坂町教育委員会
野代幸和1997『酒呑場遺跡（第1・2次）』（遺構編）山梨県教育委員会
保坂康夫他1997『酒呑場遺跡（第3次）』（遺構編一前編）山梨県教育委員会
保坂康夫他1998『酒呑場遺跡（第3次）』（遺構編一後編）山梨県教育委員会
保坂康夫他2003『酒呑場遺跡（第4次）』山梨県教育委員会
保坂康夫他2005『酒呑場遺跡（第1～3次）』（遺物編）山梨県教育委員会
大山柏他1941『山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告』『史前学雑誌』13-3 史前学会
長坂町誌編纂委員会1990『長坂町誌』上・下巻 長坂町
山梨県1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨日日新聞社
板倉倅之1994『健康村遺跡』新宿区区民健康村遺跡調査団
保坂和博2003『原町農業高校前（下原）遺跡（第1次）』山梨県教育委員会
田口明子2004『原町農業高校前（下原）遺跡（第3次）』山梨県教育委員会
三田村美彦2005『原町農業高校前遺跡（第2次）』山梨県教育委員会
櫛原功一1993『曾利I式土器の再検討－山梨県大泉村姥神遺跡の資料をもとに－』『縄文時代』4 縄文時代文化研究会
- 櫛原功一1997『社口遺跡第3次調査報告書』高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団
櫛原功一1999『曾利式土器の編年私案』『山梨考古学論集』IV 山梨県考古学協会
櫛原功一2002a『曾利式土器の一様相・結節縄文をもつ土器を中心に』『山梨県考古学誌』13 山梨県考古学協会
櫛原功一2002b『柳坪北遺跡』柳坪北遺跡発掘調査会
米田明訓1978『曾利式土器編年の基礎的把握』『長野県考古学誌』30 長野県考古学会
米田明訓1986『柳坪遺跡』山梨県教育委員会
今福利恵1999『第2章山梨県の考古学編年 2縄文時代の編年（8）中期中葉（勝坂式土器）』・『同章（9）中期後半（曾利式土器）』『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨日日新聞社
末木 健1981『曾利式土器』『縄文文化の研究』4 雄山閣出版
末木 健1988『曾利式土器様式』『縄文土器大観』3 中期 II 小学館
佐野 隆1997『曾利式土器終末期の編年について』『八ヶ岳考古』平成8年度年報 北巨摩市町村文化財担当社会
伊藤公明1998『X字状把手付大型深鉢形土器の展開－八ヶ岳西南麓を中心として－』『八ヶ岳考古』平成9年度年報 北巨摩市町村文化財担当者会
平山惠一2000『山梨県における縄文時代中期終末の土器様相－曾利式編年と加曾利E式編年の対比から－』『八ヶ岳考古 平成11年度年報』北巨摩市町村文化財担当者会
北巨摩市町村文化財担当社会2003『北巨摩地域の曾利式土器（前篇）』『八ヶ岳考古』平成14年度年報 北巨摩市町村文化財担当社会
北巨摩市町村文化財担当社会2004『北巨摩地域の曾利式土器（後篇）』『八ヶ岳考古』平成15年度年報 北巨摩市町村文化財担当社会
日本考古学協会1984『シンボジウム縄文時代集落の変遷』
日本考古学協会昭和59年度大会資料
小坂隆司2001『集石遺構』『山梨県考古学協会誌』12 山梨県考古学協会
小菜一夫1999『遺構研究 集石遺構』『縄文時代』10 第3分冊 縄文時代文化研究会
保坂康夫2004『織群から集石へ－「詰める」から「覆う」調理法へ－』『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会

図 版

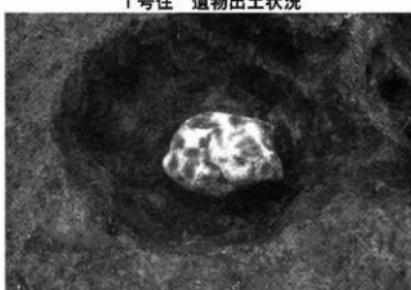
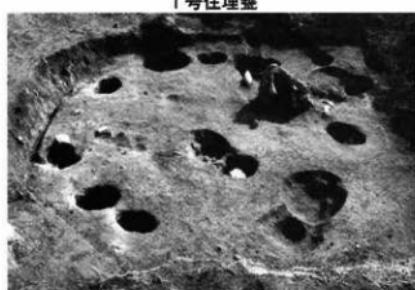
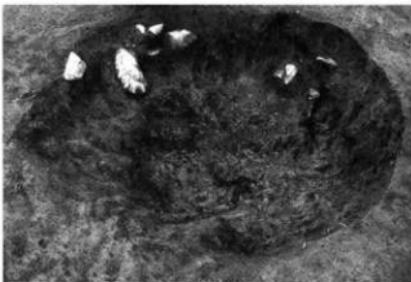


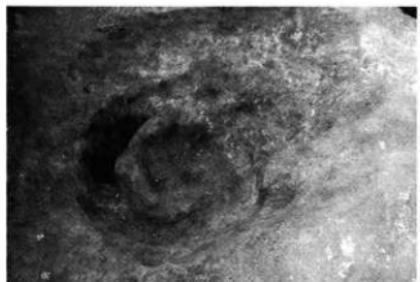
調査区全景(東から)



調査区全景(真上から)

図版2





3号住 炉跡



3号住 遺物出土状況①



3号住 遺物出土状況②



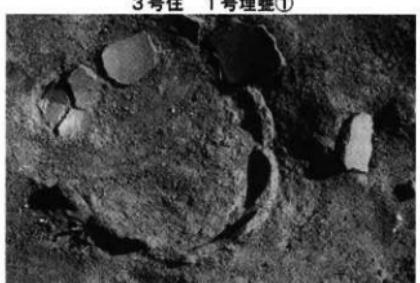
3号住 埋壺



3号住 1号埋壺①



3号住 1号埋壺②

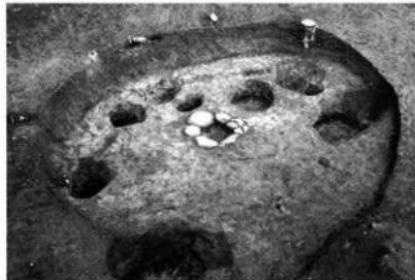


3号住 2号埋壺①



3号住 2号埋壺②

図版4



4号住居跡



4号住炉跡



5号住居跡



5号住炉跡



5号住 遺物出土状況①



5号住 遺物出土状況②



5号住 遺物出土状況③



5号住 遺物出土状況④



1号屋外埋甕



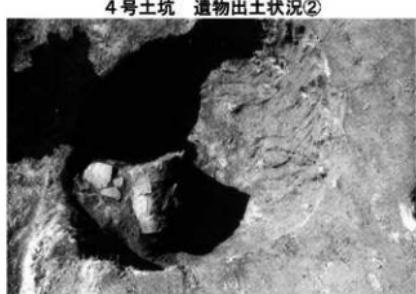
4号土坑 遗物出土状况①



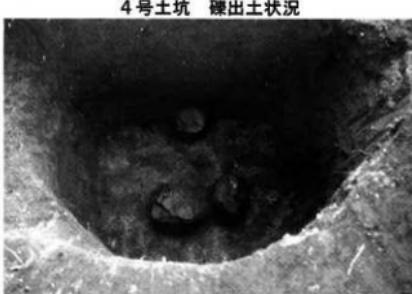
4号土坑 遗物出土状况②



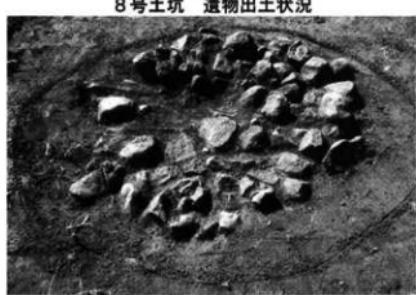
4号土坑 碟出土状况



8号土坑 遗物出土状况



11号土坑 遗物出土状况



1号集石



1号集石 底部

图版 6



1 Juz 1



1 Juz 3



1 Juz 22



1 Juz 2



1 Juz 10



1 Juz 17

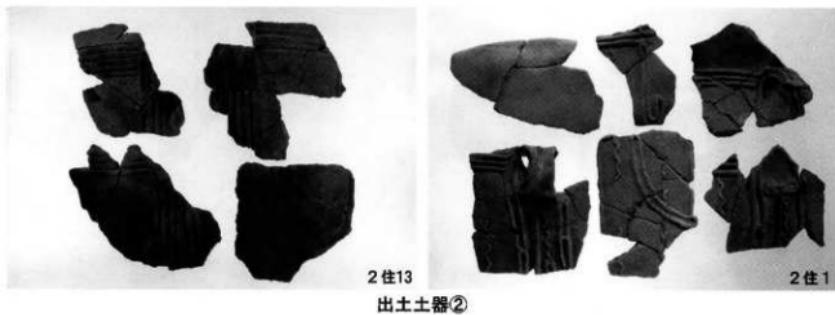
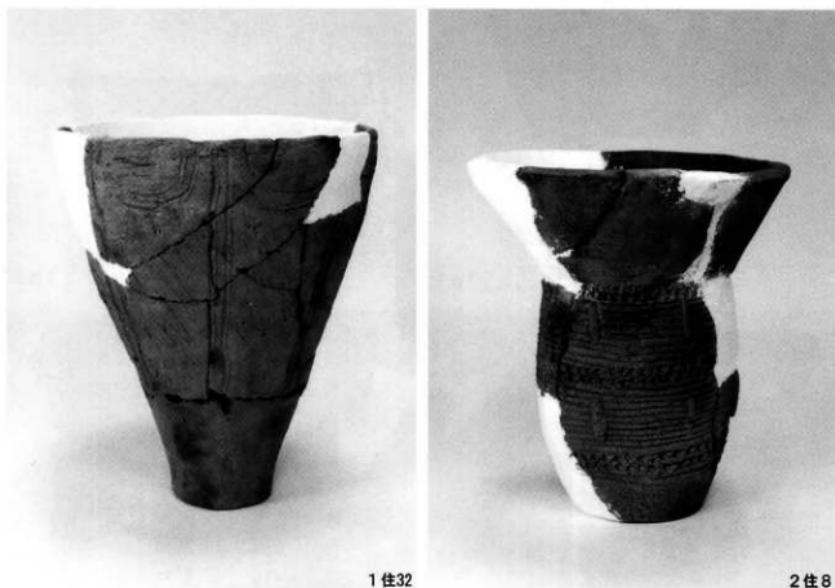
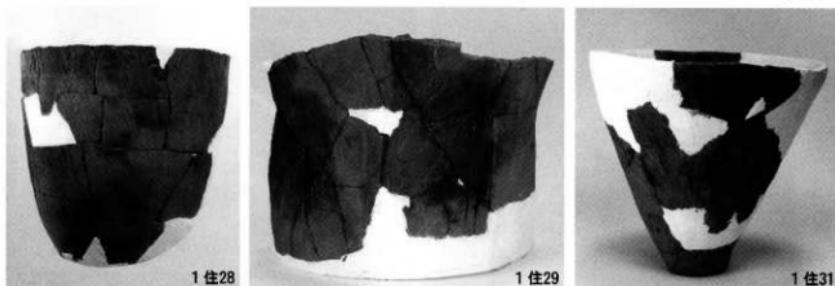


1 Juz 16



1 Juz 25

出土土器①



図版8



3住1



3住2



3住36



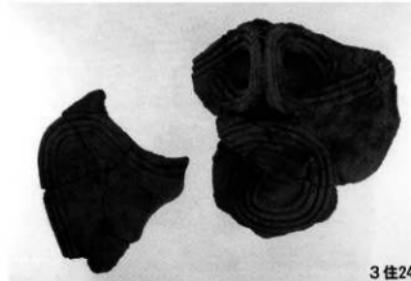
3住29



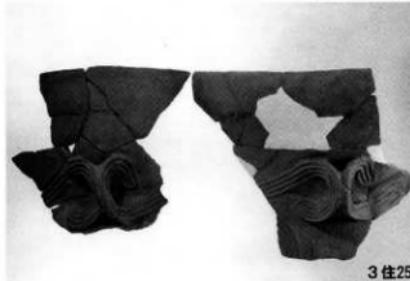
3住14



3住3

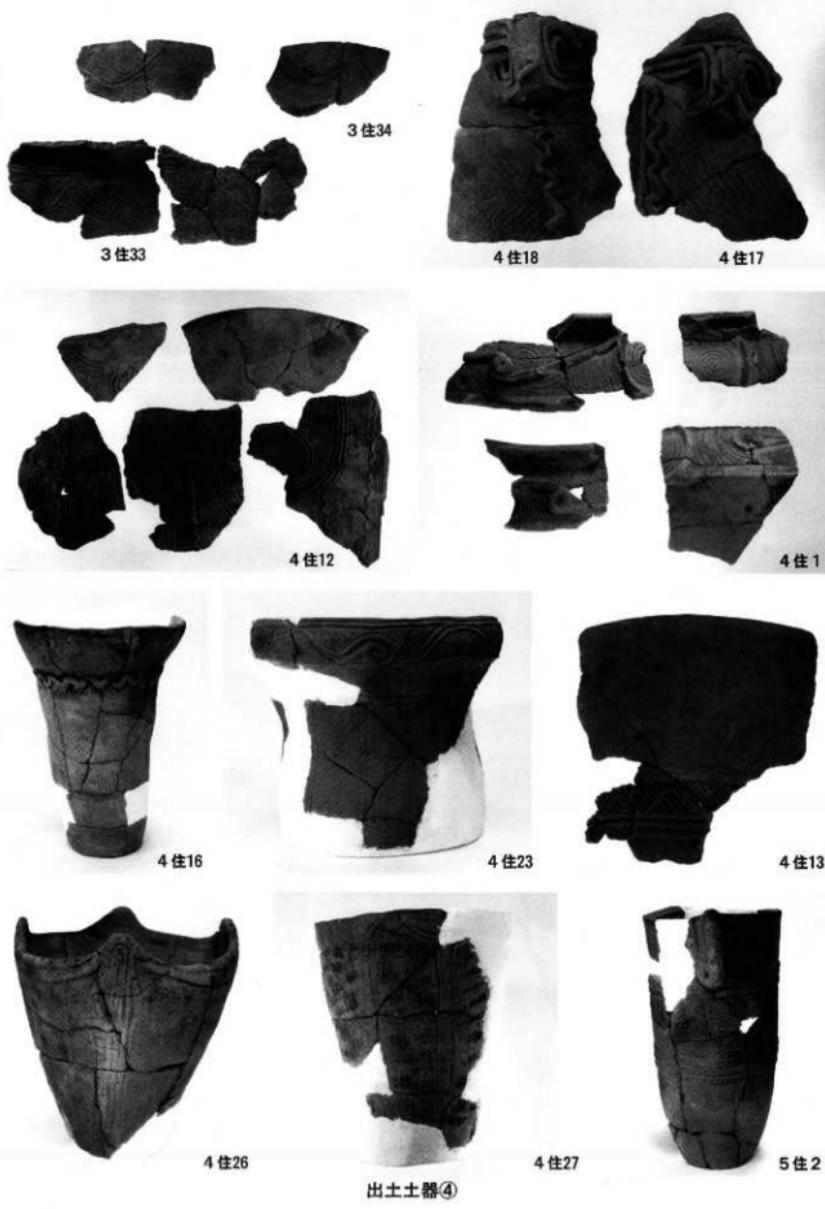


3住24



3住25

出土土器③





5住7



5住3



6住1
出土土器⑤



1号屋外埋甕1



4±1



8±1



9±6



11±1

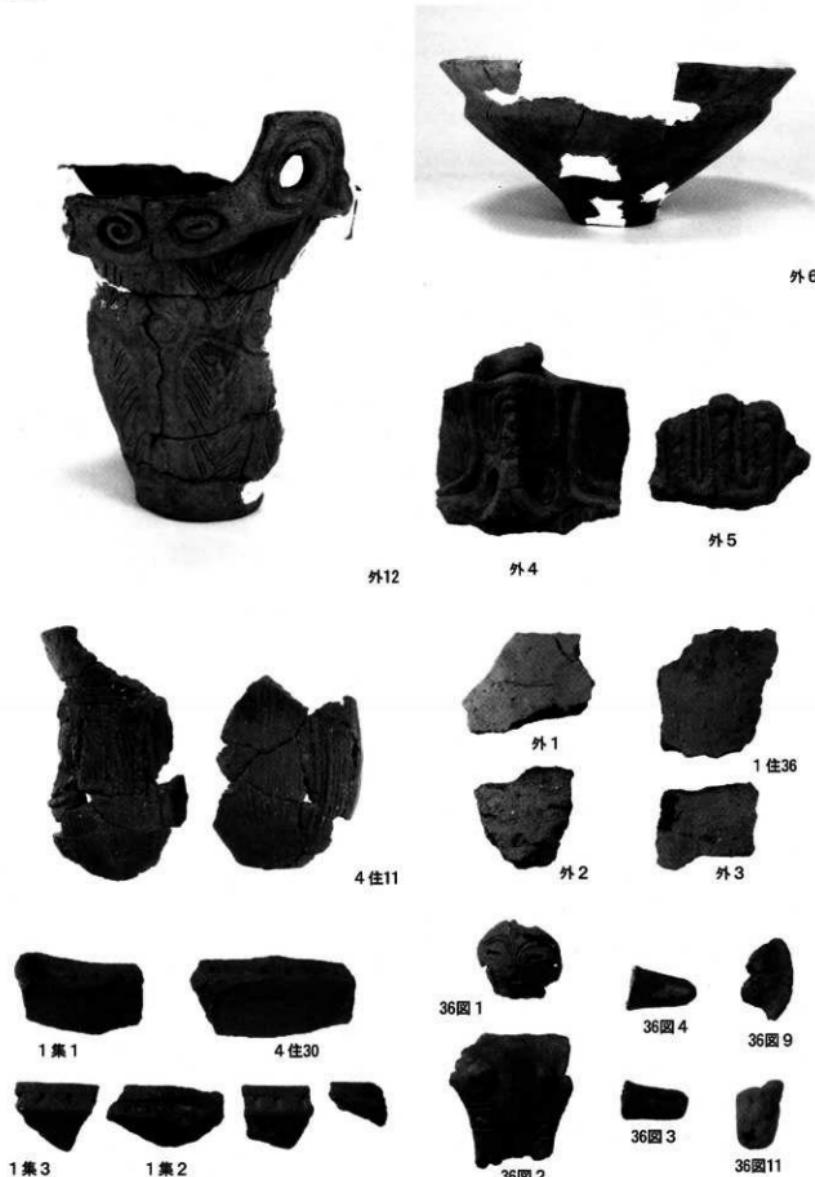


18±1
出土土器⑥

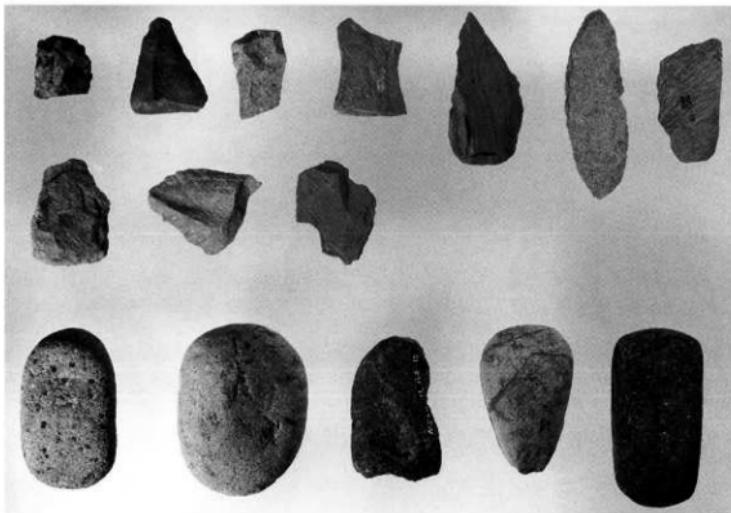


16±1

図版12



出土土器他⑦

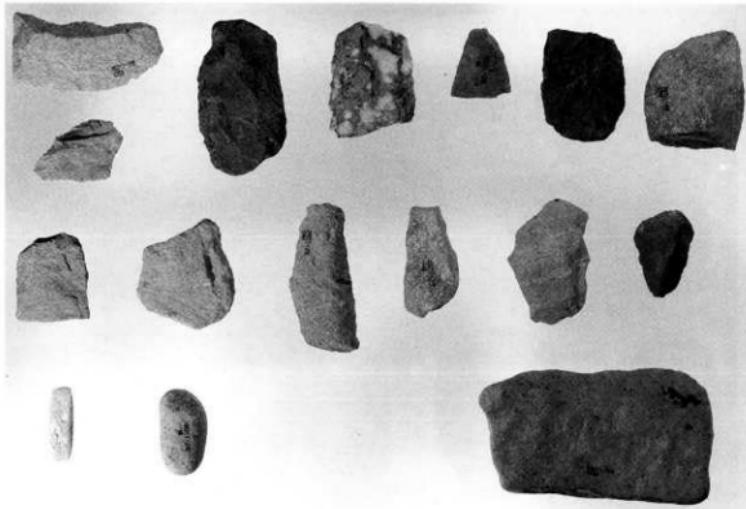


1号住居跡出土石器① S=1:3



1号住居跡出土石器② S=1:2

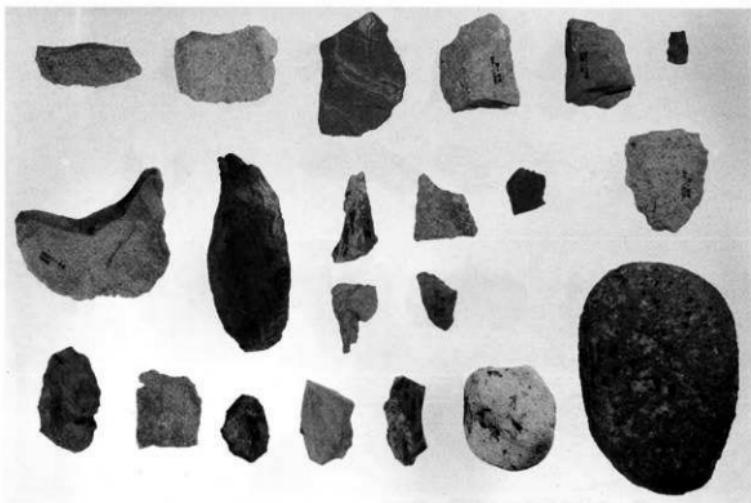
图版14



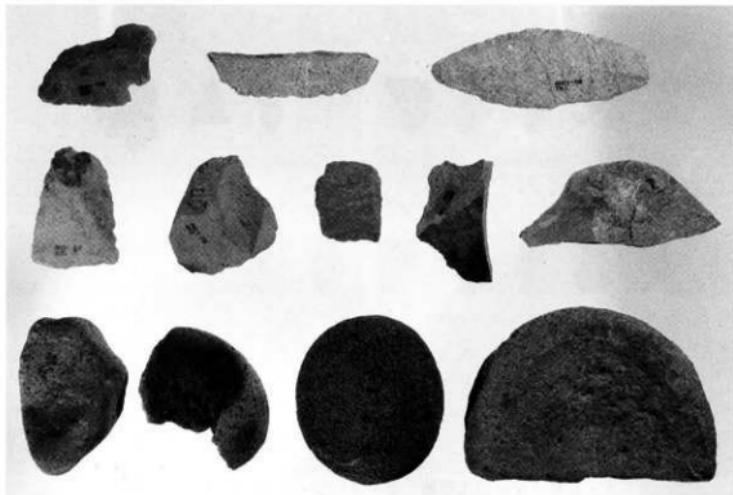
2号住居跡出土石器 S=1:3



3号住居跡出土石器 S=1:3

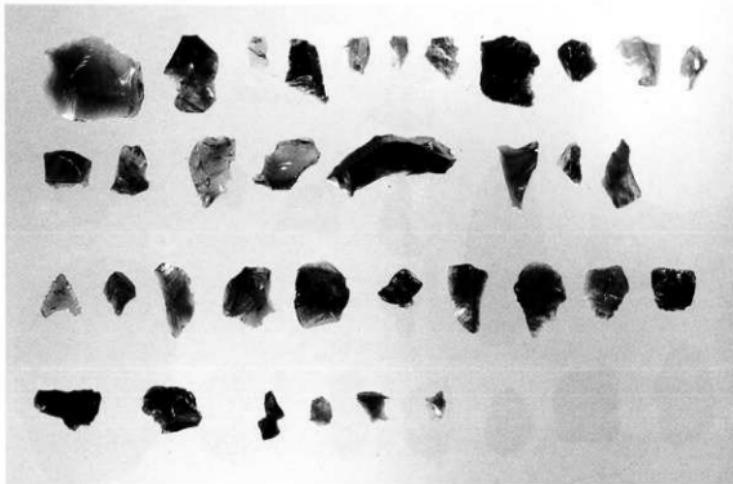


4号住居跡出土石器 S=1:3



5号住居跡出土石器 S=1:3

图版16



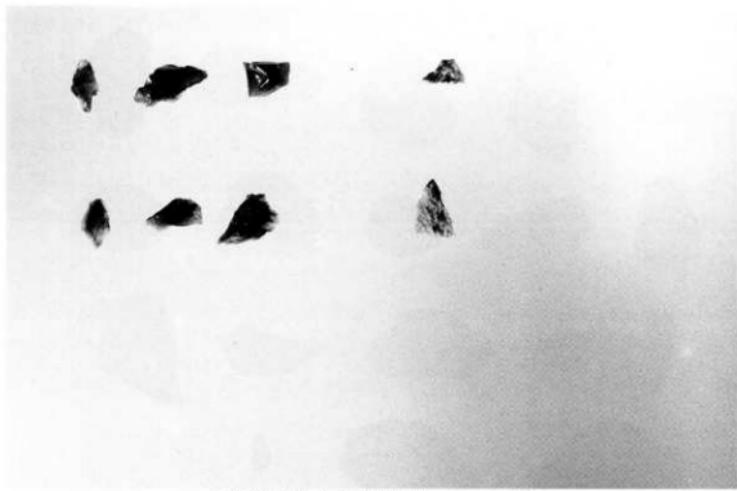
2·3号住居跡出土石器 S=1:2 上段2列 2号住居跡
下段2列 3号住居跡



4·5号住居跡出土石器 S=1:2 上段 4号住居跡
下段 5号住居跡



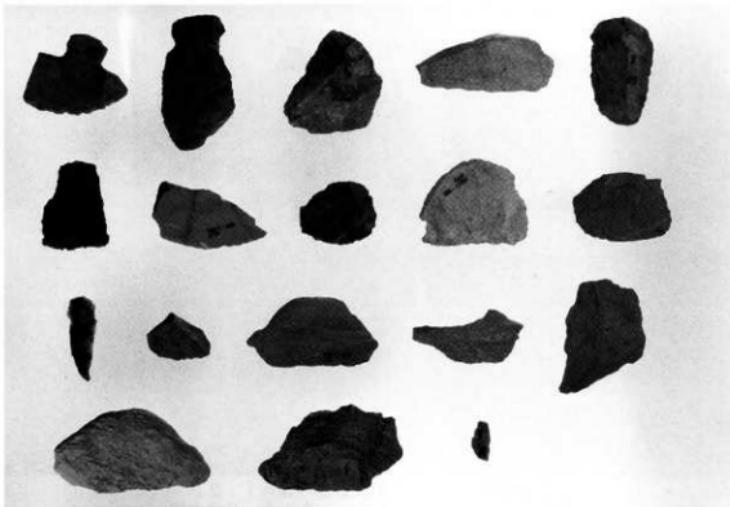
6号住居跡出土石器 S=1:3



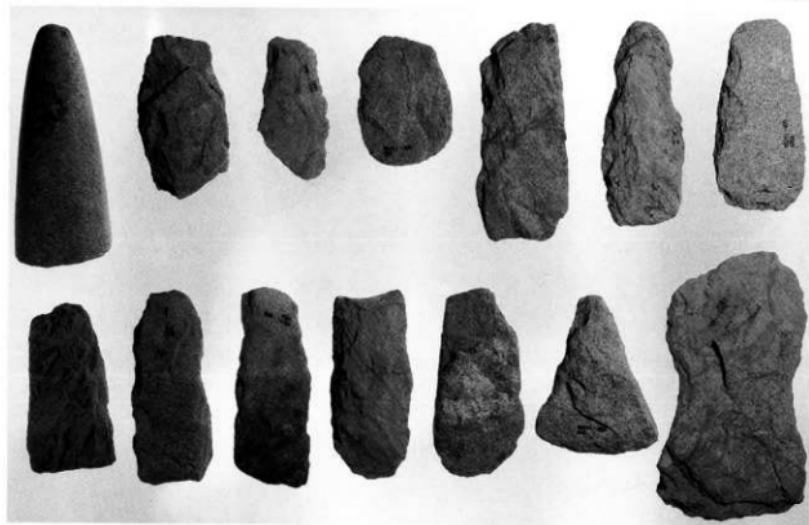
6号住居跡と土坑出土石器 S=1:2
上段左3点 6号住居跡 右1点 3号土坑
下段左3点 11号土坑 右1点 1号溝



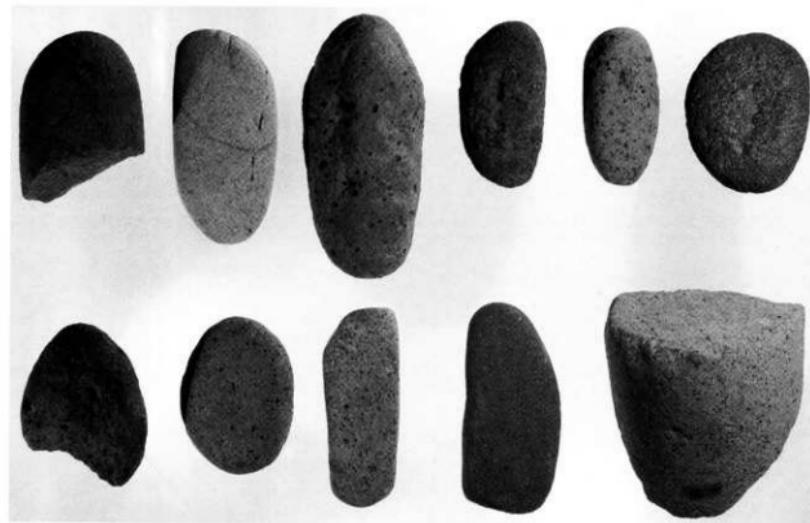
遺構外出土石器① S = 1 : 2



遺構外出土石器② S = 1 : 3



遺構外出土石器③ S = 1 : 3 (乳棒状磨製石斧は上段左端)



遺構外出土石器④ S = 1 : 3 (石棒は下段右端)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	かみじょうみやくぼいせき
書名	上条宮久保遺跡
副書名	中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化発掘調査
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	4
編著者名	村松佳幸
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1 TEL0551-42-1373
発行年月日	2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上条宮久保 遺跡	山梨県北杜市長坂 町長坂上条宇宮 久保	192091	4211	35° 49' 20"	138° 22' 25"	2003.11.17～ 2004.2.13	1,209	中山間活性化 ふれあい 支援農道整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上条宮久保遺跡	集落	縄文	竪穴住居跡6軒 集石土坑1基 上坑10基 屋外埋甕1基 溝1条	土器 石器 土偶 ミニチュア土器 土製円鏡	

要約	縄文時代中期後半の集落
----	-------------

北杜市埋蔵文化財調査報告第4集

上条宮久保遺跡

2005年3月25日 印刷

2005年3月31日 発行

編集・発行 北杜市教育委員会
〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1
TEL 0551-42-1111㈹

印 刷 鳴北印刷株式会社
〒408-0021 山梨県北杜市長坂町長坂上条2313
TEL 0551-32-3245

